

大友府内 9

都市計画道路六坊新中島線拡幅工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 (2)

2007 年 3 月

大分市教育委員会

序 文

本書は、大分市教育委員会が六坊・新中島線道路改良工事に伴い、大分市都市計画部街路建設課の依頼を受けて実施した中世大友城下町跡の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する大分市顕徳町周辺は、九州の有力戦国大名であった大友氏の拠点でありました。近年の発掘調査により、大友館跡、大友氏の菩提寺である万寿寺跡、にぎわい豊かなまちの様子などが次第に明らかになってきました。

本書に収録した府内町跡第25～27次調査区は、戦国時代の府内の町の様子を描いたとされる「府内古図」によると、「上町」・「中町」にあたる箇所と考えられています。

発掘調査では、絵図に描かれた南北街路と推定される道路跡をはじめとして、その両側に展開する「町屋」跡の一部が検出されました。具体的には井戸跡や柵跡や建物跡に関する柱穴、溝跡、祭祀土坑、町境に設けられたと思われる木戸跡、こみ捨て穴などであり、当時のまちの景観を窺い知る貴重な発見となりました。さらに、このような遺構からは中国を中心とする東アジア地域からもたらされた陶磁器など数多くの南蛮貿易で栄えた府内のまちの様子も明らかとなりました。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また学術研究資料として広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多くの方々の御理解と御協力をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

平成19年3月31日

大分市教育委員会

教育長 秦 政 博

例 言

1. 本書は、大分市教育委員会が大分市六坊北町において、都市計画道路六坊新中島線拡幅事業に伴い、平成15年～17年度に調査を実施した発掘調査報告書である。
2. 調査は、大分市都市計画部街路建設課（旧都市整備課）からの委託を受け、平成15年5月から大分市教育委員会が実施している。
3. 調査は、佐藤道文・五十川雄也、水町裕子・仲矢咲紀（文化財課嘱託）・山下美郷（現雲仙市教育委員会）・松尾聡（現岐阜県埋蔵文化財センター）・服部真和（現中津市教育委員会）が行っている。
4. 本書の執筆は、佐藤、五十川、水町が行ない、山下の助言を得た。
5. 本書の編集は、佐藤、五十川が行った。
6. 調査における遺構の写真撮影は、上に記す各調査担当者が行った。
7. 調査区の航空写真撮影は、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、佛九州航空がこれを行った。
8. 遺物写真撮影は、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、佛フォトワーク大分がデジタル写真撮影を行った。
9. 本書における遺構の実測は、上に記す各調査担当者が行った。
10. 本書における遺物の実測・拓影・製図作業は、調査担当者の他、木村藍子・古賀悦子・小野裕子・木山祥亜・梅田祐子・清辺尚子・大西千春（以上、大分市教育委員会文化財課臨時職員）、梓田貞臣・石川優生（別府大学学生）が行った。
11. 出土遺物・記録資料は、大分市顕徳町文化財資料室（大分市顕徳町3丁目2-43）に収蔵・保管している。
12. 発掘調査及び報告書作成に際して、下記の方々に指導・御助言を頂いた。
小野正敏（国立歴史民俗博物館）、河原純之（前川村学園女子大学）、後藤宗俊（別府大学）、坂井秀弥（文化庁文化財部記念物課）、渋谷忠章（大分県立歴史博物館）

凡 例

1. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N）である。また基準点の座標値は国土調査法第Ⅱ座標系による。
2. 本書に用いた遺構略号は、SB：孤立柱建物、SA：側廊・柱穴列、SE：非戸遺構、SD：溝状遺構、SK：土坑、ST：竪堀、SP：柱穴遺構、SX：性格不明遺構を表している。
3. 調査に関しては、県教育委員会との整合をはかるために、調査指導者会を開催し、調査の方法についても可能な限り共通理解の中で進捗させるように努めている。
4. 遺跡名に関しては、その構成要素である町屋部分を「中世大友府内町跡」とし、これに「大友氏館跡」を加えた遺跡総体を「中世大友城下町跡」と呼称する。

略記号「中世大友府内町跡」－「町」「大友館跡」－「館」

遺構の表記については、町	25-7	SD	001
↓	↓	↓	↓
中世大友府内町跡	調査次数	遺構名	遺構番号

5. 土師器の名称については古代以前ものと中世のものを識別するために前者については「土師器」、後者については「土師質土器」としている。また、文中及び表中で器形、調整の特徴から記号として「ハコ形」や「ロクロ目」という用語を使用している。
6. 本書では、確認された道路跡に対し第四南北街路という単語使用しているが、これは大分川から数えて4番目に位置する道路という意味で便宜的に付しただけであり、当時（中世）に使われていた名称ではない。
7. 土師・陶磁器の編年・分類は、以下のものを使用した。
森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究2』
上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究2』
小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究2』
栗岡 実 2000 「備前焼埋鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』
堀池潤一 1998 「大友領国内における京都系土師器の分布とその背景」『博多研究会紙第6号』
大宰府市教育委員会 2000 「大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編」
九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」
中世土器研究会 1995 「概説 中世の土器・陶磁器」
大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005 「中世大友城下町跡出土の土師質土器編年」『豊後府内Ⅰ』
大分市教育委員会 2005 「大友氏館跡北東部地区の遺構変遷と出土土師器」

「大分市市内遺跡確認調査概報－2004年度－」

目 次

第I章 はじめに	1	第IX章 中世大友府内町跡第25-9次調査	48
第1節 調査の概要	1	第1節 調査の状況	48
第2節 調査組織	1	第2節 層序について	48
第II章 遺跡の立地の環境	2	第3節 遺構・遺物	48
第1節 位置と環境	2	第X章 中世大友府内町跡第27次調査	53
第2節 歴史的環境	2	第1節 調査の内容	53
第3節 六坊新中島線と中世府内町	4	第2節 A区の調査	54
第III章 中世大友府内町跡第25次調査	7	第3節 B区の調査	59
第1節 遺跡の概要	7	第XI章 中世大友府内町跡第27-2次調査	75
第2節 層序など	7	第1節 調査の状況及び整理の方法	75
第3節 遺構・遺物	7	第2節 基本層位	75
第IV章 中世大友府内町跡第25-3次調査	17	第3節 遺構・遺物	75
第1節 調査の状況	17	第XII章 中世大友府内町跡第27-3次調査	84
第2節 層序など	17	第1節 調査の状況及び整理の方法	84
第3節 遺構・遺物	17	第2節 基本層位	84
第V章 中世大友府内町跡第25-4次調査	23	第3節 遺構・遺物	84
第1節 調査の状況	23	第XIII章 中世大友府内町跡第27-4次調査	96
第2節 層序など	24	第1節 調査の状況及び整理の方法	96
第3節 遺構・遺物	24	第2節 基本層位	96
第VI章 中世大友府内町跡第25-5次調査	26	第3節 遺構・遺物	96
第1節 調査の状況	26	第XIV章 中世大友府内町跡第27-5次調査	108
第2節 層序など	26	第1節 調査の状況及び整理の方法	108
第3節 遺構・遺物	27	第2節 基本層位	108
第VII章 中世大友府内町跡第25-7次調査	29	第3節 遺構・遺物	108
第1節 調査の状況	29	第XV章 中世大友府内町跡第27-6次調査	114
第2節 層序など	29	第1節 調査の状況及び整理の方法	114
第3節 遺構・遺物	29	第2節 基本層位	114
第VIII章 中世大友府内町跡第25-8次調査	34	第3節 遺構・遺物	114
第1節 調査の状況	34	第XVI章 中世大友府内町跡第27-7次調査	119
第2節 層序など	34	第1節 調査の状況及び整理の方法	119
第3節 遺構・遺物	34	第2節 基本層位	119
1 町25-8次A区	34	第3節 遺構・遺物	119
2 町25-8次B区	39		
3 町25-8次C区	41		

挿図・表目次

第II章

第1図	遺跡分布図	2
第2図	都市計画図	5
第3図	府内復原想定図 2006	6

第III章 中世大友府内町跡第25次調査

第4図	町25SA095平面図・断面図	7
第5図	遺構配置図 (S=1/120)	8
第6図	町25SD015・020・025・030・035・040・050・055平面図 (S=1/50)、土層図 (S=1/60)	9
第7図	町25SD015・020・025・030・035・040・050出土遺物 (S=1/4)	10
第8図	町25SK037平面図・断面図 (S=1/60)	11
第9図	町25SK090平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/4)	12
第10図	町25次その他の遺構出土遺物 (S=1/4)	12
第11図	町25次表層遺物 (S=1/4)	13

第IV章 中世大友府内町跡第25-3次調査

第12図	町25-3次遺構配置図 (S=1/80)	17
第13図	町25-3SA050平面図・断面図 (S=1/40)	18
第14図	町25-3SD006・013・041平面図・断面図 (S=1/60)	18
第15図	町25-3SD006・013出土遺物 (S=1/4)	19
第16図	町25-3SK001平面図・断面図 (S=1/100)	20
第17図	町25-3SK001出土遺物 (S=1/4)	20
第18図	町25-3SK003・040平面図・断面図 (S=1/40)	20
第19図	町25-3SP007・031、灰褐色土出土遺物 (S=1/4)	20

第V章 中世大友府内町跡第25-4次調査

第20図	町25-4次遺構全体図・東壁・西壁土層図 (S=1/60)	23
第21図	町25-4SK006、表層遺物 (S=1/4)	24
第22図	町25-4SX010平面図・断面図 (S=1/40)	24

第VI章 中世大友府内町跡第25-5次調査

第23図	町25-5次遺構配置図 (S=1/200)、土層図 (S=1/80)	26
第24図	町25-5次出土遺物 (S=1/3)	27

第VII章 中世大友府内町跡第25-7次調査

第25図	町25-7次A、B区遺構配置図 (S=1/200)、土層模式図 (S=1/40)、土層図 (S=1/80)、町25	
------	---	--

-7ASD001 (S=1/80)、町25-TASK002

(S=1/40)、町25-TBS004 (S=1/80) ... 30

第26図 町25-7A区遺構全体図 (S=1/60) 31

第27図 町25-7次A、B区出土遺物 (S=1/3) ... 32

第VIII章 中世大友府内町跡第25-8次調査

第28図	町25-8遺構配置図 (S=1/200)	35
第29図	町25-8A区遺構全体図・土層図 (S=1/80)、町25-8ASD014平面図・断面図・土層図 (S=1/40、1/80)	36
第30図	町25-8A区各遺構及び表土出土遺物 (S=1/3)	37
第31図	町25-8ASK023 (S=1/8)、茶褐色粘質土 (S=1/3)	38
第32図	町25-8B区遺構全体図 (S=1/80)、SD02、SX016土層模式図 (S=1/40)	40
第33図	町25-8B区各遺構及び各土層・表土出土遺物 (S=1/3)	41
第34図	町25-8C区遺構全体図 (S=1/80)、SE010、SX009、SD002土層図 (S=1/40)	42
第35図	町25-8C区各遺構及び暗茶灰土出土遺物 (S=1/3)	43

第IX章 中世大友府内町跡第25-9次調査

第99図	町25-9次遺構全体図 (S=1/50)	48
第36図	町25-9次柱穴遺構出土遺物 (S=1/4)	48
第37図	町25次～町25-8次 (5、7区除く) 調査区遺構全体図 (S=1/300)	51～52

第X章 中世大友府内町跡第27次調査

第38図	町27-1次調査区配置図	53
第39図	「想定復原図」の調査区位置図	53
第40図	A調査区遺構配置図と土層断面図 (S=1/50)	54
第41図	A調査区溝跡検出状況 (S=1/50)	55
第42図	A調査区溝跡出土遺物 (S=1/3)	55
第43図	A区柱穴・土坑検出状況 (S=1/50)	56
第44図	S5出土遺物実測図 (S=1/3)	56
第45図	A調査区表層状況復原検出状況 (S=1/50)	57
第46図	溝跡遺構出土遺物 (S=1/3)	57
第47図	B区遺構配置図と土層断面図 (S=1/60)	58
第48図	B区1面目遺構検出状況 (S=1/50)	59
第49図	B区1面目 (SF050) 出土遺物実測図① (S=1/3・1/4)	60
第50図	B区1面目 (SF050) 出土遺物実測図② (S=1/3・1/2)	61
第51図	B区2面目遺構検出状況 (S=1/50)	61
第52図	S052・100遺構実測図 (S=1/30)	62

第53図	SK052 出土遺物実測図① (S=1/3)	63	(S=1/3)	98
第54図	SK052 出土遺物実測図② (S=1/2・1/3・1/4)	64	第80図	町27-4SD305・315・345・360平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)
第55図	S100 出土遺物実測図 (S=1/3)	65	第81図	町27-4SD355平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)
第56図	B区3面目遺構検出状況 (S=1/50)	65	第82図	町27-4SX316・317・334・342・417平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)
第57図	S062とS54・55・56遺構実測図 (S=1/30)	66	第83図	町27-4SF302土層図 (S=1/80)、路床材分布図 (S=1/200)、出土遺物 (S=1/3)
第58図	SK062と第3面目出土遺物実測図 (S=1/3・1/4)	66	第84図	町27-5次遺構配置図 (S=1/200)
第59図	B区4面目遺構検出状況 (S=1/50)	67	第85図	町27-5次遺構全体図 (S=1/80)、SA690 (S=1/60)、SD500、SK480、451、499 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)
第60図	B区4面目遺物実測図 (S=1/3・1/4)	68	第86図	町27-5SF433、SX445平面図・断面図 (S=1/80)、調査区北壁土層図 (S=1/60)、出土遺物 (S=1/3)
第61図	B区5面目遺構検出状況 (S=1/50)	69	第87図	町27-6次遺構配置図 (S=1/200)、遺構全体図 (S=1/80)、調査区北壁土層図 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)
第62図	5面目出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)	70	第88図	町27-6SD516・517・519・520、SX510平面図・断面図 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)
第63図	B区6面目遺構検出状況 (S=1/50)	71	第89図	町27-7次遺構配置図 (S=1/200)、各遺構出土遺物 (S=1/3)
第64図	S85 出土遺物実測図 (S=1/3)	71	第90図	町27-7次遺構全体図 (S=1/80)
第65図	その他の出土遺物実測図 (S=1/3)	71	第91図	柱穴列配置図 (S=1/300)、町27-7SA650 (S=1/80) 出土遺物 (S=1/3)
第X I章	中世大友府内町跡第27-2次調査		第92図	町27-7SD545・550 (S=610) 平面図・断面図、土層図 (S=1/40、1/80)、出土遺物 (S=1/3)
第66図	町27-2次遺構全体図 (S=1/80)、出土遺物 (S=1/4)	76	第93図	町27-7SX630平面図・断面図・土層図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)
第67図	町27-2SD110・町27-2SK140平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/4)	77	第94図	町27-7SX556平面図・断面図 (S=1/40、1/80)
第68図	町27-2SX144平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物 (S=1/3)	79	第95図	町27-7SX600・602平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)
第69図	町27-2調査区北壁土層図 (S=1/80)、町27-2SF115出土遺物 (S=1/4)、道路状遺構・竪地層分布図 (S=1/200)	81	第96図	町27-7SA655・660平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物 (S=1/3)
第X II章	中世大友府内町跡第27-3次調査		第97図	調査区北壁、西壁土層図 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)
第70図	遺構配置図 (S=1/200)、遺構全体図 (S=1/80)	85	第98図	町27-1次～7次遺構配置図 (S=1/200)
第71図	柱穴遺構出土遺物 (S=1/4)	86		
第72図	町27-3SE270・296平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物 (S=1/4、1/3)	87		
第73図	町27-3SD280・285・300平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)	88		
第74図	町27-3SD285出土遺物 (S=1/3)	89		
第75図	町27-3SX241・290・294 (S=1/20)、291・292 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/4、1/3)	90		
第76図	道路状遺構掘り下げ段階略測図 (S=1/200)、調査区北壁土層図 (S=1/80)、出土遺物 (S=1/4)	91		
第77図	町27-3SX231・232・236出土遺物 (S=1/4)	92		
第X III章	中世大友府内町跡第27-4次調査			
第78図	町27-4次遺構配置図 (S=1/200)、遺構全体図 (S=1/80)、柱穴遺構出土遺物 (S=1/3)	97		
第79図	町27-4SA665・670・675・680配置図・平面図・断面図 (S=1/160、1/60)、出土遺物			

表 目 次

〔道橋台帳〕

町 25 次道橋台帳①	15
町 25-3 次道橋台帳①	21
町 25-4 次道橋台帳①	25
町 25-5 次道橋台帳①	28
町 25-7 次道橋台帳①	33
町 25-8 次 A 区道橋台帳①	44
町 25-8 次 B 区道橋台帳①	45
町 25-8 次 C 区道橋台帳①	45
町 25-9 次道橋台帳①	49
町 27-2 次道橋台帳①	82
町 27-3 次道橋台帳①	93
町 27-3 次道橋台帳②	94
町 27-4 次道橋台帳①	105
町 27-4 次道橋台帳②	106
町 27-5 次道橋台帳①	112
町 27-6 次道橋台帳①	118
町 27-7 次道橋台帳①	132
町 27-7 次道橋台帳②	133

〔道物観察表〕

町 25 次道物観察表①	13・14
町 25-3 次道物観察表①	22
町 25-4 次道物観察表①	25
町 25-5 次道物観察表①	28
町 25-7 次道物観察表①	33
町 25-8 次 A 区道物観察表①	46
町 25-8 次 B 区道物観察表①	46
町 25-8 次 C 区道物観察表①	47
町 25-9 次道物観察表①	49
町 27 次道物観察表①	73
町 27 次道物観察表②	74
町 27-2 次道物観察表①	83
町 27-3 次道物観察表①	95
町 27-4 次道物観察表①	107
町 27-5 次道物観察表①	113
町 27-6 次道物観察表①	118
町 27-7 次道物観察表①	134

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査の概要

本書は昨年度に引き続き、都市計画道路六坊新中島線拡幅事業に伴う発掘調査の記録を収録したものである。掲載している遺跡は中世大友府内町跡第25次・25-3～5次、25-7～9次、町27次～27-7次調査（以下、「町25次・・・」とする。）である。これらの調査地点は、「戦国時代の府内復原想定図」によると町25次地区は、推定上町・ノコギリ町、町27次地区は推定妙厳寺、南北街路周辺地に該当する。

町25次地区では、屋敷地に伴うものと思われる柱穴列や区画溝等が確認され、町27次地区では、16世紀後半～末段階に造られた南北街路、その下位からは15世紀～16世紀後半までの建物跡や溝状遺構、柱穴群が見つかっている。今回の報告では、中世府内町の最西部にあったとされる南北街路が、想定された地点で発見されたことが最大の成果といえる。

第2節 調査組織

調査主体 大分市教育委員会

調査責任者 大分市教育長 秦 政博

平成15年度

文化財課

課 長	帯刀 修一
参 事	玉永 光洋
課長補佐兼	
文化財係長	巖崎 和夫
専 門 員	塔鼻 光司
調査担当 主 事	佐藤 道文
事 務 員	五十川雄也
嘱 託	松尾 聡
嘱 託	吉本 明弘

平成16年度

文化財課

課 長	足立 昌人
参 事	玉永 光洋
課長補佐兼	
文化財係長	巖崎 和夫
専 門 員	塔鼻 光司
専 門 員	坪根 伸也
調査担当 主 事	佐藤 道文
主 事	五十川雄也
嘱 託	松尾 聡
嘱 託	服部 真和

平成17年度

文化財課

課 長	佐藤 功
参 事	玉永 光洋
課長補佐兼	
文化財係長	巖崎 和夫
専 門 員	塔鼻 光司
専 門 員	坪根 伸也
調査・整理担当	
主 事	佐藤 道文
主 事	五十川雄也
嘱 託	松尾 聡

平成18年度

文化財課

課 長	佐藤 功（～10月）
課 長	玉永 光洋（10月～）
参 事	玉永 光洋（～10月）
歴史資料館館長	
兼 参 事	巖崎 和夫
文化財係長	塔鼻 光司
専 門 員	坪根 伸也
整理担当 主 事	佐藤 道文
	五十川雄也

第II章 遺跡の立地と環境

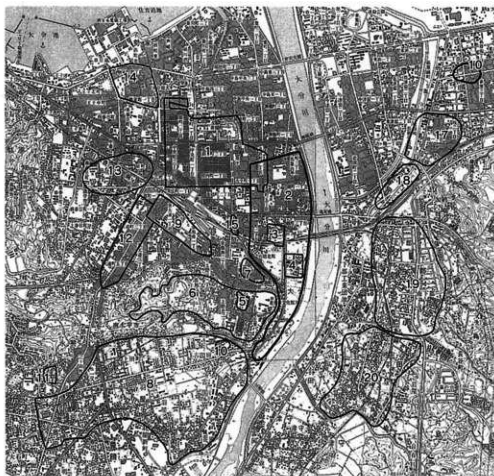
第1節 位置と環境

遺跡が形成される大分平野は、九州の北東部に位置し、その北側は瀬戸内海西端の別府湾に面しており、地形的にも九州の玄関口としての役割を担っている。周辺は、山地に囲まれており、東側は結晶片岩からなる佐賀国山地、南側（中部）は霊山山地、西側は鶴見岳、由布岳などの第四紀火山列が聳え、その中には、ニホンザルの生息地として天然記念物に指定される高崎山が含まれる。大分平野には、大野川・大分川の大きく2つの大河川が流れ、それぞれの河口部には市街地が広がっている。これらは三角州の地形であり、それ故、大分平野はそれぞれの河川がなす三角州が主体となる。

中世大友城下町跡は、大分市中心部を流れる大分川の河口付近の左岸の堆積面にあり、標高約4～5mの沖積低地上に立地している。遺跡は、東は大分川、南は龍ヶ鼻と呼ばれる上野台地の先端部を境とし、北側は、一部近世の府内城・城下町と重複する。

第2節 歴史的環境

中世大友城下町跡を含む大分平野には数多くの遺跡や文化財が点在している。以下時代順に概観してみたい。



1 府内城・城下町	2 中世大友城下町跡	3 大友館跡	4 将山万寿寺跡
5 上野大友館	6 上野遺跡群	7 若宮八幡宮遺跡	8 古国府遺跡群
9 大道遺跡群	10 岩屋寺遺跡	11 永興遺跡	12 大道条里跡
13 東田家遺跡	14 沖派遺跡	15 金池南遺跡	16 松平忠直萩原館推定地
17 牧遺跡	18 牧六分遺跡	19 下部遺跡群	20 羽田遺跡

第1図 調査区周辺遺跡分布図

<旧石器、縄文時代>

明確な状況で遺跡は発見されていないが土器破片が出土しているため、上野台地上や周辺部に存在した可能性はある。

<弥生時代>

弥生時代の遺跡は、上野台地とその南側の古国府地区、そして大分市の西部を流れる住吉川（毘沙門川）流域に展開している。古国府地区では、花園遺跡や石明遺跡などから弥生時代中期、後期の遺構・遺物が断片的に確認されている。古国府遺跡群・上七曾子遺跡で出土した土器は、弥生時代前期初頭から中葉に比定されるもので、下城式土器が成立する以前の大分平野の土器組成をする上で重要な資料といえる。毘沙門川流域に展開する東田室遺跡では、弥生時代前期末から中期初頭にかけての遺構が確認されている。第5次調査においては、大分平野に流通する下城式土器と西部瀬戸内系土器の特徴を併せ持った土器がみられ、当時の交流形態を知る上で貴重な資料と成り得よう。上野台地では、大分市美術館の建設に伴って調査された上野遺跡群がある。この遺跡では、弥生時代中期に比定される庵原（V字溝）、竪穴住居跡、内部空間に掘立柱建物を有する方形周溝遺構などが発見されている。特に、方形周溝遺構からは鉄製ヤリガンナや完形の小型鉢形土器などが出土しており、日常空間とはやや異なる場であることが考えられる。

<古墳時代>

大分県周辺総合整備事業に伴って発見された南金池遺跡が挙げられる。この遺跡では、亀川上層式に位置づけられる複合口縁蓋、体部上位に波状紋を有する布留式系甕が出土している。大分駅の南側に広がる大道遺跡群では、布留式古段階に位置付けられる土器群の出土が顕著である。第20次調査では、溝状遺構の中に大量の布留式系甕などが廃棄されており、5次、8次調査においても、完存した形状で出土した土坑や溝跡が検出されている。特に、5次調査の土坑からの出土状況を見る限り単純な廃棄とは認め難く、祭祀等の可能性が指摘される。大分駅の南側から上野台地北側裾部にかけて、大規模な集落が存在していたと考えられる。東田室遺跡3次調査では、当該期の竪穴住居跡とそれを区画する溝状遺構が確認されている。この溝状遺構からは布留式系土器を含む古墳時代前期に該当する遺物が大量に出土しており、この地に大規模な集落が存在した可能性が指摘される。また、この遺跡からは、壺形土器の胴部から体部にヘラ描き紋様を有する絵画土器が出土している。さらに同4次～11次調査では布留式系新相段階にあたる遺構・遺物が認められ、その中で、完形に復元できる舟形土製品が見つかったことは（第11次調査）当該遺跡を評価する上で注目される。これらの状況から、古墳時代初頭から前期にかけての遺跡は、主に沿岸部周辺で確認されることが分かる。さらに、布留式系や山陰系、畿内系など非在地的特徴をもった土器群が主体となっており、畿内、山陰地域との関係を有した集落が形成されていたことが推測される。

若宮八幡宮遺跡第1次調査では、大分市で初めて確認された玉類製品製作関連遺構がある。これに該当する3棟の竪穴建物跡からは、素材である蛇紋岩や緑泥片岩、穿孔の道具である石針、玉砥石、平砥石、台石や未製品などの玉類製品製作関連遺物が出土している。素材から製作にいたるまで、ほぼ連続して連れる遺構として重要な資料であるといえる。

<古代>

豊後国府が形成される前後の時期の遺跡についてふれる。まず、豊後国府の推定地は、従来「古国府」という地名が存在する上野台地南側の沖積低地上が想定されていたが、近年の調査でその仮説について変動が生じている。しかし、この地域は官衙的エリアであることは確実である。中でも羽屋井戸遺跡では、7世紀後半に位置付けられる大規模な掘立柱建物群、欄干等が見つかった。これら掘立柱建物は規則的に配置され、身舎面積が70～100㎡を有し、特徴及び時期から評価もしくはそれに関連する施設であることが想定されている。但し、この古国府地区では8世紀以降の主だった遺跡は発見されていない。それは、官衙主要部が台地上及びその周辺に移っていった可能性が考えられる。それと関連するのが台地上では8世紀以降の官衙的要素をもった遺跡が顕著になる。大分県教育委員会が調査した上野竜王畑遺跡では7世紀後半から10世紀にかけての遺構群が

見つかっている。中でも9世紀代の遺構群は注目され、築地解及びそれを構成する溝状遺構、大型建物遺構が検出されている。遺構、遺物の特徴などから国司館の一部であることが推測されている。台地北側では、当該期の遺跡として上野町遺跡、南金池遺跡が挙げられる。上野町遺跡では、8世紀末～9世紀代と考えられる土器群が大量に出土している。遺物には、越州窯系青磁碗、長沙窯系黄褐釉彩水注、円面碗なども認められる。特に長沙窯系黄褐釉彩水注は大分県内で初出の事例であり、全国的にも例は少なく、遺跡とその周辺の環境の考察を行うにあたって重要な場であるといえよう。

第3節 六坊新中島線と中世府内町

時代が中世へと転換すると、当該地域は大友氏支配域の中心部へと変化する。大友氏がこの地の支配権を掌握するのは13世紀になってからである。具体的には大友氏が豊後に下向するのは3代の頼泰になってからといわれている。頼泰は、仁治三（1242）年に「新御成敗状」28ヶ状を、寛元二（1244）年には、「追加」16ヶ状を制定し、豊後国を治める上での基本を定めている。

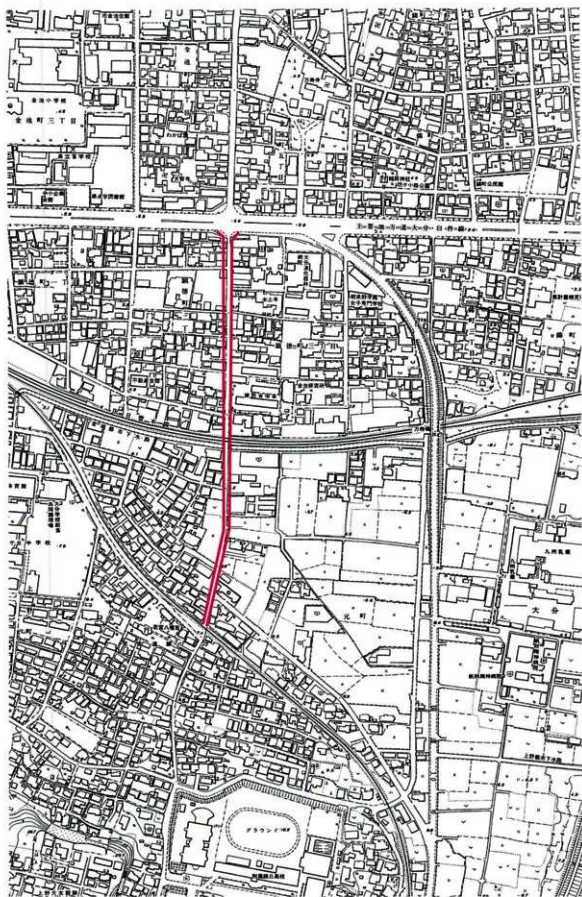
中世大友府内町跡の発掘調査では、大友入国段階の遺構は明確には発見されていない。但し、古国府地区に注目される遺跡がある。上野台地の南側に位置する石明遺跡では、13世紀代の遺構群（区画、ピット）が確認され、池状を呈す遺構も看取されることから、入国段階の守護館の可能性も考えられる。

大友氏は大友義領（宗麟）・義統の時代になると最盛期を迎える。近年の調査では、16世紀後半から末段階（島津争乱前）になると、府内町はメインストリートである大友館の東側の南北街路の整備を始めとして、大規模な「まちづくり」が行なわれていることが分かった。その都市景観を描いたとされるのが、「府内古絵図」である。

<古絵図と調査対象地>

平成15年度から実施している六坊新中島線に伴う発掘調査エリアは、「府内古絵図」にある中世府内町の最西部に位置する南北街路及びその周辺地にある町屋部分に該当する。この街路沿いには、妙嚴寺、祐向寺、大智寺が軒を並べ、さながら寺町の様相を演じた。また、このように府内町には禅宗系の寺院が多く見られることも一つの特徴と言える。

ただ、そのような中、1551年にザビエルが豊後を訪れたことを契機に府内町にキリスト教が広まる。そして、府内教会（ダイウス堂）、府内病院、コレジオなどのキリスト教関連施設が築かれるようになり、西洋文化発祥の地として認知されるようになる。調査は、現在の道路を中心にして、東側を中世大友府内町跡第27次、西側を中世大友府内町跡第26次、日豊本線を挟んで南側を中世大友府内町跡第25次として行なっている。27次地区では、中世府内町の最西部の南北街路の確認、26次地区ではキリシタン関連施設及びそれに付随する施設の発見、25次地区は、一説では武家地エリアとも言われており、その様子を窺い知ることを目的としている。現段階では、これらの一部と考えられる遺構が見つかるが、その全容を明かすまでには至っていない。継続的な確認調査が必要と思われる。



第2図 都市計画図

第三章 中世大友府内町跡第25次調査

第1節 遺跡の概要

中世大友府内町跡第25次調査区（以下、「町25次」とする。）は、「戦国時代の府内復原想定図」（以下、「復原想定図」とする。）や戦国時代末期の府内の町を描いたとされる「府内古絵図」によると、上町・ノコギリ町に近接し、また、南に約130m離れた地点には大友氏の氏神を祀る宮宮八幡宮が位置している。

周辺の調査では、戦国期に比定される道路跡やキリシタン関連施設の一部と思われる推定キリシタン墓が発見され、報告する調査区に隣接する町25-2・6次調査区（「大友府内8」平成17年度報告書刊行）では、15～16世紀代の掘立柱建物跡や井戸跡、溝状遺構等が確認されている。この地点は、推定祐向寺周辺地に該当し、調査で出土した遺物の中には土師質埴が多く認められることから関連性に注目される。

今回の調査では、戦国期の溝状遺構やピット群が検出されている。溝状遺構は複数回造り替えが行われており、その位置関係から、中世府内町の最南西部を区画する施設の一部と考えられる。

第2節 層序など

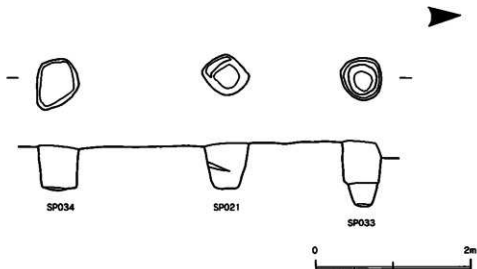
調査以前は田地であったことから、約15～20cmの耕作土層があり、その耕作層を除去すると、遺構検出面である黄褐色土層が確認され、その下位には古墳時代の遺物を含む黒灰褐色粘質土があり、以下無遺物層である黄灰色砂質土、青灰色砂質土の順に堆積する。黒灰褐色粘質土は比較的広範囲で見ることができ、どの地点においても遺構が検出されないことから、現段階では遺物包含層と判断している。

第3節 遺構・遺物

遺構は、調査区南側に確認した東西方向に延伸する溝状遺構と土坑、柱穴群及びピットである。

(1) 柱穴列（第4図）

町25SA095（SP021・033・034） 調査区中央東壁付近で検出し、現状では2箇所確認した。周辺の状況から東側へと展開するものと推測される。柱間は1.8m～2.2mで、柱穴径はどれも約0.5m、深さは約0.6～0.9mとしっかりとした掘り方をもつ。主軸はほぼ真北にある。柱穴跡からは土師器の小破片が出土したのみで時期を特定できるものは認められなかった。

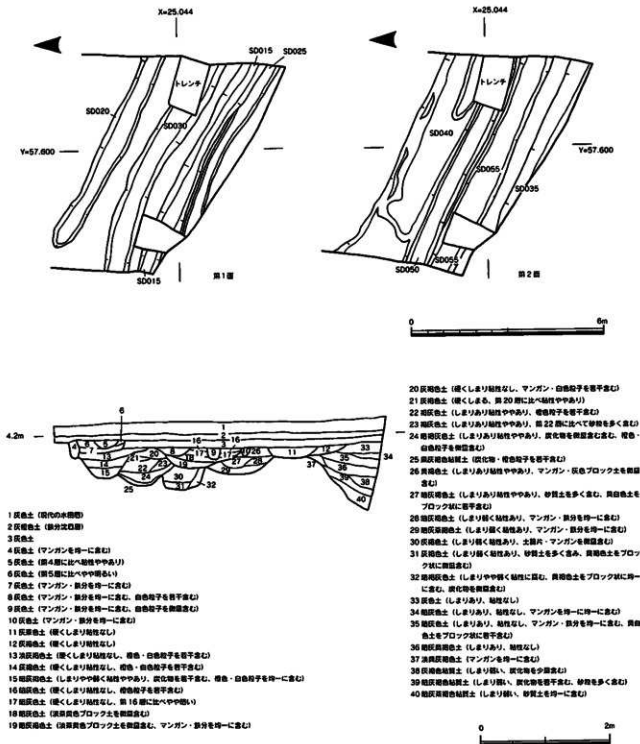


第4図 町25SA095 平面図・断面図 (S=1/50)

(2) 溝状遺構 (第6図)

町25SD015 SD015はSD025と新旧関係を有する。検出幅約0.6m、深さ約0.2mを測り、断面形状は緩やかな逆台形を呈す。埋土は灰茶色土の単一層である。

町25SD020 SD020は最も北側で認められた遺構である。長辺約6.7m、短辺約0.7m、深さ約0.4mを測り、断面形状はU字形を呈す。埋土は3層に分けられるが、何れも灰褐色土を基調とする。



第6図 町25SD015・020・025・030・035・040・050・055平面図 (S=1/120)、土層図 (S=1/60)

町 25SD025 規模は、幅約 0.5 m、長さ約 6.0 m、深さ約 0.15 m を測る。埋土は灰褐色の単一層である。出土遺物には在地系土師質土器環、皿、備前焼摺鉢等がある。

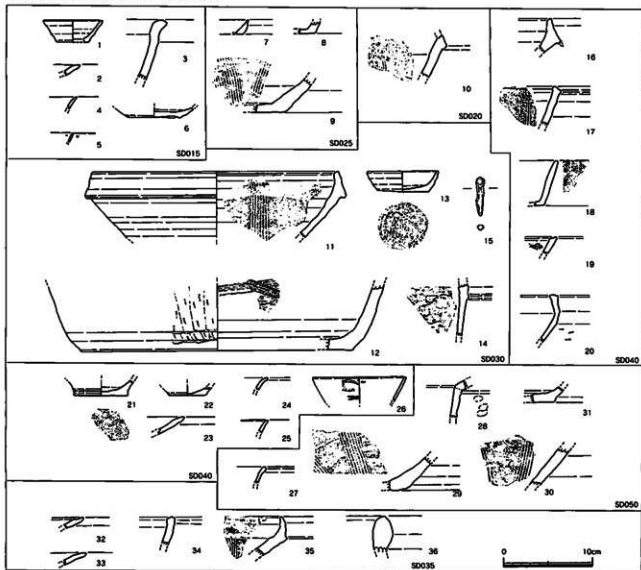
町 25SD030 SD015、020 の間で確認される。検出長さ約 7.3 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.3 m を測り、断面緩やかな U 字形を呈す。埋土中にブロック土を内包することから人為的に埋められたと考えられる。出土遺物には在地系土師質土器環や瓦質土器火鉢、備前焼摺鉢、甕等がある。

町 25SD035 調査区南壁で検出した溝状遺構である。規模に関しては調査区外へと延伸するため不明である。断面形状は残存部から判断すると V 字形になるものと思われ、他の溝状遺構群とは様相を異にする。埋土からは京都系土師器皿や備前焼摺鉢・甕口縁部などが出土しており、その時期は 16 世紀後半段階に位置付けられる。

町 25SD040 SD020、030 と新旧関係を有す。検出規模は、全長約 7 m、最大幅約 1.4 m、深さ約 0.6 m を測り、埋土は灰褐色土を基調とする層で構成され、最下層には粘質土が帯状に堆積していたことから一時閉水が溜まっていたと考えられる。

町 25SD050 SD020、030、055 と新旧関係を有す。最大幅約 0.7 m、深さ約 0.4 m を測る。出土遺物には備前焼摺鉢、土鍋、在地系土師質土器環、白磁破片などがある。

町 25SD055 新旧関係から SD015、030 より以前に構築されたものである。検出幅約 1.1 m、深さ約 0.7 m を測り、断面形状は U 字形を呈す。



第 7 図 町 25SD015(1～6)・020(10)・025(7～9)・030(11～15)・035(32～36)
040(16～26)・050(27～31) 出土遺物 (S=1/4)

(3) 溝状遺構出土遺物 (第7図)

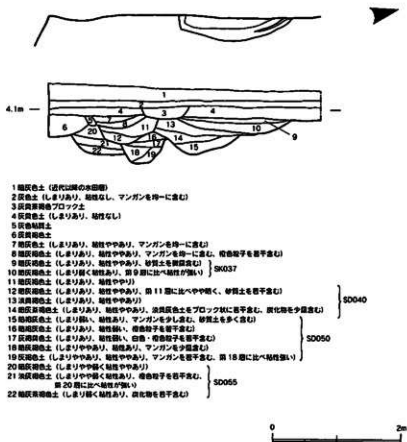
1～6は町25SD015から出土したものである。1は在地系土師質土器小坏で、内面にはクロロ目痕が僅かに残す。2は京都系土師器皿の口縁部破片、3は土師質の類である。4は口壳の白磁碗口縁部、5は青花碗口縁部、6は基荷底状を呈す陶磁器碗であるが、産地は不明である。7～9は町25SD025からの出土である。7は在地系土師質土器の小坏、8は坏の底部破片。9は備前焼摺鉢の底部破片で、中世6期に該当。10は町25SD020出土のもので、備前焼摺鉢で、中世5期a段階と思われる。11～14は町25SD030より出土したものである。11、12は備前焼摺鉢、壺で、11は中世5期a段階に位置付けられる。12は内面にハケ、外面に削り調整の痕跡が残る。13は在地系土師質土器の小坏である。口縁端部には煤が付着していることから灯明皿として使用されたと考えられる。14は土師質土器の火鉢、15は鉄釘である。16～26は町25SD040より出土した。16は備前焼摺鉢の口縁部で中世5期a段階のものである。17は須恵質の摺鉢、18は瓦質土器の火鉢である。19は土師質土器鍋の口縁部、20は瓦質土器の鍋か。21、22は在地系土師質土器の坏、小坏で、21は底部から体部にかけて明瞭な段を有す。23は京都系土師器の皿でII期に該当する。24、25は白磁碗の口縁部である。26は青花碗で、小野分類のE群と思われる。

27～31は町25SD050よりの出土である。27は龍泉窯系青磁碗の口縁部で、B類に該当する。28は土師質土器の鍋で、口縁端部が内側に屈曲するタイプのものである。29、30は備前焼摺鉢の体部、31は在地系土師質土器の坏である。32～36は町25SD035の出土遺物である。32、33は京都系土師器の皿口縁部で、II期に該当する。34は瓦質土器の鍋で端部が内側に丸くおさまる。35、36は備前焼摺鉢・壺で35は中世5期、36は中世4～5期のものと考えられる。

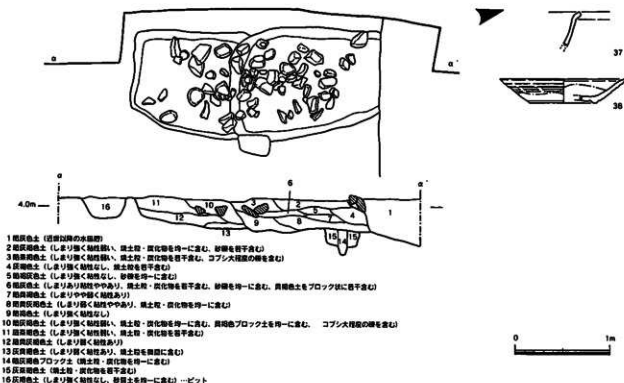
(4) 土坑

町25SK037 (第8図) 調査区南寄り、西壁付近において検出された。一部調査区外に展開するため全容については不明であるが、平面形状は楕円形を呈すものと思われる。検出規模は長辺約1.8m、短辺約0.6m、深さ約0.3mを測る。埋土は暗灰褐色土を基調とする。時期を特定する遺物が少ないため詳細は不明であるが、新旧関係から判断すると町25SD040埋没後に掘削されたといえる。

町25SK090 (第9図) 調査区北西部において検出した。平面形状は北側が隅丸長方形、南側が隅丸方形を呈す。規模は北側が長辺約1.6m、短辺約0.6m、深さ約0.3mを、南側はそれぞれ短辺約1.0m、深さ約0.25mを測る。掘り下げ途中で障が表出してきたが、出土状況から判断すると廃棄



第8図 町25SK037 平面図・断面図 (S=1/60)



等に伴う流れ込みと考えられる。

第9図 町25SK090平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/4)

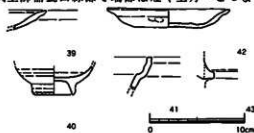
出土遺物には龍泉窯系青磁碗や白磁坏などがあり、その時期については16世紀代の所産と推測される。

(5) 土坑出土遺物 (第9図)

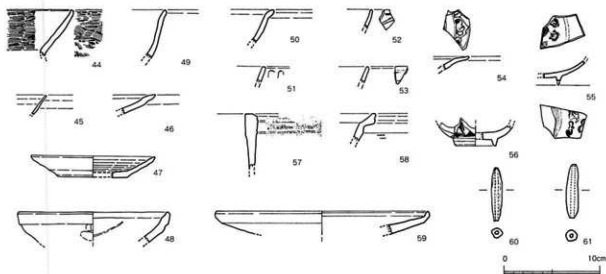
37、38ともに町25SK090から出土したものである。37は龍泉窯系青磁碗の口縁部破片で、上田分類のD'類に該当する。37は白磁の坏または皿で、復元口径は13.4cm、器高2.5cm、復元底径7.2cmを測る。逆ハの字状を呈し、高台は削り出しによる。表面は透明釉がかかり、胎土は精緻である。

(6) その他の遺構および表土遺物 (第10・11図)

39～40は町25SP022より出土する。39は京都系土師器皿で強いナデのため口縁部が外反する。40は陶器碗で唐津系のものである。41は町25SP051より出土した瓦質土器鍋である。42は京都系土師器皿、43は瓦質土器鍋破片で町25SP042より出土したものである。44は古式土師器壺口縁部で壺部は短く上方へとつまみ上がる。45は白色系土師器環口縁部、46は京都系土師器皿、47は在地系クロロ目土師質土器環、48は環形を呈す京都系土師器で器壁は厚く、端部は直立する。49～51は龍泉窯系青磁碗で、51は外面に線描蓮弁文がみられる。52～56は青花で、54はF群の皿、55はB群の碗である。57は瓦質土器火鉢、58は土師質土器の鍋。59は備前焼浅鉢、60、61は完形の土鍋である。



第10図 町25次その他の遺構出土遺物 (S=1/4)



第 11 図 町 25 次表探遺物 (S=1/4)

(7) 小結

今回の調査では「府内古絵図」や復原想定図に示される中世府内町の南西端部に溝状遺構が確認されたことが最大の成果といえる。この溝状遺構はほぼ同一地点において複数回掘り替えが行われている。また、土層観察からは水流を示す痕跡は認められず、近隣の調査では、建物群を想定させる無数の柱穴群が検出されていることをふまえると、本調査地点で発見された溝状遺構は主に屋敷等の区画施設としての機能があったと考えられる。ちなみに、この溝状遺構は現在ある道路とほぼ同軸方向をもつことから、調査地周辺では、今も中世段階の地割が残っているものと推測される。

中世大友府内町跡第 25 次 遺物観察表①

遺構番号	S 番号	種類	器種	図面番号	写真番号	R 番号	口径 (cm)	幅高 (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	京都系土師器	皿	7-2		1	?	1.1 α	?	断面のみ
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	白磁	椀			2	?	1.2 α	?	
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	青花	皿			3	?	1.1 α	?	
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	青花(雲地頭)	皿			4	?	1.1 α	?	
町 25SD015	S-9	磁器	皿(もしくは杯)	7-5		5	?	1.2 α	(5.5)	
町 25SD015	S-15	土師質土器	皿	7-3		6	?	6.7 α	?	内面に縦(コケ)外面は割継が著しいことから虎文きによることが疑われる
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	白磁	碗			7	?	2.4 α	?	体部片残
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	陶胎塗付	碗			8	?	2.9 α	?	
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	在地系土師質土器	小杯	7-1		9	(6.6)	12.5	(3.6)	反転履元 口縁部に付着 内面に僅かにロクロ目痕有り
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	白磁	碗	7-4		10	?	1.4 α	?	コハグロ 14C 森田分類
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	陶器(津系)	碗			11	?	1.7 α	?	
町 25SD015	S-15 焼灰褐色土	陶器	碗			12	?	2.7 α	?	反転陶器・朝産産か
町 25SD015	S-18 黄赤ガラス土	陶器	碗			13	?	2.1 α	?	
町 25SP022	S-22 焼灰赤土	京都系土師器	皿	10-39		14	?	1.9 α	?	断面のみ
町 25SP022	S-22 焼灰赤土	陶器	碗	10-40	○	15	?	2.9 α	4.1	二次焼熱を受けたと思われる
町 25SD050	S-50 灰黄粘質土	国産陶器(備前)	播鉢	2-29		16	?	5.7 α	?	拓本あり 内面スリ目痕有り ロクロ回転...右
町 25SD050	S-50 灰黄粘質土	国産陶器(備前)	播鉢	7-30		17	?	3.7 α	?	拓本あり スリ目痕有り
町 25SD050	S-50 灰黄粘質土	在地系土師質土器	杯	7-31		18	?	1.8 α	?	断面のみ
町 25SP042	S-42 灰褐色土	京都系土師器	皿	10-42	○	19	?	0.9 α	?	内面全体に灰付(2次?)
町 25SP042	S-42 灰褐色土	京質土器	皿	10-43		20	(12.6)	1.9	(6.6)	反転履元 NO. 637 も同一個体?
町 25SP042	カクラン	京都系土師器	皿			21	?	2.3 α	?	
町 25SP042	カクラン	京都系土師器	皿			22	?	1.7 α	?	
町 25SP051	S-51	京質土器	皿?	10-41		23	?	1.8 α	?	
町 25SP051	表様	陶器	大皿			24	?	4.0 α	?	
町 25SP051	S-13 黄灰色土	陶器	大皿			25	?	1.0 α	?	瀬戸・近畿産か
町 25SP051	S-13 黄灰色土	陶器	碗			26	?	1.3 α	?	
町 25SP051	S-13 黄灰色土	京都系土師器	皿			27	?	2.0 α	?	

中世大友府内町跡第 25 次 遺物観察表①

遺物番号	S 番号	種類	図様	図章番号	写真番号	R 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25SP026	S-26 灰土上	京都系土師器	部			28	?	2.3-α	?	
	表土	土師	部	11-61		29	5.7	1.6	1	
	表土	青磁	部	11-49		30	?	5.0-α	?	貫入有 ハンリ
町 25SP026	S-13 黄灰土	陶器	部			31	?	1.2-α	?	
	S-26	内面	部	11-51		32	?	1.7-α	?	外面 線通連 上田分組 B-40部
	S-7B-1	青花	部			33	?	2.15-α	?	貫通部
	S-7G1	白色系土師器	部			34	?	2.0-α	?	
	S-9	青花(京焼)	部			35	?	2.7-α	?	断面のみ
	S-23	青花(京焼)	部			36	?	1.4-α	?	断面のみ
	表探	青花	部			37	?	(2.1+α)	(4.0)	反転面元 小野分組C群 160中〜後
	S-18 黄灰ブロック土	京都系土師器	部			38	(11.0)	(2.0+α)	?	反転面元
	表土	土師	部			39	?	5.2-α	?	
	S-23	京都系土師器	部			40	?	1.7-α	?	
	S-23	灰質土器	火鉢	11-57		41	?	5.8-α	?	拓本有り
	カクラン	式土師器	部	11-44		42	?			内外ハケ調整 古墳時代前期前か
	S-23	在地系ロクロ土師器	部			43	(12.8)	(2.2+α)	(7.2)	反転面元
町 25SP026	表土	国産陶器(備前)	浅鉢	11-59		44				反転面元 ロクロ回転方向一左
	S-26	京都系土師器	部			45	(15.0)	3.1-α	?	反転面元
	昭和灰色土	土師	部	11-60		46	5.7	1.2	1.1	
	S-18 黄灰ブロック土	青磁	部	11-50		47	?	3.5-α	?	
	S-18 黄灰ブロック土	土師(青州)	部×部(?)			48	?	3.4-α	?	防長系
町 25SD030	S-18 黄灰ブロック土	陶器(青州)	部			49	?	1.9-α	?	
町 25SD030	S-30	国産陶器(備前)	部	7-12		50	?	1.2-α	(30.4)	反転面元 拓本有り
町 25SD030	S-30 昭和灰色土	土師質土器	火鉢	7-14		51	?	5.9-α	?	拓本有り
町 25SD030	S-30 昭和灰色土 P-1	在地系土師質土器	小杯	7-13	○	52	8	2.3	5.6	全体の3/4ほどに煤付着(灯明皿?) 拓本有り ロクロ回転一左 磨耗が激しい
町 25SD030	S-30 昭和灰色土	在地系土師質土器	部			53				
町 25SD030	S-30 昭和灰色土	国産陶器(備前)	部鉢	7-11		54	(27.0)	(7.3+α)	?	反転面元 拓本有り、東国編年中世5期α
町 25SD030	S-30	土師質土器	部	7-15		55				
町 25SD035	S-35 灰黄褐色土	在地系土師質土器	部			56				
町 25SD035	S-35 昭和灰色土	京都系土師器	部	7-32		57	?	1.2-α	?	
町 25SD035	S-35 昭和灰色土	国産陶器(備前)	部	7-36		58				東国編年中世5期α
町 25SD035	S-35 昭和灰色土	土師質土器	部	7-34		59	?	3.1-α	?	
町 25SD035	S-35 昭和灰色土	京都系土師器	部	7-33		60	?	1.4-α	?	
町 25SD035	S-35 昭和灰色土	国産陶器(備前)	部鉢	7-35		61	?	4.5-α	?	拓本有り
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師	部	7-25		62	?	1.4-α	?	
町 25SD040	S-25 灰褐色土	在地系土師質土器	部	7-8		63	?	1.2-α	?	ロクロ回転一右
町 25SD040	S-25 灰褐色土	国産陶器(備前)	部鉢	7-9		64				部口縁有り 拓本有り
町 25SD040	S-25	在地系土師質土器	小杯	7-7		65	?	1.6	?	付着物多い
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師質	部	7-17		66	?	4.3-α	?	拓本有り
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	在地系土師質土器	部			67				断面のみ
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師	部	7-24		68	?	1.5-α	?	
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	在地系土師質土器	小杯	7-22		69	?	(0.9+α)	(4.0)	反転面元 底面はローリングにより糸切痕跡不連続
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	在地系土師質土器	部	7-21		70	?	1.8-α	(6.0)	反転面元 拓本有り ロクロ回転一右
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	国産陶器(備前)	部鉢	7-16		71	?	3.9-α	?	東国編年中世5期α(15中〜後半) 断面 地表褐色化
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師質土器	火鉢(浅鉢)	7-18		72	?	5.0-α	?	拓本有り
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	京都系土師器	部	7-23		73				
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	青花	部	7-26		74	(10.4)	(2.8+α)	?	反転面元
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師質	部	7-19		75	?	1.9-α	?	外面全体に煤付着
町 25SD040	S-40 昭和灰色土	土師質土器	部	7-20		76	?	5.3-α	?	
町 25SD050	S-25 昭和灰色土	国産陶器(備前)	部鉢			77	?	4.9-α	?	拓本有り(東国編年中世4a 15前〜中)
	S-50 灰褐色土	青磁	部	7-27		78				
	S-50	土師質	部			79				
	S-50 灰褐色土	土師質	部(在地系)	7-28		80	?	4.2-α	?	断面部片
	S-9 昭和灰色土	在地系土師質土器	部			81				
	S-9	青花(唐津源)	部			82	?	2.5-α	?	
	S-9	陶器	部			83	?	1.3-α	?	
	S-9	土師	部			84	?	2.3-α	?	
	S-9	土師	部			85	?	1.7-α	?	反転面元
	S-9	在地系土師質土器	小杯			86	(5.4)	(1.7)	(4.2)	反転面元 煤付着 手づくね
	S-9	陶器(唐津系?)	部			87				
	S-9	京都系土師器	部			88	(9.0)	(1.5+α)	?	反転面元
	S-9	京都系土師器	部			89	?	1.7-α	?	
	S-9	土師	部			90	?	1.6-α	?	
	S-9	青花	部			91	?	1.0-α	3.7	煤付着に砂目痕
町 25SK090	S-90 昭和灰色土	中国産白磁	部	9-38	○	92	(13.4)	(2.5)	(7.2)	反転面元 体部中〜真白部にかけて磨耗
町 25SK090	S-90 昭和灰色土	青磁	部	9-37		93				反転面 貫入有り

中世大友府内町跡第25次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1		溝状	暗灰褐色土		近世
2		溝状	灰褐色土		近世
3		溝状	灰褐色土		近世
4		土坑?	灰褐色土		近世
5		耕作痕	灰褐色土		近世
6		溝状	灰褐色土		近世
7		溝状	灰褐色土		近世
8		ビット			近世
9		溝状	暗灰褐色土		近世
10		溝状	暗灰褐色土		近世
11		溜まり状	灰褐色土		近世
12		土坑	黄灰ブロック土		近世
13		溝状	灰色土	13→14	近世
14		溝状	灰色土	13→14	近世
15	町25SD015	溝状	灰色土	25→15	中世?
16	町25SP016	柱穴	暗灰茶土(柱痕)→灰茶土		中世
17	町25SP017	ビット			中世
18		溝状	黄灰ブロック土		
19	町25SP019	ビット	暗灰茶土		中世?
20	町25SD020	溝状	暗灰褐色土		中世
21	町25SA095	ビット	暗灰褐色土		16世紀末?
22		柱穴	暗灰茶土		
23		溜まり状	灰色土		
24	町25SP024	ビット	暗茶黄土		
25	町25SD025	溝状	灰色土	25→15	中世
26	町25SP026	溜まり状	灰色土		
27		溝状	灰色土		
28		ビット	灰褐色土		
29	町25SP029	ビット	暗褐色土		
30	町25SD030	溝状	暗褐色土→灰褐色土	40, 55→30	16世紀代?
31		溜まり状	灰色土		
32	町25SP032	柱穴			
33	町25SA095	柱穴			中世
34	町25SA095	柱穴			中世
35	町25SD035	溝状		45→35	16世紀後半
36		溜まり状	灰色土		
37	町25SK037	土坑	灰褐色土		
38	町25SP038	ビット	暗灰褐色土		
39		ビット	灰茶黄土		
40	町25SD040	溝状		50→40→30	16世紀後半
41	町25SP041	柱穴	灰褐色土		中世
42	町25SP042	ビット	暗灰茶土		16世紀後半
43		溜まり状	暗茶黄土	43→35 45→43	
44		溜まり状			
45		包含層		45→35, 55	
46		包含層	黄灰褐色土		
47		包含層	暗茶褐色土		
48		包含層	黄褐色土		
49		溝状	灰色土	35→49→25	
50	町25SD050	溝状	黒灰褐色土	50→40	中世
51		ビット	暗灰茶粘質土	40→51	
52		包含層	黄褐色土		
53		包含層	黒灰褐色土		古墳時代?
54					
55		包含層?	暗褐色土		
56		柱穴	暗灰褐色土→暗灰土(柱痕)		
57		柱穴	暗灰褐色土→暗灰褐色ブロック土		
58		ビット	暗灰褐色土(焼土)		
59		ビット	暗灰褐色土		
60		柱穴	暗灰褐色土→暗灰褐色土(柱痕 焼土、炭)		
61		ビット	暗灰褐色土		
62		柱穴	暗灰褐色土(焼土、炭)→暗灰褐色ブロック土(柱痕)		

中世大友府内町跡第25次遺構台帳②

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
63		ピット	暗灰褐土(焼土、炭)		中世
64		ピット	暗灰褐土(焼土、炭)		中世
65		柱穴	暗灰褐土(焼土、炭)→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
66		柱穴	暗灰褐土(焼土、炭)→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
67		柱穴	暗灰褐土→暗灰褐土(柱痕 焼土、炭)		中世
68		柱穴	暗灰褐土(焼土、炭)→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
69		ピット	暗灰褐土		中世
70		土坑?	暗灰土		中世
71		柱穴	暗灰褐土→暗灰褐ブロック土(柱痕)		中世
72		ピット	暗灰褐土		中世
73		ピット	暗灰褐土		中世
74		ピット	暗灰褐土		中世
75		土坑	暗灰褐土		中世
76		ピット	暗灰褐土		中世
77		ピット	暗灰褐土+黄褐ブロック土		中世
78		ピット	暗灰褐土		中世
79		ピット	暗灰褐土		中世
80		柱穴	暗灰褐土→暗灰ブロック土(柱痕 砂質泥じり)		中世
81		ピット	暗灰褐土		中世
82		ピット	褐灰土		中世
83		ピット	暗灰褐土		中世
84		ピット	暗灰褐土		中世
85		ピット	暗灰褐土(焼土、炭)		中世
86		ピット	暗灰褐土		中世
87		柱穴	暗灰褐土→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
88		ピット	暗灰土		中世
89		ピット	褐灰土		中世
90	町25SK090	土坑			中世
91		柱穴	暗灰褐土→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
92		ピット	暗灰褐土(焼土、炭)		中世
93					
94					
95	町25SA095	柱穴列			16世紀末?
96					
97					
98					
99					
100					

第Ⅳ章 中世大友府内町跡第 25-3 次調査

第 1 節 調査の状況

中世大友府内町跡第 25-3 次調査区（以下、「町 25-3 次」とする。）は、町 25 次調査区の約 3.5 m 北側に位置し、ほぼ隣接する。今回の調査では、町 25 次調査区同様、溝状遺構や土坑、柱穴列を確認した。

第 2 節 層序など

基本層序は、現地表面から約 0.6 m の厚さで客土があり、その下位に水田層（近世以降）、黄褐色土の順に堆積している。調査で確認された遺構は、すべてこの黄褐色土を基盤として形成される。なお、遺構検出標高は約 4.0 ～ 4.1 m で、日豊本線を挟み北側にある町 26 次、27 次調査よりも 0.3 ～ 0.5 m 程高い地点で中世段階の遺構が現れる。

第 3 節 遺構・遺物

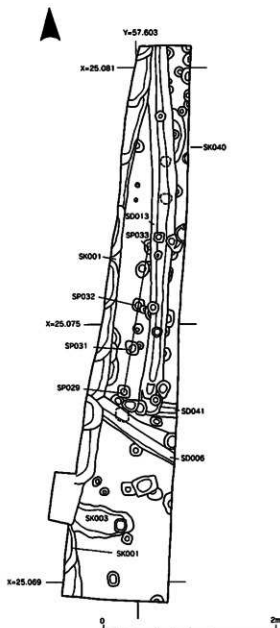
(1) 柱穴列（第 13 図）

町 25-3SA050（SP029・031～033）調査区中央で検出し、現状では 3 間分確認した。柱間は SP032 と SP033 の間が約 1.4 m でその他は約 1.0 m である。SP029 の南において同様のプランを有する柱穴が認められないことから、SA050 は SP029 を南限とするもので、建物を構成する一部となる可能性がある。遺物は土師器の小破片が出土したのみで時期を特定するには至らなかった。

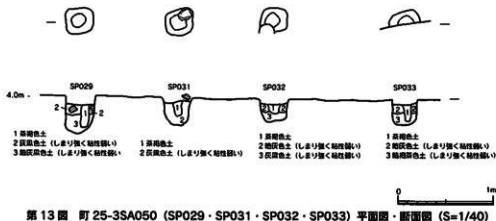
(2) 溝状遺構（第 14 図）

町 25-3SD006 調査区中央南寄りにおいて検出した東西方向に延伸する遺構である。検出長さ約 2.0 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.1 m を測り、埋土は炭化物を内包する単一層で暗褐色を呈する。遺物には線描蓮弁文の青磁碗の他に土師器小片が数点出土したのみで、その時期については、現状で 16 世紀前後と推測される。

町 25-3SD013 調査区中央を南北に伸びる溝状遺構である。北側は一部 SK001 によって途切れる。調査区外へと伸びるため全容は不明であるが、検出規模は、長さ約 8.7 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.5 m を測る。埋土からは京都系土師器皿や備前焼指鉢、瓦質土器、石臼、平瓦、鉄滓が出土し、その時期については、京都系土師器の形態より 16 世紀後半段階には埋没していると考えられる。



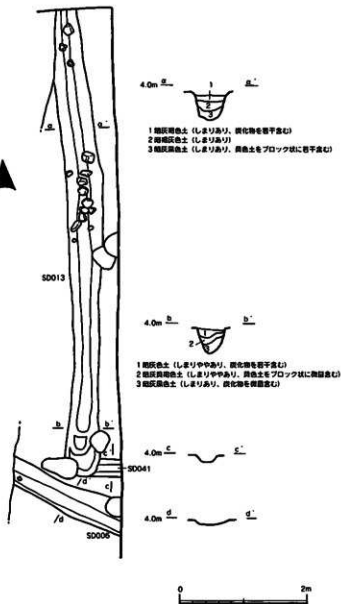
第 12 図 町 25-3 次遺構配置図 (S=1/80)



町25-3SD041 SD013の閉塞部から東側に伸びる溝状遺構である。検出規模は、幅約0.3m、深さ約0.1mである。遺物は出土していないため時期等は不明である。

(3) 溝状遺構出土遺物 (第15図)

1は町25-3SD006より出土した龍泉窯系青磁碗で、器面には線描蓮弁が描かれており、B-IV類に該当する。2～9は町25-3SD013よりの出土である。2は在地系土師質土器の坏底部、3は京都系土師器皿の口縁部で、器壁が厚く外反器形を呈することからⅢ期にあたる。4は土師質土器の細鉢で、内面に掘り目が6本認められる。5が瓦質土器の浅鉢(火鉢)の脚部である。6,7は鉄滓、8は石臼で使用のため掘り面は磨り減っている。9は平瓦の破片である。

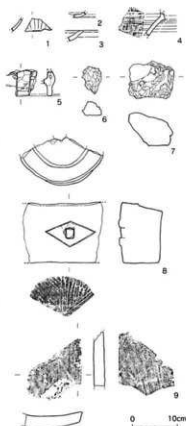


(4) 土坑 (第12・16～18図)

町25-3SK001 調査区西壁において現在の道路に沿い連続する状態で合わせて13基検出した。検出状況や埋土等から判断して、すべて一連する遺構とみられるためS番号は個々に付さなかった。検出規模は、約0.8m～1.5mと幅があるが、深さについては約0.4mと比較的均一である。SK090と埋土、規模等に類似点が見受けられることから、この土坑群の続きになるものと思われる。遺構の性格であるが、道路状遺構の構築に関わるものとも考えられるが、道路跡自体が見つかっておらず確証には至っていない。よって、現状では何らかの基礎地盤の可能性があるとだけしておく。時期は、埋土より近世1期bに該当する備前焼掘鉢が出土しているため16世紀後半から末段階になるものと思われる。

町25-3SK003 (第18図) 調査区南よりで検出した。西側はSK001に掘り込まれるため全容は不明であるが、規模は、長辺約1.4m、短辺約0.7m、深さ約0.2mを測る。埋土は暗灰褐色土の単一層で、遺構中央より廃棄された状態で拳大から人頭大の礫が出土している。

町25-3SK040 (第18図) 調査区北側で確認した。SD013に掘り込まれるため一部不明であるが、残存部から推測すると平面楕円形を呈すとと思われる。規模は長辺約1.2m、短辺約0.3m、深さ約0.3mを測る。



第15図 町25-3SD006(1)・013
(2～9) 出土遺物 (S=1/4)

(5) 土坑出土遺物 (第17・18図)

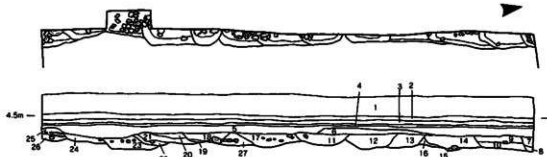
10～14すべて町25-3SK001からの出土である。10は京都系土師器皿で、口径12.4cmを測る。II期に該当か。11は朝鮮王朝産の灰軸陶器で碗の口縁部である。色調は灰青色を呈す。12は土製埴で、13、14は備前焼の掘鉢、甕底部破片である。13はその特徴から近世1期b段階のものと思われる。

(6) その他の遺物 (第19図)

15は町25-3SP035より出土した在地系土師質土器の坏である。16は町25-3SP007出土の在地系土師質土器坏、17、18は遺構が形成される基盤土(灰褐色土)からの出土で、17は須恵器高坏の坏部か。

(7) 小結

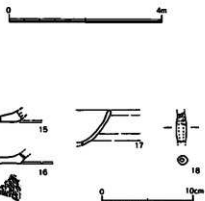
今次の調査で注目されるのは連続する土坑群である。調査区は、古絵図や復原想定図によると、府内町の最も西側の南北街路周辺地に該当している。よって、直接的に道路痕跡を示すものは見つからないが、土坑群が南北街路に関連する施設の可能性もある。仮にそうでないとしても、このような土坑群が限られたごく一部分のみに構築されていることは、当該地に何らかの重要な施設が存在していたことを示唆するものと思われる。



第16図 町25-3 SK001 平面図・断面図 (S=1/100)

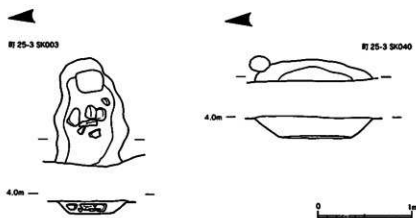
- 1 客土
- 2 灰褐色土
- 3 灰褐色土
- 4 暗褐色土 (部分沈着物)
- 5 灰褐色土
- 6 灰褐色土
- 7 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。)
- 8 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。)
- 9 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。)
- 10 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。)
- 11 灰褐色土 (粘土状土)
- 12 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。第11層に比べて粘土状、沈着物が多く含む。)
- 13 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、黄色ブロック土を埋め込む。)
- 14 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。小礫を少量含む。)
- 15 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり。)
- 16 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。)
- 17 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。下部に伏大程度の礫を含む。)
- 18 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。)
- 19 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。人尿大の礫を埋め込む。)
- 20 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。粘土状を埋め込む。)
- 21 暗褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。粘土状を埋め込む。)
- 22 暗褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。コブシ大程度の礫を下部に含む。)
- 23 暗褐色土 (しりややあり、粘性やあり、小砂礫を埋め込む。粘土状を埋め込む。)
- 24 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。)
- 27 灰褐色土 (しりややあり、粘性やあり、砂質土を埋め込む。下部にコブシ大程度の礫を多く含む。)

※ 第7～第27層--SK001



第19図 町25-3 SP007 (16)・031、灰褐色土
出土遺物 (S=1/4)

第17図 町25-3 SK001 出土遺物 (S=1/4)



第18図 町25-3 SK003・040 平面図・断面図 (S=1/40)

中世大友府内町跡第25-3次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1	町25-3SK001	土坑	個別土層図参照		16世紀後半
2		柱穴		13→2	中世
3	町25-3SK003	土坑			中世
4	町25-3SK004	土坑			中世
5	欠番				
6	町25-3SD006	溝状			中世
7	町25-3SP007	ピット			中世
8	町25-3SK001	土坑			16世紀後半
9		溝状			中世
10		ピット		10→6 13→10	中世
11		ピット			中世
12		ピット			中世
13	町25-3SD013	溝状	暗灰黒色土→暗褐色土→暗灰褐色土		中世
14	町25-3SK001	土坑			中世
15		ピット			中世
16		ピット		16→13 16→12	中世
17	町25-3SK001	土坑			16世紀後半
18	欠番				
19		ピット		13→19	中世
20	町25-3SK001	土坑			16世紀後半
21		ピット		13→21	中世
22		ピット			中世
23		ピット		13→23	中世
24		ピット		13→24	中世
25		ピット		25→1	中世
26		ピット		26→1	中世
27		ピット			中世
28		ピット		50→28	16世紀後半～
29	町25-3SA050	柱穴	暗灰黒色粘質土→灰黒色土→茶褐色土(柱痕)		中世
30		溝状		30→9	中世
31	町25-3SA050	柱穴	灰褐色土→茶褐色土		中世
32	町25-3SA050	柱穴	灰褐色土→暗灰色土→茶褐色土(柱痕)		中世
33	町25-3SA050	柱穴	暗褐色土→暗灰色土→茶褐色土(柱痕)		中世
34		ピット		34→13→21	中世
35	町25-3SP035	ピット			中世
36		ピット			中世
37	欠番				
38	欠番				
39	欠番				
40	欠番				
41	町25-3SD041	溝状			中世
42	欠番				
43	欠番				
44	欠番				
45		ピット		21→50	中世
46	欠番				
47	欠番				
48	欠番				
49	欠番				
50	町25-3SA050	柱穴列			16世紀後半

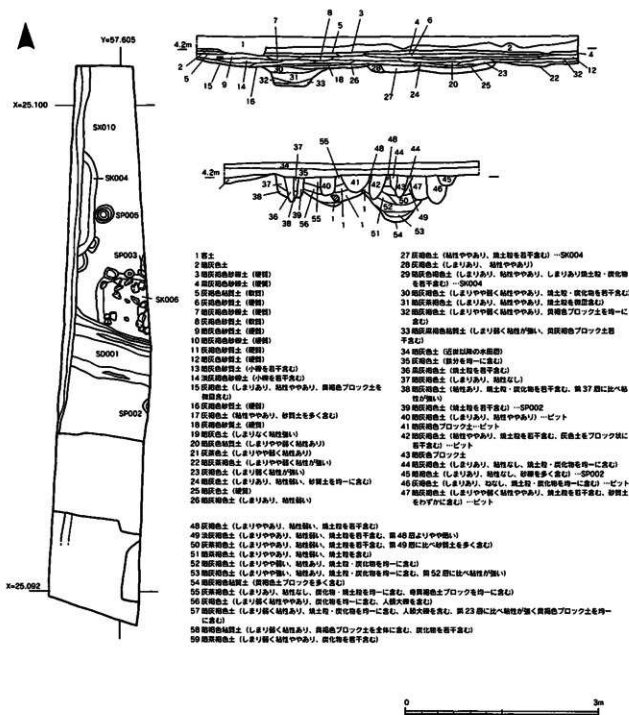
中世大友府内町跡第25-3次遺物観察表①

遺物番号	S番号	種類	図様	図様番号	写真番号	R番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町25-3SK001	S-001	京都系土師器	皿	第170410		001	(12.4)	1.9	(6.4)	反転復元
町25-3SK001	S-001 P1	国産陶器 (備前)	磁鉢			002	?	5.6±a	?	内側に深目跡有り 栗河内年中世5期 b? 15世紀末～16世紀初 断面赤褐色
町25-3SK001	S-001 (NO.48)	国産陶器 (備前)	磁鉢	第170413		003	?	5.9±a	?	内側に深目跡有り 栗河内年中世5期より近世1期?
町25-3SK001	S-001 P4 (NO.47)	土製品	土製押	第170412		004	14.0	5.2	3.1	
町25-3SK006	S001 (NO.49), S008 (NO.50)	青磁 (龍泉窯系)	碗	第15041		005	?	2.9±a	?	S1遺物と併し 龍泉窯 15C末～16C前半 土田跡あり
町25-3SK001	S-001 (NO.72)	陶磁器 (朝鮮産)	碗	第170411	○	006	?	2.2±a	?	反転
町25-3SK007	S-007 (NO.51)	在地系土師質土器	小杯	第190416		007	?	1.2±a	2.8±a	
	S-021 (NO.53)	在地系土師質土器	小杯			008	?	1.5±a	1.6±a	内面に指押し痕有り
町25-3SP031	S-031 (NO.190)	在地系土師質土器	小杯	第190415		009	?	?	2.8±a	底部灰色部分有り 摩滅激しい
	S-20 (NO.189)	京都系土師器	小杯			010	?	1.5±a	1.6±a	
	S-014 (NO.52)	在地系土師質土器	小杯			011	?	1.5±a	1.2±a	底部赤褐色 処理は明確でない
町25-3SK001	被服部-I (NO.241)	国産陶器 (備前)	甕	第170414		012	?	6.0±a	5.1±a	へう状工芸で母を付けた形跡有り
町25-3SD013	S-013中継 (NO.239)	土師質土器	磁鉢	第15044		013	?	5.7±a	?	備前磁鉢跡に類似
町25-3SD013	S-013中継 (NO.236)	京都系土師器	皿	第15043		014	?	2.4±a	?	口縁部内面外側に灰色部分有り
町25-3SD013	S-013上層 (NO.73)	在地系土師質土器	杯			015	?	1.3±a	1.2±a	糸切り痕は摩滅
町25-3SD013	S-013 P4	平瓦		第15049		016		縦11.5	横12.6	
町25-3SD013	S-013 P1 (NO.202)	石製品	石臼	第15048		017	径約32.0	高さ13.3		瀬灰岩製? 底部黒目痕有り 糸本有り
町25-3SD013	S-013 P1	石製品	石臼	第15048		018	15.2	11.1		瀬灰岩製?
町25-3SD013	S-013 P5	磁押		第15047		019	10.2	8.4	5.5～7.0	
町25-3SD013	S-013 P2 (NO.236)	磁押		第15046		020	4.2	6.0	3.0	
町25-3SD013	S-013中継下層 (NO.44)	瓦質土器	火鉢	第15045		021	?	5.8±a	8.2±a	
	灰褐色土 (NO.342)	須恵器?	碗	第190417		022	?	3.0±a	?	外面上部から内面上部にかけて褐色部分有り
	灰褐色土 (NO.329)	土製品	土鉢	第190418		023				

第V章 中世大友府内町跡第25-4次調査

第1節 調査の状況

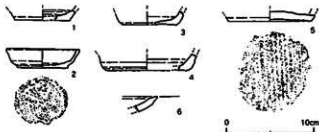
調査地点は、町25-3次調査区の約10m北にあり、調査区が狭小であることから機械力による表土剥ぎは困難であり人力作業にて行った。確認した遺構は、溝状遺構や土坑、硬化した土層、柱穴、ピットなどである。



第20図 町25-4次遺構全体図(S=1/60)、東壁・西壁土層図(S=1/60)

第2節 順序など

基本層序は、現地表面から約0.2mの厚さで客土があり、その下に水田層（約0.1m 近世以降）、黄褐色土の順に堆積しており、調査で確認された遺構は、すべてこの黄褐色土を基盤として形成される。遺構検出標高は約4.2mである。



第20図 町25-4SK006、表層遺物 (S=1/4)

第3節 遺構・遺物

(1) 溝状遺構 (第20図)

町25-4SD001 調査区中央部において検出した東西方向に延伸するもので、幅約0.9m、深さ約0.8mを測る。遺構の最下層部には暗灰褐色を呈する粘質土が堆積することから、水が溜まっていたと考えられる。埋土から年代を特定できる遺物が認められなかったため、時期については不明である。但し、現在の道路を挟んで位置する町25-2次調査区で確認された在地系土師質土器や白色系土師器を内包する溝状遺構と同様の規模、埋土を有することから15世紀代に比定される可能性がある。

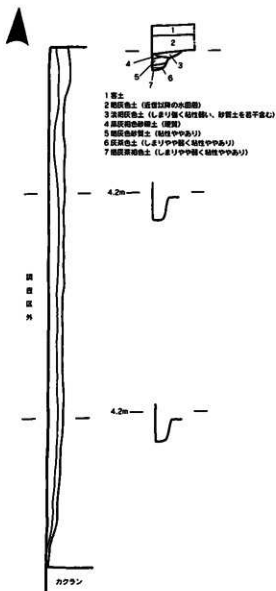
(2) 土坑 (第20図)

町25-4SK004 調査区北よりで検出した。一部SX010により掘削されるため全体の平面形状及び規模については不明である。残存規模は、長辺約1.2m、短辺約0.2m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗灰褐色土の単一層で、その中には焼土粒や炭化物を僅かに内包する。時期に関しては、遺物が出土しなかったため特定できなかった。

町25-4SK006 全容に関しては調査区外へと伸びるため不明である。検出規模は長辺約1.0m、短辺約0.8m、深さ約0.5mを測る。埋土には黄褐色ブロック土を含み、掘り下げ過程で拳大～人頭大の隙が崩壊された状態で検出された。

(3) 土坑出土遺物 (第21図)

5は底部のみ完存する在地系土師質土器の坏である。底部径は9.4cm、器高1.1+αで、底部外面には回転糸切り施しの板状圧痕が見受けられる。



第21図 町25-4SK006、表層遺物 (S=1/4)

第22図 町25-4SX010 平面図・断面図 (S=1/40)

(4) 性格不明遺構 (第22図)

町25-4SX010 調査区東壁において確認した。遺構の東側部分の一部が検出されたのみで、大部分は現在の道路下に広がると思われる。現状規模は、南北約6.2m、東西約0.2m、深さ約0.2mで、主軸はN-4°-Eをとる。埋土は非常に硬化しており、東壁土層観察からは砂質土や砂礫土・粘質土を版築状に積み重ねたように構築されていることが分かる。出土遺物からは時期を特定することはできなかった。

(5) 小結

今回の調査では、南北街路推定地において道路状遺構を示すような土層の堆積が認められている。現場段階では、南北街路発見と判断したが、周辺の調査の状況が分かるにつれ、やや道路跡とするには根拠が薄くなってきている。現段階では可能性の範疇に留めておく。

中世大友府内町跡第25-4次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1		溝状		6→1→10	15世紀代
2		ピット			
3		ピット			
4	町25-4SK004	土坑		4→10	中世
5		ピット			
6	町25-4SK006	土坑		6→10	中世
7	欠番				
8	欠番				
9	欠番				
10	町25-4SX010	溝状×道路		4→10	16世紀後半

中世大友府内町跡第25-4次遺物観察表

遺構番号	S番号	種類	器種	図版番号	写真番号	R番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備 考
	表土	在地系土師質土層	IF	第21図3	001	?	(1.6±α)	(6.8)	反転覆元	
	表土	在地系土師質土層	IF	第21図1	002	?	(1.2±α)	(6.4)	反転覆元	
	表土	京都系土師器	皿	第21図6	003	?	1.8±α	?		
	表土	在地系土師質土層	IF	第21図4	004	?	(1.9±α)	(9.4)	反転覆元	
	表土	在地系土師質土層	IF	第21図2	005	8.3	2.2	5.6	拓本有り	
町25-4SK006	S-6 P1	在地系土師質土層	IF	第21図5	006	?	1.1±α	9.4	拓本有り	ロクロ回転一直

第3節 遺構・遺物

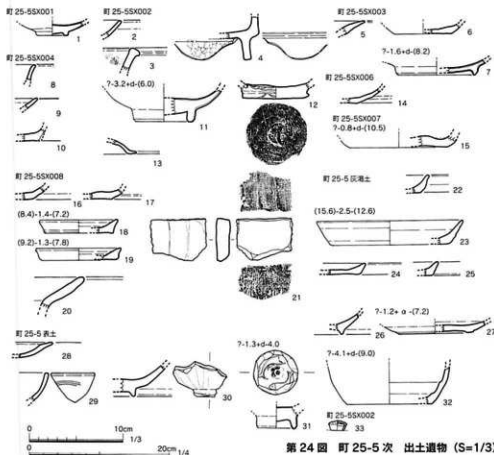
(1) 確認した遺構—中世段階の包含層（耕作土か）（第23図）

調査は大きく層群として平面プランを検出し、それにS番号を付して、上位に堆積する土層から順に掘り下げを行っている。確認された土層の中には土質、土色その他の特徴から耕作土と考えられるものもある。各層の特徴については掲載する土層図と土層注記を参照していただきたい。21～26層にかけては土壤中に細かい砂を含んでおり、また、調査区の東から南東部では拳大ほどの礫が少数ではあるが認められていることから、一時期調査地は流水作用に見まわれたと推測される。耕作土層と思われる中には京都系土師器皿が出土した層があったが、直後の手違いによりその所在が分からなくなり、結果的に表土出土として掲載している。但し、京都系土師器皿が見つかったことで、古絵図に描かれる中世府内町の傍に耕作域が広がっていたことを窺い知る重要な所見を得ることができた。

(2) 出土遺物（第24図）

代表的なもののみ触れ、その他は遺物観察表を参照していただきたい。1は中国産の白磁碗または皿で、高台部は露胎となる。4は瓦質土器浅鉢ⅢまたはⅣ類に分類される。7は森田分類E群に比定される白磁皿と思われる。11は龍泉窯系青磁碗の高台部で、畳付けから高台内にかけて無軸である。軸はややくすんだ緑色、胎土は灰色を呈する。内面見込み部分に界線とスタンプ文を有する。18、19は在地系土師質土器の皿で、断定することはできないがその形状などから14世紀代と推測する。20は土師質土器鍋の口縁部で、土鍋A類に該当する。11～12世紀代とやや古手のものか。

出土遺物を概観すると、古代から中世後期にわたる遺物が見られる。但し、その主体は中世であり、詳細にみるならば中世後期段階といえる。それは、本調査地周辺が開荒地になったことを裏付けるものと考えられるが、1ヶ所のみの調査からは確定できず、中世府内町の中での耕作がいつから行われたか判断するには今後の課題である。



第24図 町25-5次 出土遺物 (S=1/3)

中世大友府内町跡第25-5次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1	町25-55X001	溜まり状		3→1→灰褐色	中世
2	町25-55X002	耕作土?			中世
3	町25-55X003	耕作土		8→7→3	中世
4	町25-55X004	包含層		4→3	中世
5	欠番				
6	町25-55X006	溜まり状		8→7→6→灰褐色	中世
7	町25-55X007	耕作土		8→7→6	中世
8	町25-55X008	耕作土?		8→7	中世

中世大友府内町跡第 25-5 次遺物観察表

遺構番号	S番号	種類	器種	図面番号	写真番号	R番号	口径 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)	備 考
町 25-55X001	S-1	白磁	甕×碗	遺24図1	001	-	1.4±	α	(3.2)	中国産?
町 25-55X002	S-2	土師器	坪	遺24図2	002	-	1.7±	α	-	古代
町 25-55X003	S-3	在地系土師質土器?	皿?	遺24図5	005	-	1.8±	α	-	
町 25-55X004	S-4	在地系土師質土器	坪	遺24図6	007	-	1.2±	α	-	
町 25-55X004	S-4	在地系土師質土器	小坪	遺24図8	012	-	1.7±	α	-	
町 25-55X003	S-3 ①	白磁	皿	遺24図7	004	-	1.6±	α	(8.2)	肥前産?
町 25-55X003	S-3	在地系土師質土器	坪	遺24図9	006	-	1.1±	α	(6.0)	
町 25-55X004	S-4	在地系土師質土器	坪	遺24図10	009	-	1.4±	α	-	
町 25-55X002	S-2	磁製品	甕?ツマミ?	遺24図33	003	縦 1.0	横 1.9	-	-	
町 25-55X004	S-4	土師器	皿	遺24図13	011	-	1.5±	α	-	
町 25-55X006	S-6	在地系土師質土器	坪	遺24図14	013	-	1.3±	α	-	
町 25-55X007	S-7	在地系土師質土器	坪	遺24図15	014	-	1.0±	α	(10.4)	
町 25-55X008	S-8	青磁 (龍泉窯系)	碗	遺24図11	008	-	3.2±	α	(6.0)	
町 25-55X008	S-8	瓦質土器	皿	遺24図20	016	-	3.4±	α	-	表面全体に埋付着
町 25-55X008	S-8	瓦質土器	瓦	遺24図21	015	-	-	-	-	
町 25-55X008	S-8	在地系土師質土器	皿	遺24図17	017	-	0.9±	α	-	
町 25-55X008	S-8	在地系土師質土器	皿	遺24図19	018	(9.2)	1.3	(7.8)	-	外面に多量のマンガン付着
町 25-55X008	S-8	在地系土師質土器	小皿	遺24図18	020	-	1.4±	α	-	
町 25-55X008	S-8	在地系土師質土器	皿	遺24図28	019	(8.4)	1.4	(7.2)	-	
町 25-55X004	S-4	土師器	坪	遺24図12	010	-	1.6±	α	7.1	加工土器破片 灰褐色台 (古代)
町 25-55X002	S-2	土師質土器	火鉢	遺24図4	021	-	6.3±	α	-	内面に多量のマンガン付着
町 25-55X002	S-2	瓦質土器	磁鉢	遺24図3	022	-	2.4±	α	-	
町 25-55X002	S-2	在地系土師質土器	坪	遺24図22	024	-	1.8	-	-	
町 25-55X002	S-2	白磁 (中国産?)	皿?	遺24図27	025	-	1.2±	α	(7.2)	二次焼成
町 25-55X002	S-2	土師質土器	碗	遺24図26	026	-	2.3±	α	-	
町 25-55X002	S-2	在地系土師質土器	小皿	遺24図25	027	-	1.4	-	-	内・外面の一部にマンガン付着
町 25-55X002	S-2	回春陶器 (備前)	皿	遺24図24	028	-	4.1±	α	(9.0)	
町 25-55X002	S-2	青磁 (龍泉窯系)	碗	遺24図29	029	-	4.1±	α	-	16世紀 青磁器類
町 25-55X002	S-2	京都系土師器	皿	遺24図30	030	-	3.3±	α	-	大宰府分類 陶器類
町 25-55X002	S-2	青磁 (龍泉窯系)	碗	遺24図31	031	-	1.7±	α	-	
町 25-55X002	S-2	在地系土師質土器	坪	遺24図32	032	-	1.3±	α	4.0	
町 25-55X002	S-2	在地系土師質土器	坪	遺24図33	033	(15.6)	2.5	(12.6)	-	外面に多量のマンガン付着

第Ⅶ章 中世大友府内町跡第 25-7 次調査

第 1 節 調査の状況

調査地点は、町 25 次調査区の南側に隣接しており、調査環境の制約などから通水路を確保しなければならない、よってその通水路を境にして便宜的に北側を A 区、南側を B 区と区別している。また、現在の道路を挟み約 10 m 南には町 25-5 次調査区が所在する。「府内古絵図」や復原想定図によると、本調査区は中世府内町の南西部の町外れにあたり、よって町名は付されていない。

A 区では、町 25 次調査で見つかった東西溝の南側が発見されることが想定していたが、以前あった共同住宅及び水路施設等に伴う掘削により破壊されており検出できなかった。B 区においては、主に耕作土層と思われる包含層及び溝状遺構が 1 条確認されたのみであった。これらのことから、古絵図に描かれる中世府内町は町 25 次調査地付近を南西端部とすることが判明した。

第 2 節 層序など

基本層序は、現地表面から約 0.3 m の厚さで砂利、客土があり、その下位に近現代の水田層、近世の水田層があり（層厚約 0.7 m）、約 1 m の深さで遺構検出面である黄褐色土（黄灰シルト質土）が確認される。この黄褐色土は、B 区では認められないことから A 区付近では層が終わっているものと考えられる。遺構検出標高は約 3.7 m で周辺よりやや高低差が生じる。

第 3 節 遺構・遺物

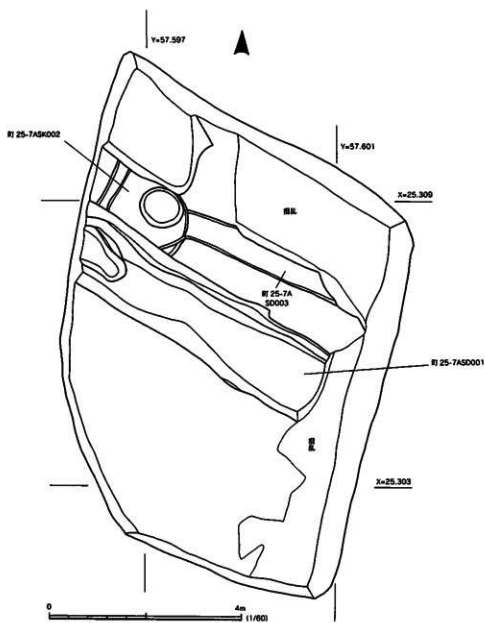
(1) 溝状遺構（第 25 図）

町 25-7ASD001 調査区中央部において検出した東西方向に伸びる溝状遺構である。主軸方向は町 25 次で見つかった東西溝とほぼ同軸を有す。検出長約 6.0 m、幅約 1.5 m、深さ約 0.2～0.6 m を測る。遺構底面の断面状況から水流が生じた際は東から西へとあったものと思われる。但し、土層観察からは水流痕跡を示す状況は顕著には認められなかった。遺構西端底面は一段深くなっており、土坑状の掘り込みがあったとされる。埋土は、ほぼ全層にわたり地山ブロックを内包することから、埋め戻しは短期間のうちに行われたことが窺える。時期についてであるが、埋土の中から京都系土師器皿、土師質土器燗台が出土しており、16 世紀後半段階には埋没していたと考えられる。

町 25-7BSD004 町 25-7 次 B 調査区の北側で検出された東西方向に伸びる溝状遺構である。検出長約 6.1 m、幅約 1.5 m、深さは 0.15～0.3 m を測り、断面形状は緩やかな掘鉢状を呈す。底面はほぼフラットであり、土層観察からは水流痕跡は認められなかった。埋土からは唯一須恵器坏身（Ⅲ B 期～Ⅳ期）が出土しているが、平面形状、軸方向などを考慮すると構築時期については中世段階になる可能性を残す。

(2) 溝状遺構出土遺物（第 27 図）

1～7 は、町 25-7ASD001 より出土した。1～3 は、灰黄褐ブロック土からの出土である。1 は京都系土師器皿口縁部、2 は 9 条一組の掘り目が施された備前焼掘鉢底部で、3 は龍泉窯系背磁碗口縁部である。4～6 は、灰黄ブロック土からの出土である。4 は瓦質土器鉢底部で、内外面にハケ目調整が行われる。5 は備前焼掘鉢底部で、器面は内外面ともに暗赤褐色を呈する。6 は同安窯系背磁碗底部で、胎土は灰色を、釉は灰色がかかった緑色を呈する。7 は灰褐土出土の土師質土器燗台で、上面から側面にかけて煤が付着する。14 は町 25-7BSD004 より出土した須恵器坏身で、小田編年Ⅳ期に比定される。



第 26 図 町 25-7A 区 遺構全体図 (S=1/60)

(3) 土坑 (第25図)

町25-7ASK002 A調査区の北東部で検出した。一部掘乱坑により掘削されるため全体規模については不明であるが、径2 m前後の円形プランを有するものと推測され、深さは最深部で約0.2 mを測る。段堀り状を呈し、最下部は緩やかな錐鉢状の掘り込みがある。埋土中からは獣骨破片、京都系土師器皿などが出土しており、その時期については16世紀後半段階になるものと考えられる。

(4) 土坑出土遺物 (第27図)

8～10は町25-7ASK002 暗灰茶土より出土した。8は京都系土師器皿で、強いナデにより口縁部は外反する。9は土師質土器鍋口縁部で、口縁内面が強いナデが行われるため、端部は上方へと立ち上がる。土鍋A類に該当か。10は瓦質土器壺または鉢等の底部である。

(5) 各土層、表土出土遺物 (第27図)

11～13は、A区灰褐土より出土した。11は青花碗口縁部で、小野分類染付碗E群の可能性はある。12は漳州窯系青花碗底部で、高台内は無軸である。13は中国産と考えられる白磁碗底部で、内面見込み部分に目跡を有する。15～20は、B区灰褐土より出土した。15～19は土師器環口縁部で、15は坏d、16は坏aと考えられる。19は古墳時代に比定される可能性がある。20は瓦質土器鉢底部である。21はB区黄褐土より出土した企救型甕口縁部である。22はB区南壁より出土した肥前系磁器染付皿底部で、高台登付のみ露胎である。23はB区南トレンチ淡茶褐土より出土した古式土師器壺または甕の肩部である。24はB区表土より出土した皿底部で、高台登付のみ露胎となっている。底部外面に□貴□□の銘(富貴長春か)があり肥前産と思われる。



第27図 町25-7次 A・B区 出土遺物 (S=1/3)

中世大友府内町跡第25-7次A・B区遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期	地区番
1	町25-7ASD001	溝状	暗黄灰土→灰色粘質土→灰茶ブロック土→ 淡灰黄褐色ブロック土→暗灰黄褐色ブロック土→灰黄褐色ブロック土	1→2	16世紀代	A区
2	町25-7ASK002	土坑	明灰茶土→暗灰茶土	1→2	16世紀後半	A区
3		溝状		1→2→3	近世?	A区
4	町25-7BSD004	溝状		4→3	中世?	B区

中世大友府内町跡第 25-7 次遺物観察表①

遺構番号	S 番号	種類	器種	図面番号	写真番号	R 番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町25-7ASD001	S-1灰褐色土(1)	土師質土器	燗台	第27B67	○	001	?	6.0±α	(7.6)	反転覆元
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(4)		燗鉢	第27B62		002	?	4.2±α	?	拓本有り
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(5)		燗	第27B63		003	?	1.7±α	?	
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(6)		皿	第27B61		004	?	1.3±α	?	
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(14)		鉢	第27B64		005	?	2.5±α	(9.8)	反転覆元
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(18)		燗鉢	第27B65		006	?	3.0±α	?	拓本有り
町25-7ASD001	S-1灰黄褐色ブロック土(22)		燗	第27B69		007	?	2.6±α	?	
町25-7ASK002	S-2暗灰茶土(24)		鉢	第27B69		008	?	2.3±α	?	
町25-7ASK002	S-2暗灰茶土(25)		皿	第27B68		009	(16.4)	2.2	(9.8)	反転覆元
町25-7ASK002	S-2暗灰茶土(26)		皿×鉢	第27B68		010	?	1.9±α	?	
	灰褐色土(32)		燗花(淨土系)	第27B612		011	?	1.4±α	?	
	灰褐色土(33)		燗	第27B611		012	?	4.0±α	?	小野分組群?
	灰褐色土(34)		白磁(国産?)	第27B613		013	?	2.2±α	(5.8)	目録有り 反転覆元
町25-7BSD004	S-4(1)		土師器	第27B614		014	(13.8)	2.8	(8.8)	小田嶋幸吉附 反転覆元
	灰褐色土(6)		土師器	第27B615		015	?	2.1±α	?	古墳?
	灰褐色土(17)		土師器	第27B617		016	?	1.8±α	?	
	灰褐色土(17)		土師器	第27B620		017	?	1.6±α	?	
	灰褐色土(19)		土師器	第27B615		018	?	2.0±α	?	古代
	灰褐色土(21)		土師器	第27B616		019	?	1.9±α	?	古代
	灰褐色土(22)		土師器	第27B618		020	?	1.4±α	?	
	灰褐色土(27)		土師器	燗(金敷型)	第27B621	021	?	1.7±α	?	
	所トレンテ 淡茶褐色土(30)		古式土師器	燗×燗	第27B623	022	?	2.8±α	?	
	表土(38)		青灰(国産?)	皿?	第27B624	023	?	1.2±α	(7.8)	反転覆元 「長谷富貴」印
	南壁(40)		(国産陶磁器(肥前産?)) 皿	第27B623		024	?	1.0±α	(6.9)	

第Ⅷ章 中世大友府内町跡第 25-8 次調査

第 1 節 調査の状況

調査地点は、町 25-2、6 次調査区と現在の道路を挟み西側に位置し、「府内古絵図」、復原想定図によると推定上町に該当する。周辺の状況を見ると、北に約 60 m 離れた場所で大分県により調査が行われており、キリシタン関連施設を窺わせる推定キリシタン墓や東方向に伸びる道路状遺構、砂質土、粘質土を交互に積み重ねた積土遺構などが確認されている。今回の調査では、古絵図に描かれる中世府内町の最西部に存在する南北街路の確認が期待されたが、溝状遺構、井戸跡などが見つかったのみであった。

調査は六坊新中島線の拡幅に付随する初瀬井路の除去及び新設工事に伴うもので、工事の工程に沿って便宜的に A～C 区の 3 地点に分けて実施している。

第 2 節 層序など

既存の道路側溝の有無などはあるが、3 地点において基本層序は以下のように共通する。まず、表土の下位に近世のものと思われる耕作土層（灰褐色）が現れる。この耕作土層は、層中に細かい砂や中世の遺物を含んでいたことから当初は道路状遺構かと考えられたが、硬化現象が無いこと、酸化、鉄分の沈着が見られること、そしてほぼ単一層であることなどから耕作土と判断した。この耕作土を除去すると遺構検出面である黄褐色土が検出される。遺構検出面は A 区では約 4 m、C 区では約 3.6～3.8 m となり、北に進むほど検出面は低くなる。

第 3 節 遺構・遺物

1 町 25-8 次 A 区

(1) 溝状遺構（第 29 図）

町 25-8ASD014（＝S-15、16） 調査段階で複数の S 番号が見られるが、これは溝に堆積する埋土にそれぞれ付したためである。基本的にはすべて同一遺構内のものであり、よって SD014 で統一して報告する。遺物に関しては、先にナンバリング作業等を行ったため、煩雑をさけるため調査時の S 番号ごとに説明する。

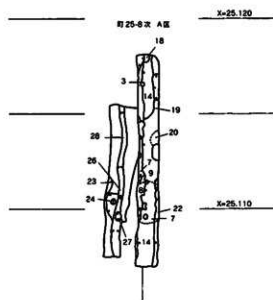
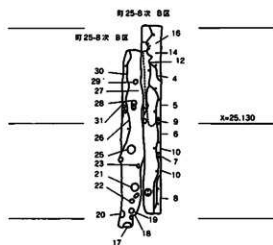
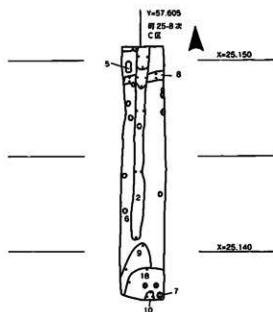
町 25-8ASD014 は調査区中央部において検出した南北方向に伸びる溝状遺構である。検出長約 11.5 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.3 m を測り、横断面形状はレンズ状、遺構底面の縦断面はほぼフラットな状態であった。遺構検出後一段下げを行った際、溝状遺構中位から南側にかけてラミナ状堆積が認められ、特に南側で顕著であった。土層観察からは先述したように水流痕跡は窺えるが、一度掘り返された後、最終的には人為的に埋め戻されている。出土遺物から、16 世紀後半には埋没していたと考えられる。

町 25-8ASD028 町 25-8 次 A 区西側調査区で検出した南北方向に伸びる溝状遺構である。検出長約 8 m、幅約 0.4 m、深さは約 0.1～0.15 m を測り、横断面は U 字状を呈す。出土遺物は無く時期については不明である。

(2) 溝状遺構出土遺物（第 30 図）

すべて町 25-8ASD014 から出土したものである。

1～3 は暗灰茶色土より出土しており、1 は在地系土師質土器坏体部、2 は瓦質土器鉢底部、3 は瓦の一部と思われる 4 は京都系土師器皿口縁部で、強いナデにより口縁部が外反し、外面に稜線が残る。5 は在地系土師質土器坏口縁部である。6 は土師器坏口縁部で、坏 a に分類される。7 は在地系土師質土器皿である。8 は土師質土器浅鉢（火鉢）口縁部で外面に菊花のスタンプ文が施される。9 は備前焼査体部で、器面は内外面ともに暗赤褐色を呈する。10 は青花と思われる碗底部（E 群か）で、高台登付のみ露胎である。11 は白磁小皿底部で、高台登付付近は無釉、高台内も一部無釉である。12 は中国産白磁皿底部で、大宰府分類白磁皿Ⅲ類に該当する。13 は朝鮮系陶器器体部である。14 は丸瓦で中世に比定される。15 は京都系土師器皿口縁部で、強いナデにより口縁部が外反する。16 は染付皿口縁部で、近世後半以降の所産と考えられる。17 は土師器坏口縁部で、坏 a に分類される。



第 28 圖 町 25-8 次 遺構配置図 (S=1/200)

町 25-BASD014 焼灰系赤土



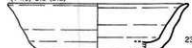
町 25-BASD014(S-15)



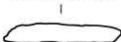
町 25-BASD019
7-1.5+ a -(6.4)



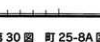
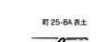
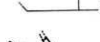
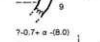
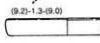
(14.0)-3.6-(9.8)



町 25-BASK020



町 25-BASD014



町 25-BASD014(S-16)



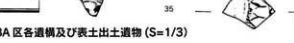
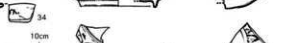
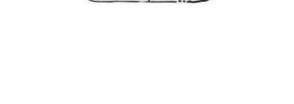
町 25-BASK018



町 25-BASK023



(30.0)-12.0-(10.0)



第 30 図 町 25-BA 区各遺構及び表土出土遺物 (S=1/3)

18は京部系土師器皿口縁部である。19は備前焼掘鉢口縁部で、外面口縁部から内面にかけて軸がかかり暗赤褐色を呈する。乗岡編年中世6期と考えられる。20は染付皿口縁部である。肥前産と考えられるが、小野分類染付皿F群の可能性もある。21は龍泉窯系青磁皿口縁部で、口縁部に軸花を有し、内面は方刃などにより模様が生かされる。22・23は在地系土師質土器環で、底部に回転糸切り痕を残す。24は土師質土器浅鉢で、浅鉢口縁部である。25は土師質土器脚付鉢の脚部と考えられる。

(3) 土坑 (第29図)

町25-BASK018 A調査区の北側で検出された平面長楕円形を呈すると思われるもので、調査区外へと広がるため規模等は不明である。

町25-BASK020 調査区の中央東側で検出され、現状南北約1.6m、東西約0.8m + α を測り、平面円形プランを呈すものと思われる。

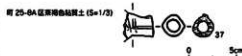
町25-BASK021 町25-BASK021の南側で確認され、現状南北約1.2m、東西約0.4m + α を測り、平面円形プランを呈すと思われる。埋土は淡灰褐色の単一層であった。

町25-BASK022 調査区中央、町25-BASK014を完掘後に検出された。規模は南北径約2.2m、東西径約1.2m + α 、深さ約?mを測り、平面円形プランを呈すと思われる。埋土はほぼ灰茶褐色の単一層であった。

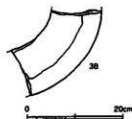
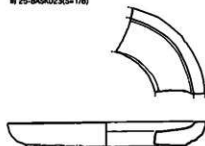
町25-BASK023 A区西側調査区の中央西側で確認され、規模は南北約1.2m + α 、東西約0.2m + α 、深さは現状で約0.3mを測り、平面円形プランになるものと推測される。掘り下げ途中で、備前焼掘鉢が1/2個体廃棄された状態で出土した。

(4) 土坑出土遺物 (第30・31図)

26は町25-BASK018より出土した、肥前系磁器染付碗口縁部で、18世紀前半以降の所産である。27・28は町25-BASK020より出土したものである。27は土師質土器火鉢底部である。28は在地系土師質土器環の底部を打ち欠いた加工土器片である。29は町25-BASK021黄灰茶色土より出土した、土師質土器壺頸部である。30～32は町25-BASK023よりの出土。30は防長系足銅の脚部分で、内面はハケ目後ナデを、外面はケズリ後ナデを施している。31・32は備前焼掘鉢である。31は10条一組の櫛目を有し、器面は内外面ともに赤褐色を呈する。内面は磨耗しており、使用していたと考えられる。乗岡編年中世6a期に比定される可能性がある。32は7条一組の櫛目を有し、器面は灰褐色～暗赤褐色を呈する。乗岡編年中世5期～6a期に比定される。



町25-BASK023(5=1/6)



第31図 町25-BASK023、茶褐色粘質土出土遺物

(5) 表土出土遺物 (第30・31図)

33～36は表土から出土した。33は龍泉窯系青磁碗口縁部で、軸は茶色がかかった緑色、胎土は灰色を呈する。34は青花碗口縁部で、小野分類染付碗B群にあたる。35は青花皿底部で、高台登付の露胎である。小野分類染付皿E群である。36は青花染付皿底部で蒔絵底を呈し、小野分類染付皿C群に該当する。

2 町 25-8 次 B 区

調査地点は、A 区より北に約 5 m 離れた場所に位置する。A 区同様南北方向に伸びる溝状遺構、ピットなどが確認されている。

(1) 溝状遺構 (第 32 図)

町 25-8BSD002 (S-12・14) B 区東側調査区の中央で確認される南北方向に伸びる溝状遺構で、検出状況から本調査区内でこの溝状遺構は終わっている。S 番号を複数付けてあるが、A 区と同様な理由で SD002 に統一する。検出長約 8.5 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.4 m を測り、断面形状は逆台形を呈す。SD002 の南側は一段高くなっており別遺構が存在した可能性もある。土層観察からは水流痕跡は認められなかった。

この SD002 は町 25-8ASD014 に繋がるものと思われる。出土遺物から 16 世紀後半には埋没は始まっていたと考えられる。

B 区の西側延長部、町 25-6 次調査で幅員約 4 m を有す東西方向に伸びる溝状遺構 (町 25-6SD160) が発見されているが、本調査では同様な状況は認められなかった。但し、SD002 の南側で町 25-6SD160 と似たような埋土が香取され、溝底面が一段高くなっていることから町 25-6SD160 が存在していた可能性がある。

(2) 溝状遺構出土遺物 (第 33 図)

1 は町 25-8BSD002 より出土した丸瓦で、中世に比定される。2 は京都系土師器皿口縁部で、3 は在地系土師器環口縁部、土師質土器浅鉢 (火鉢) 口縁部である。5 は龍泉窯系青磁碗高台部である。釉調は茶色みを有する緑色で、胎土は灰色を呈す。6 は京都系土師器皿体部で、外面に強いナデによる稜線が残る。

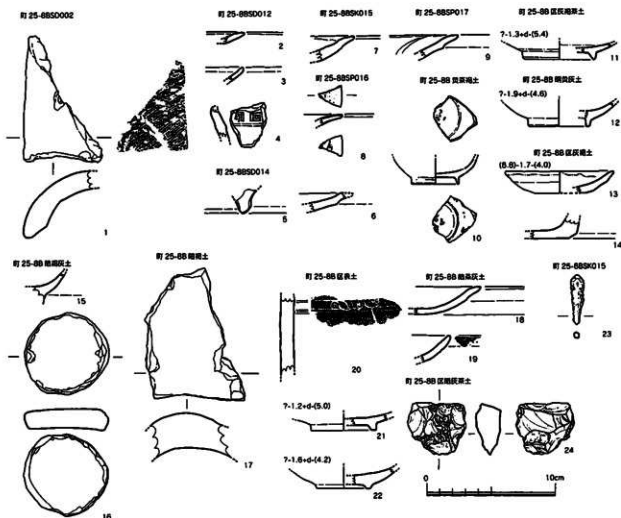
(3) その他の遺構 (第 32 図)

町 25-8BSX016 B 区東側調査区に北側で確認されるピット状の掘り込みである。掘り方径約 0.6 m、深さ約 0.8 m を有し、周辺の調査事例と比較すると極めて深い様相を呈す。復原想定図を見ると、本調査地から南に離れた地点で木戸跡の存在が推測されていることは注目される。

町 25-8BSX026・030 B 区西側調査区の西側で検出された南北方向に伸びる溜まり状遺構である。

(4) その他の遺構、各土層、表土出土遺物 (第 33 図)

7 は町 25-8BSX015 より出土した京都系土師器皿口縁部で、強いナデにより口縁部が外反する。8 は町 25-8BSX016 暗灰褐色砂質土からの出土で、青花皿口縁部と考えられる。9 は町 25-8BSX017 より出土した京都系土師器皿口縁部で、強いナデにより口縁部は外反し、体部外面に稜線が残る。10 は黄茶褐色土の肥前系磁器染付碗底部で、大橋編年Ⅳ期に比定される。11 は灰褐色土より出土した近世磁器染付碗で、内面見込みおよび高台部は無軸である。12 は明黄灰土から出土した近世陶器 (京焼風) 碗底部で、高台部付近は無軸である。13～14 は灰褐色土から出土した。13 は京都系土師器皿で、灯明皿として使用しており、内外面とも口縁部に煤が付着する。14 は土師質土器焙烙底部で、底面に砂が付着している。15・16 は暗褐色土より出土した。15 は土師器碗底部である。16 は加工土師器片で、土師質土器の底部を円形に打ち欠いて転用したと考えられる。17 は暗褐色土より出土した瓦で平瓦と考えられる。18・19 は暗茶灰土より出土した、京都系土師器皿口縁部である。19 は外面に布目痕を有する。20～22 は表土より出土した。20 は土師質土器で、浅鉢Ⅵ類に分類される。21 は染付碗または皿の底部で、内面見込み部分を輪状に輪割し、高台付付は露胎である。22 は唐津系陶器皿底部で、内面見込み部分に砂目痕があり、大橋編年Ⅱ期 (砂目痕み段階 1610～1630 年代) に比定される。23 は町 25-8BSX015 より出土した鉄釘である。24 は姫島産黒曜石の石核である。



第33図 町25-88区各遺構及び各土層・表土出土遺物 (S=1/3)

3 町25-8次C区

C区はB区の北側にはば隣接する。確認された遺構は、井戸跡、溝状遺構、ピットなどである。

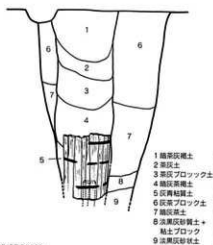
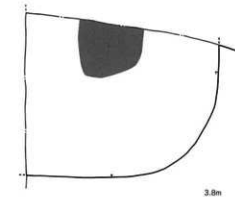
(1) 井戸跡

町25-8CSE010 (第34図) 調査区の南側で確認され、現状南北約1.6m + α、東西約1m + α、深さは約2m + αを測るが、危険防止のため完掘までは至っていない。平面形状は隅丸方形を呈すものと思われる。遺構検出段階から、井筒プランは認められていた。井筒部は結桶積み上げによるもので、現状2段分を検出したが、その上位の部分は抜き取られていた。結桶部は長さ約0.6mの板材を竹皮により固定していた。埋め戻しに際しての祭祀跡などは認められていない。出土遺物から15世紀後半～16世紀初頭段階には埋没していたと推測される。

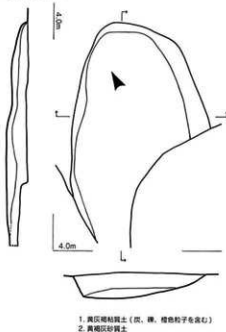
(2) 井戸跡出土遺物 (第35図)

1～19は、町25-8BSE010より出土した。1・2は灰茶色粘質土から出土である。1は在地系土師質土器底部で、底部に回転糸切り痕を残す。2は土師質土器鉢底部である。3～14は灰茶褐色ブロック土より出土した。3～12は在地系土師質土器で、3・4は小坏、5・6はロクロ目を有すタイプの坏で、7～11は坏底部、12は坏口縁部で直線的に開くタイプである。3・4・6～11は、底部に回転糸切り痕を残す。13は土師質土器火鉢であると考えられ、脚部を欠損する。14は丸瓦で中世に比定される。15は在地系土師質土器小坏、16は在地

町 25-B-C SE010



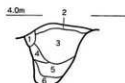
町 25-8C SX009



Y=57.605

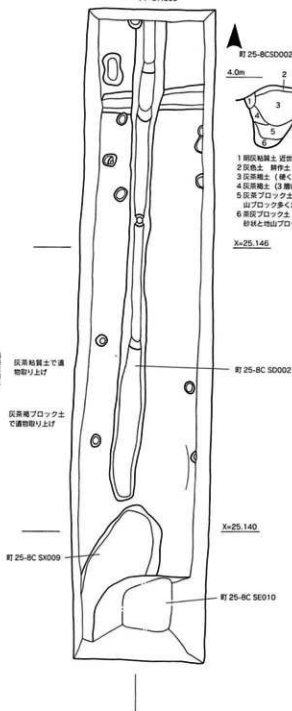
町 25-8C 区

町 25-8CSD002 土構図 (S=1/40)



- 1 黄灰粘質土 近世～
- 2 灰土 耕作土
- 3 灰土 (硬くしめる)
- 4 灰土 (3層に積み)
- 5 灰土ブロック土 (底の大きい地山ブロック多く含む)
- 6 灰土ブロック土 砂状と地山ブロック混土

X=25.146



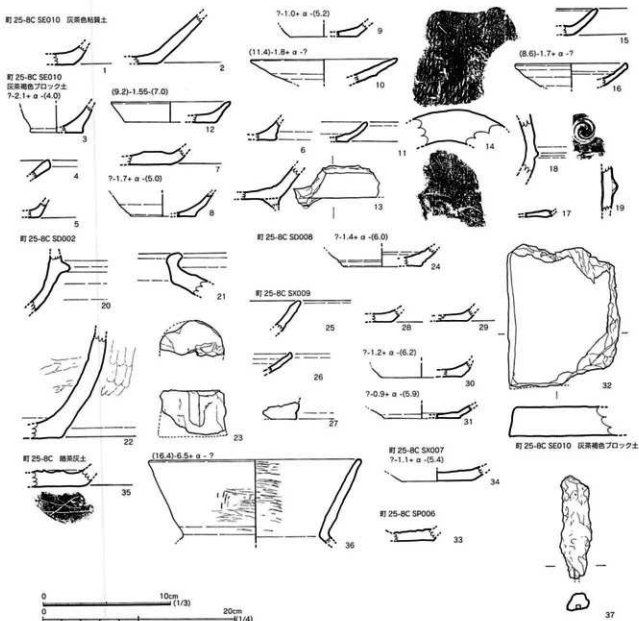
第 34 図 町 25-8 C 区遺構全体図、町 25-8CSE010・SX009 平面図・断面図

系ロクロ目土師質土器、17 は白色系土師器底部である。18 は土師質土器浅鉢体部である。19 は古瀬戸瓶子の可能性があり、釉調はくすんだ緑色を、胎土は灰白色を呈す。

(3) 溝状遺構 (第 34 図)

町 25-8CSD002 調査区中央で検出した南北溝で、区内で取束する。検出長約 10.4 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.65 m を測り、断面形状は逆台形を呈す。土層観察から一度掘り返しが行われていること分かる。また、水流痕跡を示す土層は認められない。出土遺物のみから判断すると 16 世紀以前の段階には埋設していたと考えられる。

町 25-8CSD008 調査区の北側、東西方向に伸びる溝状遺構である。検出長約 2.0 m、幅約 0.4 m を測り、新旧関係から SD002 より古相に位置付けられる。



第 35 図 町 25-8C 区各遺構及び焼灰土出土遺物 (22・32 は S=1/4、他は S=1/3)

(4) 溝状遺構出土遺物 (第35図)

20～23は町25-8CSD002より出土した。20は土師質土器釜体部である。21は備前焼壺口縁部で、器面は内外面ともに灰色を呈する。22は備前焼甕底部で、器面は内外面ともに赤褐色を呈する。23は土師質土器燗台である。24は町25-8CSD008より出土した在地系ロクロ目土師質土器坏底部で、内面にロクロ目を残す。

(5) その他の遺構 (第34図)

町25-8SX009 調査区の南側で、町25-8CSE010に一部掘削された状態で検出された。長径約2.2m + α、短径約1.6m、深さ約0.3mを測り、平面楕円形プランを有する。土層観察から埋土は大きく2層に分層される。町25-8CSE010の構築時に関わる可能性もある。

(6) その他の遺構、各土層出土遺物 (第35図)

25～32は町25-8CSX009より出土した。25～30は在地系土師質土器坏口縁部で、26はロクロ目を有すタイプである。31は白色系土師器坏底部で、底部に回転系切り痕を残し、大内II期に比定される可能性がある。32は瓦質の埴である。33は町25-8CSP006より出土した、在地系土師質土器小坏底部である。内面見込み部分にロクロ目痕を、底部外面に回転系切り痕を残す。34は町25-8CSP007より出土した、在地系土師質土器坏底部で、底部に回転系切り痕を残す。35・36は、暗茶灰土より出土した。35は国産陶器壺底部と考えられ、底面にはヘラ記号が残る。36は古式土師器広口壺口縁部である。内外面ともにハケ目を施した後ナデを施している。37は町25-8CSE010より出土した鉄製品で、釘と考えられる。

中世大友府内町跡第25-8次A区遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1		溜まり状		18→1	近世以降
2		溜まり状		14→2	
3					
4		溜まり状		14→4	
5	欠番				
6		ピット			
7		ピット			
8		溜まり状		8→7	
9		ピット		14→9	
10	欠番				
11					
12					
13					
14	町25-8ASD014	溝状	淡灰茶砂質土→暗茶褐土→淡灰シルト質土 →暗茶褐土・淡灰褐土→暗茶褐土→淡灰茶土→茶灰褐土		16世紀後半
15					
16	町25-8ASD014	溝状			
17		ピット			
18		土坑?		18→1	近世
19	町25-8ASD014	溝状			中世
20	町25-8ASK020	土坑		20→14	中世
21	町25-8ASK021	土坑		21→14	中世
22	町25-8ASK022	土坑		22→14	中世
23	町25-8ASK023	土坑	暗灰褐砂質土→暗茶褐土		～16世紀前半
24		ピット		25→24	
25		土坑?		25→24, 28	
26		ピット		28→26	
27		ピット		28→27	
28	町25-8ASD028	溝状			

中世大友府内町跡第25-8次B区遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1					
2	町25-8BSD002	溝状	淡灰褐砂質土→灰黄褐色土→灰褐色土	2→3~5	16世紀後半
3		溜まり状		5→4→3	16世紀後半以降
4		溜まり状		5→4→3	16世紀後半以降
5		溜まり状		5→4→3	
6		溜まり状		6→6	
7		ピット		6→7	
8		溝状?			
9		ピット			
10		溝状?		10→8	
11		ピット		2→11	
12	欠番				
13	欠番				
14		溜まり状			
15					
16	町25-8BSX016	ピット×土坑		2→16	16世紀後半以降
17		ピット			
18		ピット			
19					
20		ピット			
21		ピット			
22		ピット			
23		ピット			
24		ピット			
25		ピット			
26		溜まり状		30→26	
27		ピット			
28		ピット			
29		ピット			
30		溜まり状		30→20	
31		ピット			
32		ピット			

中世大友府内町跡第25-8次C区遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
1					
2	町25-8CSD002	溝状	茶灰ブロック土→灰茶ブロック土→ 灰茶褐色土→灰茶褐色土	8→2	16世紀後半
3					
4					
5		ピット?			
6		ピット			
7		ピット		10→7	中世
8	町25-8CSD008	溝状		8→2	中世
9	町25-8CSX009	土坑?		9→10	～16世紀代
10	町25-8CSE010	井戸跡	淡黒灰砂質土→淡黒灰砂質土→暗茶茶土 →灰茶ブロック土→灰青粘質土→暗茶茶褐色土 →茶灰ブロック土→茶灰土→暗茶灰褐色土	10→7, 11	～16世紀代
11		ピット		10→11	
12					
13					
14					
15					

中世大友府内町跡第 25-8 次A区遺物観察表①

遺物番号	S 番号	種類	図様	図様番号	写真番号	R 番号	口徑 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25-8ASD014	S-14	染付	碗	第30図10		001	-	1.6-α	(4.8)	
町 25-8ASD014	S-14	白磁	碗?	第30図12		002	-	0.7-α	(8.0)	大宇府分類IV-4類
町 25-8ASD014	S-14	陶器(朝鮮産)	皿	第30図13		003	-	2.7-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	土師質土器	大鉢	第30図8		004	-	3.9-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	国産陶器(備前)	皿×花入	第30図9		005	-	2.8-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	陶灰茶色土	瓦製品	瓦	第30図3	006	-	-	-	
町 25-8ASD014	S-14	陶灰茶色土	瓦質土器	鉢?	第30図7	007	-	1.6-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	陶灰茶色土	土師器	杯	第30図1	008	-	1.8-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	白磁	小皿	第30図11		009	-	0.9-α	3.0	
町 25-8ASD014	S-14	在地系土師質土器	杯	第30図6		010	-	2.5-α	-	坪A
町 25-8ASD014	S-14	在地系土師質土器	杯	第30図5		011	-	2.5-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	京都系土師器	皿	第30図4		012	-	2.1-α	-	
町 25-8ASD014	S-14	在地系土師質土器	皿	第30図7		013	(9.2)	1.3	(9.0)	
町 25-8ASD014	S-14	茶褐色粘質土	瓦製品	瓦	第30図14	014	-	-	-	
町 25-8ASD014	S-14	茶褐色粘質土	瓦製品?	瓦	第30図15	015	-	-	-	
町 25-8ASD014	S-15	白磁	碗?	第30図16		016	-	1.1-α	-	
町 25-8ASD014	S-15	京都系土師器	皿	第30図15		017	-	1.1-α	-	
町 25-8ASD014	S-16	青磁(龍泉京系)	皿	第30図21		018	-	0.7-α	-	
町 25-8ASD014	S-16	陶磁器(肥前産?)	皿	第30図20		019	-	2.1-α	-	(前)朝日新聞15頁 2次調査より採取(朝日)4頁
町 25-8ASD014	S-16	陶灰茶色土	京都系土師器	皿	第30図18	020	-	1.1-α	-	
町 25-8ASD014	S-16	国産陶器(備前)	鉢鉢	第30図19		021	-	4.7-α	-	東岡編年中世6期a
町 25-8ASD014	S-16	土師器	杯?	第30図17		022	-	1.8-α	-	坪A
町 25-8ASD018	S-18	陶磁器(肥前産)	碗?	第30図26		023	-	2.1-α	-	
町 25-8ASD019	S-19	土師質土器	小皿?	第30図29		024	-	1.4-α	-	
町 25-8ASD019	S-19	在地系土師質土器	杯鉢	第30図25		025	-	3.3-α	-	
町 25-8ASD019	S-19	土師質土器	杯	第30図22		026	(14.0)	3.6	(9.8)	脚の一部?
町 25-8ASD019	S-19	土師質土器	浅鉢	第30図24		027	-	4.2-α	-	浅鉢群類?
町 25-8ASD019	S-19	在地系土師質土器	杯	第30図22		028	-	1.5-α	(6.4)	
町 25-8ASD020	S-20	土製品	加工土器破片	第30図28		029	横 8.8	厚さ 2.1	4.0	外周に打ち欠き痕あり
町 25-8ASD020	S-20	土師質土器	火鉢	第30図27		030	-	2.3-α	-	
町 25-8ASD023	S-23	国産陶器(備前)	鉢鉢	第30図31		031	-	7.4-α	(14.5)	細頸2枚物、器口内、内底に2枚物、底に2枚物
町 25-8ASD023	S-23	国産陶器(備前)	鉢鉢	第30図32		032	(30.0)	12.0	(10.0)	東岡編年中世5期~6期a 様目7本
町 25-8ASD023	S-23	陶灰茶色粘質土	瓦質土器	脚付き鉢	第30図30	033	-	6.7-α	-	防鼠籠
町 25-8ASD023	S-23	白磁	石臼	第31図28	○	034	-	-	-	
町 25-8ASD023	S-23	青磁(龍泉京系)	碗	第30図33		035	-	1.5-α	-	
町 25-8ASD023	S-23	青磁	碗	第30図34		036	-	1.1-α	-	
町 25-8ASD023	S-23	青磁	碗	第30図35		037	-	1.4-α	(5.8)	
町 25-8ASD023	S-23	青磁	碗	第30図36		038	-	2.1-α	-	小野分類C群

中世大友府内町跡第 25-8 次B区遺物観察表①

遺物番号	S 番号	種類	図様	図様番号	写真番号	R 番号	口徑 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25-8BSD012	S-12	在地系クワ目土師質土器	杯	第33図3		039	-	1.1-α	-	
町 25-8BSD012	S-12	土師質土器	大鉢	第33図4		040	-	2.3-α	-	
町 25-8BSD017	S-17	京都系土師器	皿	第33図9		041	-	1.7-α	-	内面の「字ナデ」
町 25-8BSD014	S-14	青磁(龍泉京系)	皿	第33図5		042	-	1.7-α	-	
町 25-8BSD014	S-14	京都系土師器	皿	第33図6		043	-	1.4-α	-	
町 25-8BSD015	S-15	京都系土師器	皿	第33図7		044	-	1.5-α	-	厚手 塩地唐草
町 25-8BSD012	S-12	京都系土師器	皿	第33図2		045	-	0.9-α	-	
町 25-8BSD016	S-16	青磁	碗	第33図8		046	-	0.8-α	-	
町 25-8BSD002	S-2	瓦製品	瓦	第33図1		047	-	-	-	
町 25-8BSD015	S-15	金属製品	鉄釘	第33図23		048	-	-	-	
町 25-8BSD015	S-15	国産陶器(関西系)	碗	第33図12		049	-	1.9-α	(4.6)	京焼類
町 25-8BSD015	S-15	国産陶器(肥前産)	碗	第33図10		050	-	2.6-α	(4.8)	朝日新聞1990(200) 図版184 170~171(図17)
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	杯	第33図15		051	-	2.0-α	-	
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	杯	第33図14		052	-	1.6-α	-	粘土色調茶褐色
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	碗×皿	第33図21		053	-	1.2-α	(5.0)	足込み輪紋に輪紋あり
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	浅鉢	第33図22		054	-	1.6-α	(4.2)	底面内部に重むね痕あり
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	浅鉢	第33図20		055	-	6.0-α	-	外面に横文のスタンプ
町 25-8BSD015	S-15	土師質土器	石鉢	第33図24		056	横 3.1 (8.8)	縦 4.5	最大厚 1.9	朝日新聞朝石
町 25-8BSD015	S-15	陶灰茶色土	瓦製品	瓦	第33図11	057	-	1.7	-	打明眼
町 25-8BSD015	S-15	陶灰茶色土	国産陶器	碗	第33図14	058	-	1.3-α	(4.0)	内面底の目録割ぎ 産地不明 近世
町 25-8BSD015	S-15	陶灰茶色土	京都系土師器	皿	第33図19	059	-	2.1-α	(5.4)	口縁部の一部に有目あり 内面腹付着
町 25-8BSD015	S-15	土製品	加工土器片	第33図16		060	-	-	-	外周全体に打ち欠き痕あり
町 25-8BSD015	S-15	京都系土師器	皿	第33図18		061	-	2.2	-	
町 25-8BSD015	S-15	瓦製品	平瓦?	第33図17		062	-	-	-	

中世大友府内町跡第 25-8 次 C 区遺物観察表①

遺物番号	S 番号	種類	図様	図様番号	写真番号	R 番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25-8CSD008	S-8	在地系クロロ目土師質土器	皿	第 35 図 24	063	-	1.4+	a	(6.0)	
町 25-8CSX009	S-9	白地系土師器	片	第 35 図 31	064	-	0.9+	a	(5.9)	大内 日 期?
町 25-8CSX009	S-9	在地系土師質土器	片	第 35 図 30	065	-	1.2+	a	(6.2)	
町 25-8CSD002	S-2	土師質土器	釜	第 35 図 20	066	-	5.4+	a	-	
町 25-8CSD007	S-7	在地系土師質土器	杯	第 35 図 34	067	-	1.1+	a	(5.4)	
町 25-8CSD002	S-2	国産陶器(備前)	甕	第 35 図 21	068	-	3.3+	a	-	
町 25-8CSX009	S-9	在地系クロロ目土師質土器	杯	第 35 図 26	069	-	1.5+	a	-	
町 25-8CSX009	S-9	在地系土師質土器	杯?	第 35 図 29	070	-	0.9+	a	-	底部 糸切り処理後ナデている?
町 25-8CSD010	S-10	在地系土師質土器	小杯	第 35 図 15	071	-	2.0	a	-	
町 25-8CSX009	S-9	在地系土師質土器	杯	第 35 図 28	072	-	1.0+	a	-	断面磨耗しているため調整不明瞭
町 25-8CSX009	S-9	在地系土師質土器	杯	第 35 図 25	073	-	2.2+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10	在地系クロロ目土師質土器	杯	第 35 図 16	074	(R.6)	1.7+	a	-	
町 25-8CSD002	S-2	国産陶器(備前)	甕× 壺	第 35 図 22	075	-	10.8+	a	-	
町 25-8CSX009	S-9	土製品	埴	第 35 図 32	076	-	-	-	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶色粘質土	土師質土器	鉢?	第 35 図 2	077	-	3.7+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	皿× 杯	第 35 図 10	078	(11.4)	1.8+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	皿?	第 35 図 12	079	(9.2)	1.6	(7.0)	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	片	第 35 図 8	080	-	1.7+	a	(5.0)	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色粘質土	在地系土師質土器	杯	第 35 図 1	081	-	1.4+	a	-	表面にマンガン付着
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	土師質土器	鉢?	第 35 図 13	082	-	3.2+	a	-	跡あり
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	皿	第 35 図 11	083	-	1.5	-	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	小杯	第 35 図 3	084	-	2.1+	a	(4.0)	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	杯	第 35 図 9	085	-	1.0+	a	(5.2)	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	杯?	第 35 図 4	086	-	1.7+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	杯?	第 35 図 6	087	-	1.5+	a	-	
	灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	杯?	第 35 図 5	088	-	1.2+	a	-	全体的に傾いている
	朝鮮灰土	国産陶器(備前)	甕?	第 35 図 35	089	-	1.3+	a	-	底部に文字?有り
町 25-8CSX009	S-9	土師質土器	杯?	第 35 図 27	090	-	1.1+	a	-	
	朝鮮灰土	古式土師器	片(口内)	第 35 図 36	091	(16.4)	6.5+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	瓦	瓦瓦	第 35 図 7	092	-	-	-	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	在地系土師質土器	杯	第 35 図 7	093	-	-	-	-	
町 25-8CSD010	S-10 灰茶褐色ブロック土	金属製品	鉄釘?	第 35 図 37	094	-	-	-	-	
町 25-8CSD010	S-10	国産陶器(備前・美濃)	花盛り人形	第 35 図 19	095	径 7.4	幅 2.3/1.2	厚 1.2	-	
町 25-8CSP006	S-6	在地系土師質土器	小杯?	第 35 図 23	096	-	3.7+	a	-	
町 25-8CSD010	S-10	白地系土師器	杯?	第 35 図 17	097	-	0.9+	a	-	見込みにクロロ目粘土質に埋す
町 25-8CSD010	S-10	土師質土器	火鉢	第 35 図 18	098	-	0.5+	a	-	断面磨耗により調整不明瞭
町 25-8CSD002	S-2	土師質土器	甕付	第 35 図 23	099	-	4.1+	a	-	

第Ⅸ章 中世大友府内町跡第25-9次調査

第1節 調査の状況

中世大友府内町跡第25-9次調査（以下、「町25-9次」とする）は、都市計画道路六坊新中島線の道路拡幅工事に伴い、2006年3月17日～23日に調査を実施した。当調査地点は、町25-6次調査区の北側に隣接し、「府内古絵図」、復原想定図に示される中世府内町の最西部の南北街路沿い、推定上町に位置すると考えられる。また、キリシタン関連の遺構が検出された町10次調査地の南側に隣接する。調査面積は、約27㎡を測る。

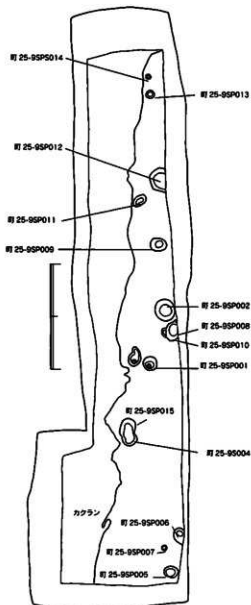
第2節 層序について

現地表面～標高約4.2mの間においては、現代の大幅な造成が確認されており、その下位には、出土遺物から近代～近世に比定される水田層が検出された。中世段階と考えられる遺構面は、前述の水田層直下、標高約3.8mに展開し、水田によって削平を受けているものと考えられる。

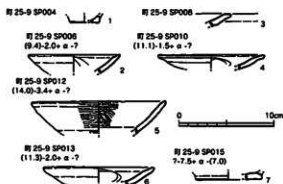
第3節 遺構・遺物（第99・36図）

当調査地点で確認された遺構は、柱穴遺構のみである。調査区は狭小であり、調査区西半は現代の削平を受けていたことから、建物跡等を確認するには至らなかった。しかし、柱穴遺構の中には柱痕が確認されたものや、遺物が出土したものが多くあり、埋土には炭化物や焼土が多く含まれる。柱痕が確認された遺構としては、町25-9SP001～SP005、SP009、SP012が挙げられる。また、町25-9SP012・014からは埴土が出土しており、建物が存在していた可能性が推測される。遺構から出土した遺物としては、古墳時代土師器・須恵器、在地系土師質土器小坏・坏・皿（京都系土師器Ⅲ）、陶器、埴土、石英製玉砂利、不明銅製品などがある。

1は在地系土師質土器小坏底部で、町25-9SP004より出土した。底部に回転系切り痕を残す。2～4は、京都系土師器Ⅲである。2は町25-9SP006、3は町25-9SP008、4は町25-9SP010より出土した。2・4は、内面に「の」の字ナデと考えられるナデが施される。5は土師器碗で、町25-9SP012より出土した。器面は、内外面共にミガキが施される。6は、京都系土師器Ⅲで、SP013より出土した。内面に「の」の字ナデと考えられるナデが残る。7は在地系土師器坏底部で、町25-9SP015より出土した。底部に回転系切り痕を残す。今回、図示できなかったが、町25-9SP012から、白色系土師器坏の破片が出土している。



第99図 町25-9次 遺構全体図 (S=1/50)



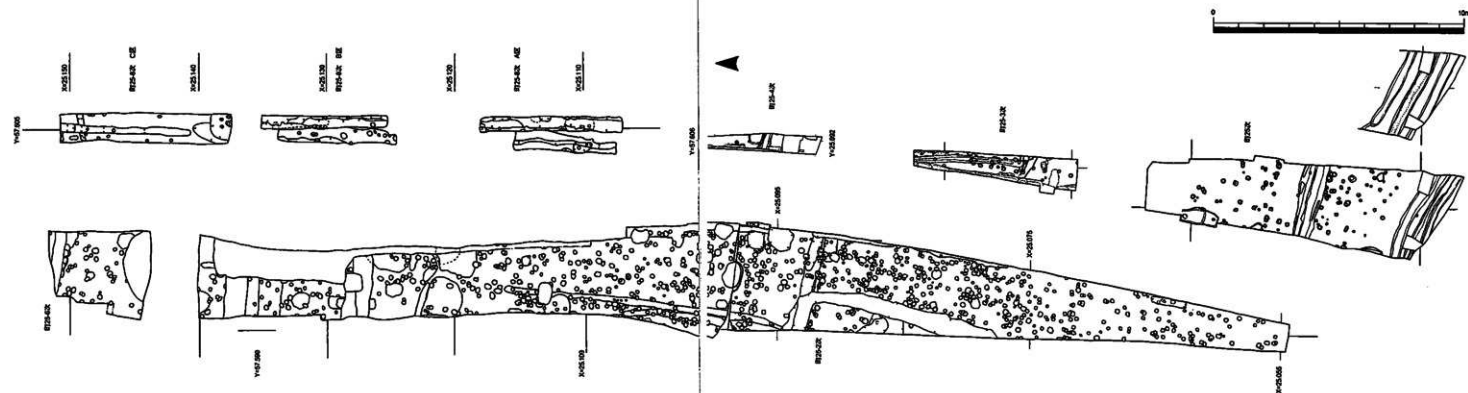
第36図 町25-9次柱穴遺跡出土遺物

中世大友府内町跡 25-9 次遺物観察表①

遺物番号	S 番号	種類	器種	図版番号	写真番号	R 番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町 25-9SP004	S-004	土師質土器	小鉢	第 36 図 1		001	?	0.75± α	(3.0)	反転覆元
町 25-9SP006	S-006	京都系土師器	皿	第 36 図 2		002	(9.4)	2.0± α	?	反転覆元
町 25-9SP008	S-008	京都系土師器	皿	第 36 図 3		003	?	1.35± α	?	反転覆元
町 25-9SP010	S-010	京都系土師器	皿	第 36 図 4		004	(11.1)	1.5± α	?	反転覆元
町 25-9SP012	S-012	土師器	碗	第 36 図 5		005	(14.0)	3.4± α	?	古代 反転覆元
町 25-9SP015	S-015	土師質土器	小鉢	第 36 図 7		006	?	7.5± α	(7.0)	反転覆元
町 25-9SP013	S-013	京都系土師器	皿	第 36 図 6		007	(11.3)	2.0± α	?	反転覆元

中世大友府内町跡第25-9次遺物台帳①

S番号	遺物番号	性格	層位	新旧関係	時期	地区番
1	町25-9SP001	ビット				
2	町25-9SP002	ビット				
3	町25-9SP003	ビット		4→3		
4	町25-9SP004	ビット		4→3		
5	町25-9SP005	ビット				
6	町25-9SP006	ビット			16世紀後半	
7	町25-9SP007	ビット				
8	町25-9SP008	ビット		10→8	16世紀後半	
9	町25-9SP009	ビット				
10	町25-9SP010	ビット		10→8	16世紀後半	
11	町25-9SP011	ビット				
12	町25-9SP012	ビット			15世紀後半～	
13	町25-9SP013	ビット			16世紀後半	
14	町25-9SP014	ビット			中世	
15	町25-9SP015	ビット		15→3		



第37図 町25次～町25-6次(5・7 区は除く)調査区道側全体図(S=1/300)

第X章 中世大友府内町跡 第27次調査

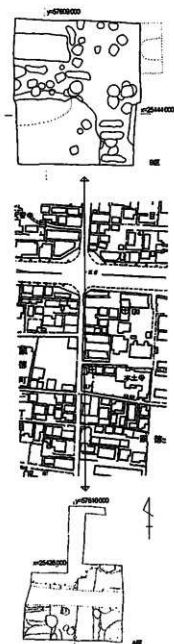
第1節 調査の内容

中世大友府内町跡第27-1次調査(以下、町〇次調査)は、都市計画道路六坊・新中島線の改良工事に伴う調査である。

町27-1次調査区は、大分市顕徳町3丁目に位置している。南側をA区、北側をB区とする。標高は遺構検出面が3.4mであり、現地表面から深さ約1.2mである。調査面積はA区で25㎡、B区で35㎡である。調査期間はA区・B区で、平成16年7月6日～平成16年11月8日まで実施した。

当調査区は、「府内想定復原図」を参照すると、大友館跡の西側に位置しており、第4南北街路周辺に位置すると思われ、周辺は「中町」「妙厳寺」「御北町」などが展開していると推定される。

周辺調査区は、近接した調査区はないが、南に26・32・25次調査区が展開している。第4南北街路周辺の状況が出土していると思われ、櫓や建物跡を構成する柱穴、井戸跡、祭祀土坑、溝跡、土坑などが出土している。ただし、第4南北街路の道路跡は、町10次調査区で一部確認できたのみで、他の調査区からの検出はまだない。



第38図 第27-1次調査区配置図



第39図 「想定復原図」の調査区位置図

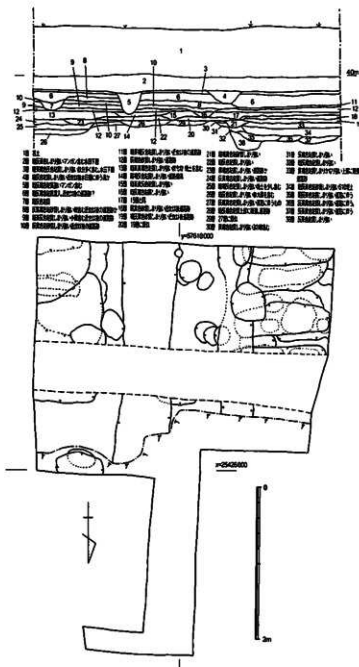
出土遺物は、土師質土器、京都系土師器、中国青磁・白磁・染付、備前焼、瀬戸産天目茶碗、土製品、石製品、鉄製品などが出土した。全体の出土遺物量はコンテナ10箱分である。

第2節 A区の調査

A区は27-1次調査の中で南に位置する調査区である。「府内古園」によれば、「御北町」「中町」周辺に位置すると思われる。A区は調査面積は約25㎡である。調査区の北側は建物の基礎、調査区中央部も上下水道管により、攪乱を受けており、遺構は確認できなかった。

検出した遺構は、道路跡（硬化面・波板状圧痕）、柱穴、土坑、溝跡などである。

出土した遺物は少量で、かわらけ（在地系・京都系）、備前焼、瓦質土器、土師質土器、須恵質甕、中国産青磁などである。



第40図 A調査区遺構配置図と土層断面図(1/50)

調査区の層序(第40図)は、表土から近現代土層、近代層、近世・中世で構成される。遺構検出面は標高約3.6mで、近世と推定される道路硬化面にあたる。

以下、遺構・遺物の説明は、遺構の種類ごとに行っていく。

道路跡の調査(第40図)

道路跡は調査区の攪乱を受けていない箇所全面において、確認された。土層断面図の6層以下は道路状堆積と考えられる。

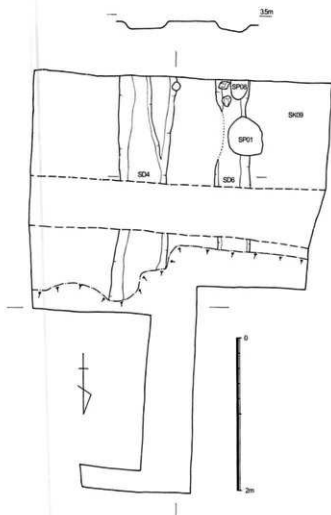
出土遺物はほとんどない。

溝跡(SD)の調査(第41図)

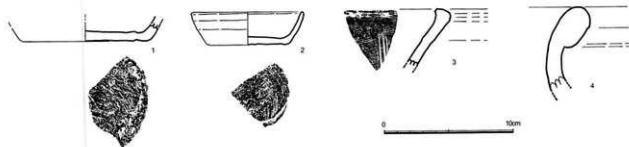
溝跡は土層断面12層下(道路面)で検出した。南北に2条確認でき、一部柱穴に切られる。両溝の周辺は道路面である。東側のSD4と西側のSD6からの出土遺物は少なかった。

SD4(第41図)

SD4はSD6の東側で検出し、調査区を南北に延びる溝である。北側に溝は延びると思われるが、攪乱により不明である。確認した規模は、長さ2.6m+α、最大幅0.7m、最大深0.15mである。溝の南側に一段テラスが付いている。北側に溝は延びると思われるが、攪乱により不明である。性格としては、区画の溝もしくは道路側溝かと推定される。



第41図 A調査区満跡検出状況(1/50)



第42図 A調査区満跡出土遺物実測図(1/3)

SP5 (第43図)

SP5は、調査区東側で検出した。拳大の礫が上層に充填されていた。切り合い関係は、上面(断面12層)の道路面に切られ、土坑を切る。SP5断面図には破線で囲んでいる範囲が充填範囲である。規模は、最大径0.45mで、最大深0.26mを測る。西側に一段テラスが付く。

出土遺物(第44図)

須恵質土器(1)は、甕の口縁部と思われる。口縁部は頸部から丸く外反し、口縁端部はヘラギリ状に四角に整える。胴部にかけては一部格子目状のタタキ痕が残る。亀山産の可能性がある。

SP6 (第43図)

SP6は、調査区やや西側で検出した。拳大の礫が数個積み重なっている状態である。明確に掘り方の

出土遺物(第42図)

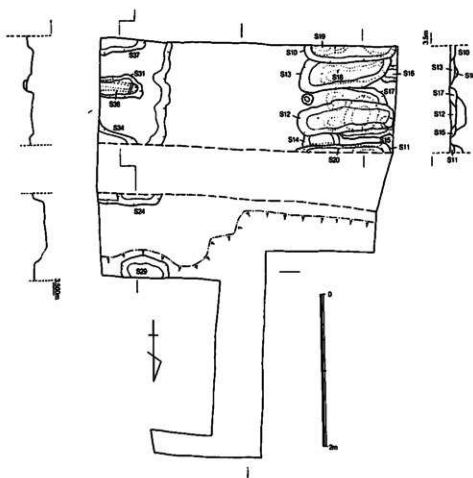
土師器質土器(1・2)は、1は坏である。外底は回転糸切りである。胴部はほとんどが欠けているが、底部から胴部にかけてゆるやかに外反していくものと思われる。2は坏である。外底部は回転糸切りである。底部から胴部へはやや外反しながら延びる。

瓦質土器(3)は、在地系の挿鉢と思われる。内面は細かいヨコハケをし、そのあと掘り目を入れるようである。口縁端部は、丸く仕上げ、少し内側につまみ出す。

備前焼(4)は、甕の口縁部である。口縁部をやや外反させながら、大きく玉縁状にする。

柱穴(SP)の調査(第43図)

柱穴は、調査区北側において、数基確認した。またその中で2基(SP5とSP6)は拳大の礫を充填していた。出土遺物は少量で、かわらけの小破片が多かった。これら柱穴は、建物跡もしくは柵跡、それ以外の構築物を構成するかどうかは不明である。



第45図 A調査区波板状圧痕検出状況 (1/50)

深0.05 m)、S36(長軸0.55m+ α 、短軸0.3 m+ α 、最大深0.05m)である。出土遺物は土師器小片である。

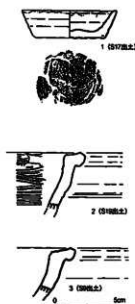
西側波板状圧痕 (第45図)

S10・11・13・14・15・16・17・18・19・20である。東側波板状圧痕と同様にそれぞれの波板状圧痕の平面プランは、東西方向に長軸をとるやや不定形な長方形プランであり、南北方向に連なる状況で検出した。東側波板状圧痕と比べて、それぞれの波板状圧痕の切り合い関係がある。それぞれの切り合い関係、規模は、S10(長軸1.1 m、短軸0.25 m+ α 、最大深0.1 m)で、S13を切る。S11(長軸1.25 m、短軸0.14 m+ α 、最大深0.1 m)で、S14を切る。S12(長軸1.25 m、短軸0.5 m、最大深0.1 m)で、S14・15・17を切る。S13(長軸1.2 m、短軸0.4 m+ α 、最大深0.05 m)で、S16・17を切る。S14(長軸0.5 m、短軸0.15 m+ α 、最大深0.1 m)で、S11・12に切られる。S15(長軸0.75 m+ α 、短軸0.1 m+ α 、最大深0.1 m)で、S12に切られる。S17(長軸0.6 m+ α 、短軸0.2 m+ α 、最大深0.1 m)で、S12・13に切られる。S19(長軸0.5 m+ α 、短軸0.15 m+ α 、最大深0.15 m)で、S10に切られる。

出土遺物 (第46図)

土師器質土器(1)は、坏である。内底の外側はユビナデ痕が強く残る。外底は回転糸切りである。また口縁部端部には、スミの痕跡が残る。灯明皿としての機能を持っていたと思われる。

瓦質土器(2・3)は、2は塙の口縁から胴部である。内面はヨコハケの痕跡がほぼ全体に残る。口縁端部はやや外反してくる胴部からはほぼ直角に外側に折り曲げる。3は塙の口縁から胴部にかけてである。口縁端部はやや外反してくる胴部から直角に外側に折り曲げる。



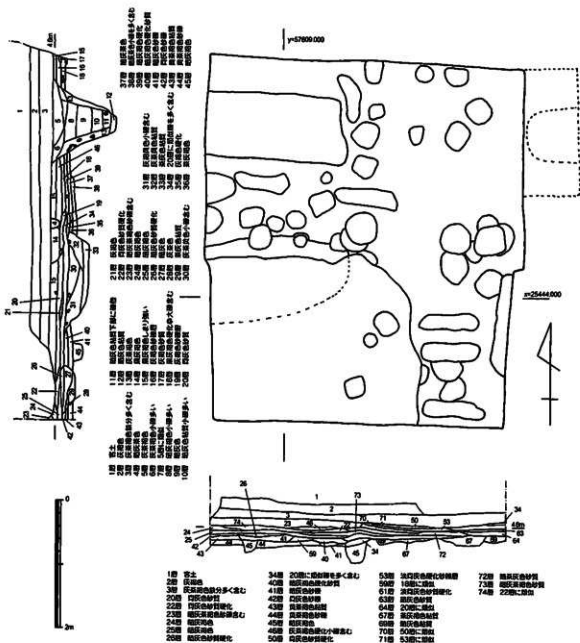
第46図 西側波板状圧痕出土遺物

S29(長軸0.6 m+ α 、短軸0.3 m+ α 、最大深0.07 m)、S35(長軸0.5 m+ α 、短軸0.4 m+ α 、最大深0.08 m)、S37(長軸0.6 m+ α 、短軸0.2 m+ α 、最大

小 縮

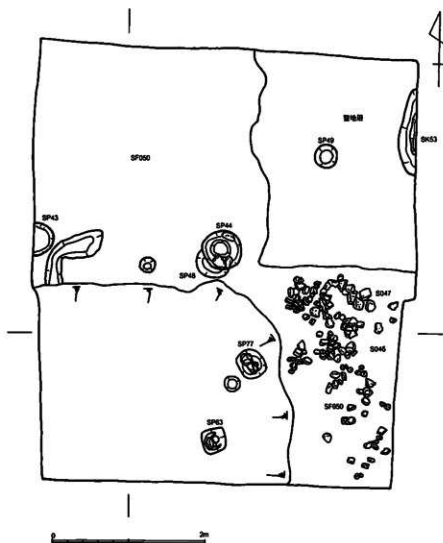
中世大友城下町第27次A調査区では、道路跡・波板状圧痕、溝状遺構、柱穴、土坑などを検出した。道路跡およびそれに伴うと思われる波板状圧痕は、南北道路の一部と考えられ、「府内古園」でいう第4南北街路（中世大友城下町の一番西側を南北に延びる道路跡）にあたると考えられる。また柱穴は、道路に伴うもの（木戸関係）や道路に面する建物跡、棚跡などの一部であると考えられる。しかしながら調査区が狭小なため、それ以上のことは現段階では判断できない。溝状遺構は2条確認した。両溝とも南北方向に延びる溝であり、性格は、道路の側溝かもしれない。道路に面するなんらかの施設を区画する区画溝かと思われる。

道路の構築時期であるが、波板状圧痕（S17）から第46図1の土師器質土器片が出土した。これが良好な資料であり、この調査区の中では、古い時期のものと考えられる。現段階では、15世紀後半のものと想定される。



第47図 B区遺構配置図と土層断面図 (1/60)

よって、道路の構築時期の上限は15世紀後半まで遡ることができる。ただし、調査区の関係で、道路の全面を検出できないので、時期別の道路規模の問題、また構築時期がどこまで遡るかの課題を残す。ちなみに道路の下限は、16世紀末～17世紀前半まで下る可能性がある。



第48図 B区1面目遺構検出状況(1/50)

第3節 B区の調査

B区は27-1次調査の中で北に位置する調査区である。「府内古園」によれば、「御北町」「妙厳寺」「中町」、また大友館北側に面する東西道路と第4南北街路(中世大友府内町の一番西側を南北に延びる道路)の交差点周辺に位置すると考えられる。B区の調査面積は約35㎡である。調査区の南西部は現代の建物の基礎により、掘削を受けており、遺構は確認できなかった。検出した遺構は、道路跡(硬化面・波板状圧痕)、柱穴、布掘りを呈する柱穴、土坑、溝状遺構などである。出土遺物は、かわらけ(在地系・京都系)、備前焼、瓦質土器、土師質埴、須恵質甕、中国産青磁・白磁・染付、瓦、石塊、鉄製品・石製品などである。

調査区の基本層序(第47

図)は、表土から近現代土層、近代層、近世・中世で構成される。遺構検出面は標高約4.5mで、近世と推定される道路硬化面にあたる。

以下、遺構・遺物の説明は、上面から検出した第1面～第6面までを順番に説明していく。

第1面の状況(第48図)

調査区の南西部は掘削である。第1面の主要遺構は、道路状遺構、柱穴、整地層などである。S050は、硬化した面であり、道路跡と推定される。特に調査区南東隅では拳大の礫または土器などが多く充填された状況を検出した。また調査区の北東部はS050とは相違する粘質の土で軟質である。そこにピットと土坑を確認した。南西部にある掘削内で検出した柱穴は、第1面で取り扱うが、掘削を掘り終わったあとと検出したものであるため、どの時期(面)に属する遺構か判断できない。

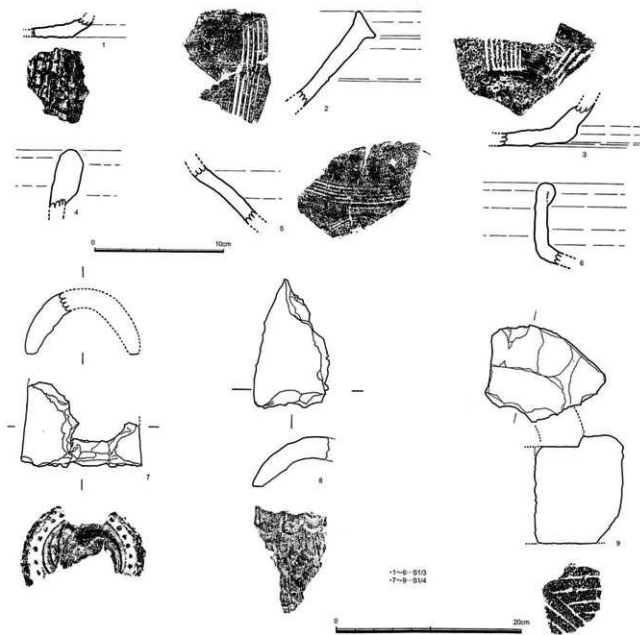
道路状遺構 (S F 050) (第 48 図)

S F 50 は調査区北西から南東にかけて攪乱部を挟んで直角するように検出した。この面は硬化し、暗褐色で砂質主体である。切り合い関係は柱穴 (S043・044・048) や土坑状遺構に切られる。規模は北西部の東西軸で $3.0\text{ m} + \alpha$ 、南東部の南北軸で $2.8\text{ m} + \alpha$ である。前述したように南東部には小礫を多く含んでいる。

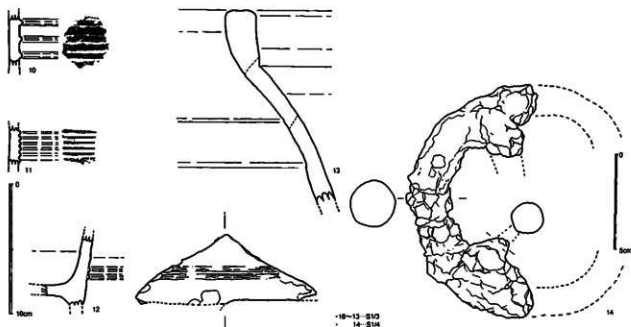
出土遺物 (第 49・50 図)

土師質土器 (1) は坏か。外底は格子目状のタキキ痕がある。胴部は底部から大きく外反し、直線的に延びそうである。

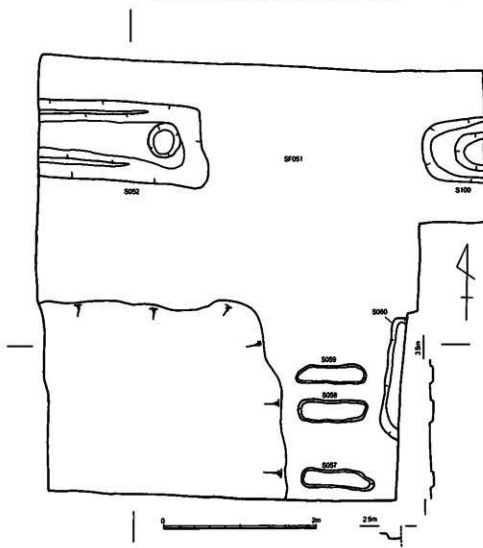
焼締陶器 (2~6) は、備前焼である。2・3は拙鉢である。2は口縁端部をやや内傾させる。胴部内面は掘り目が施される。3は底部である。内面には掘り目が8本単位で施される。胴部は底部からやや立ち上がったあと、外反する。4は甕の口縁部である。5は甕もしくは壺の胴部上方で肩部である。外面にはカキメが数条巡り、その下部には波状のカキメを施す。6は口縁部である。頸部から口縁部は直線的にまっすぐ立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。



第 49 図 B 区 1 面目 (SF050) 出土遺物実測図① (1/3・1/4)



第50図 B区1面目(SF050)出土遺物実測図②(1/3・1/2)



第51図 B区2面目遺構検出状況(1/50)

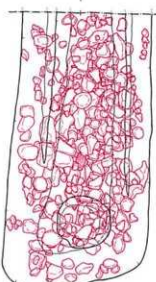
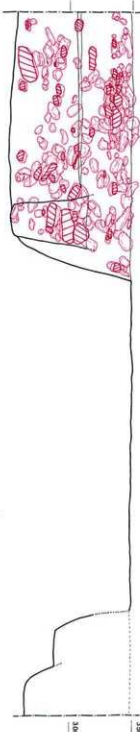
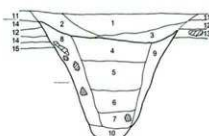
瓦質製品(7・8)は丸瓦である。7は軒先丸瓦で、外区に雲珠を配し、内区には三つ巴文を施す。瓦の横ラインはめんどりする。

石製品(9)は石臼で下臼である。上面には上臼を置く箇所が窪んでおり、下面は直線的な沈線が入れている。

瓦質土器(10～13)は火鉢片である。10・11とも外面は突帯を多重に巡らす。12は底部である。底部の縁には数個の脚が付くものと思われる。また胴部下方には2条の突帯文が巡る。

土師質土器(13)は甕である。器壁厚は、胴部よりも口縁部が大きく肥厚する。口縁端部上面は平坦である。

鉄製品(14)は五徳と思われる。半分ほどを欠



第52図 S052・100遺構実測図 (1/30)

いているが、円形の輪状を3本の脚で支えていたと思われる。

第2面の状況 (第51図)

南西部は掘乱を受けている。第2面の主要遺構は、道路状遺構・布掘り状の柱穴・波板状圧痕などである。

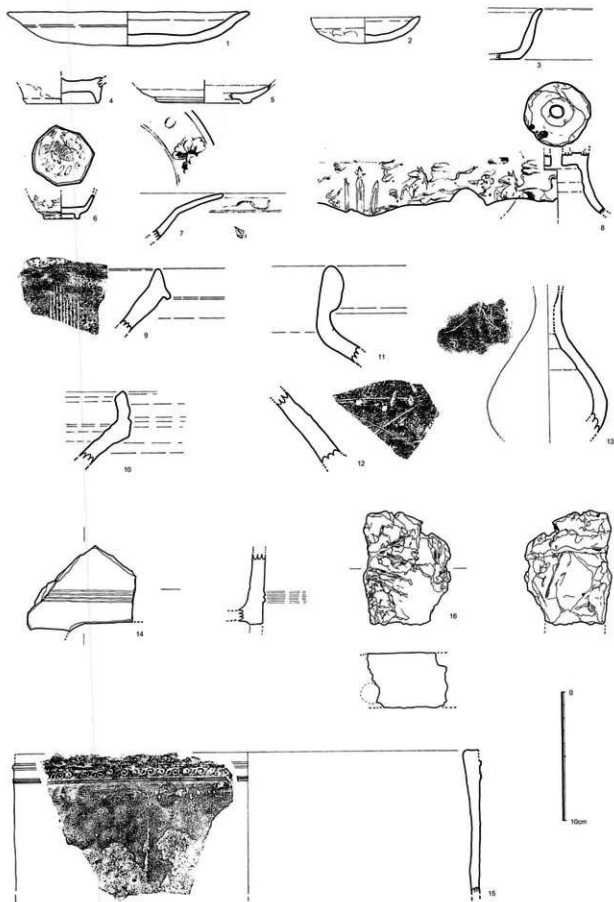
道路状遺構 (S051) は調査区第2面全面において、確認できた。波板状圧痕 (S057～060) は調査区南側で確認した。各遺構ごとに説明する。

布掘り状柱穴跡 (S052・S100) (第52図)

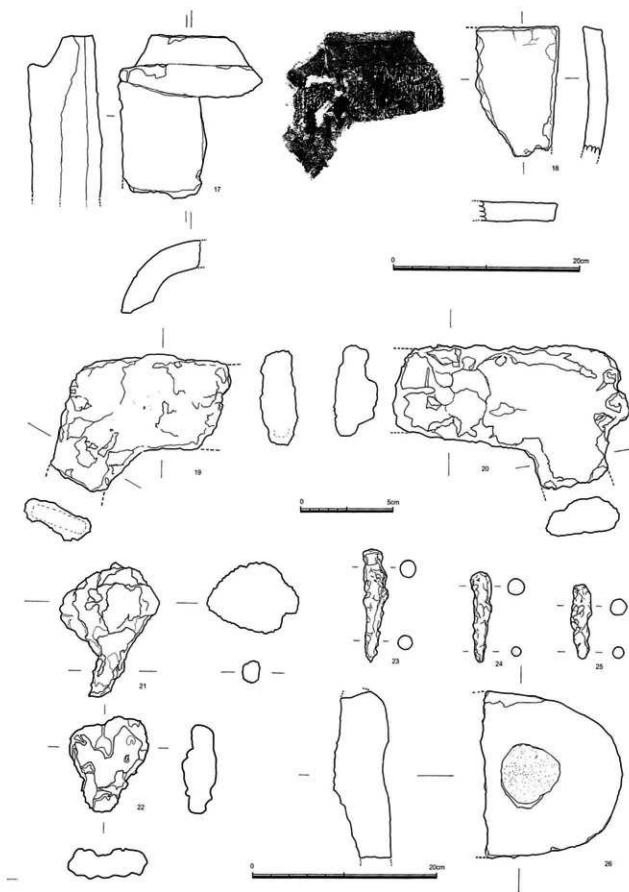
布掘り状柱穴跡は調査区北側において、道路状遺構を切るように検出した。S100については、調査中は調査区外であったが、S052を検出したのち、全調査終了後に短時間で確認のため、拡張し、検出した。

S052 (第52図)

S052は一部が調査区外にかかる。平面プランは長方形プランを呈すると推定され、規模は東西軸 $2.2\text{ m} + \alpha$ 、南北軸 1.05 m で、深さは 0.95 m である。深さ 0.4 m のところで、壁際に一段テラスをもつ。西側断面を観察すると、第4層～10層までが埋土である。8層と9層は、壁際の両側に落ち込むように確認できた。また4層～7層は意図的に丁寧に積み上げられているようである。ただどの層にも拳大～やや大きめの礫が混入している。柱穴は、検出面



第 53 图 SK 052 出土遺物実測図① (1 / 3)



第 54 図 SK 052 出土遺物実測図② (1/2・1/3・1/4)

から0.4 m下まで掘り下げた時に確認した。礫が混入した。柱穴の平面プランはほぼ円形で、直径0.45 mである。柱を抜きとったため、掘り下げ途中で検出され、周囲の埋土に混入していた礫が入ったと思われる。

S052 出土遺物 (第53・54図)

土師質土器 (1～3) は、1・2は手づくね土器で京部系土師質土器属である。1は器壁が厚く、口径は18.2 cmである。2も器壁は厚く、口径は8.3 cmである。3はロクロ成形土師器坏である。胴部は底部からやや外反してのび、口縁端部を少し外側に屈曲させる。

中国陶磁器 (4～8) は、4は龍泉窯系青磁碗の底部である。5は白磁皿で、高台は四角い。6～8は景德鎮窯系染付である。6は小碗である。内底の中心には魚文様を施す。7は鈎皿の口縁部である。口縁外面は2条の闊線と曲線のラインを描く。また口縁内面は2条闊線と花文様を描く。8は燭台である。下部を欠くが、脚部は下方ほど大きく開いていく。上面は円形でその縁は欠けている。中心部に穿孔を施す。上面の穿孔周辺には、闊線などを染付する。また脚の外面には飛馬文、雲などを染付する。

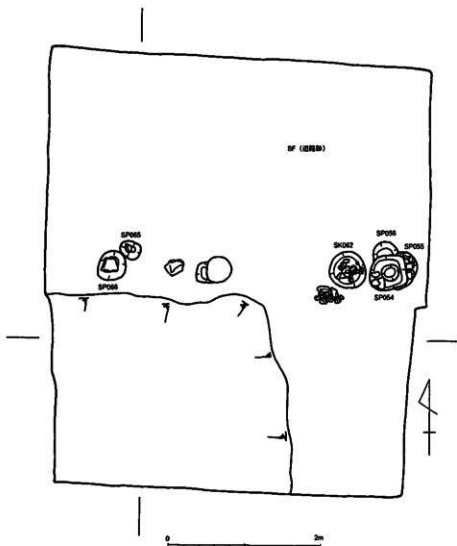


第55図 S100 出土遺物実測図 (1/3)

焼締陶器 (9～13) は備前焼である。9・10は揃鉢である。9は口縁端部をやや内傾させ、内面に揃り目を施す。10は口縁部で、胴部から口縁部は立ち上がる。内外面ともロクロ痕がのこる。11は甕の頸部から口縁部である。口縁外面を丸く肥厚させる。12は甕の胴部で、記号?文字?を線刻している。13は徳利である。頸部で径が小さくなり、下部ほど袋状に開く。また頸部の外面には「×」「|」の記号?を線刻している。

瓦質土器 (14・15) は火鉢である。14は底部の外側には脚が数個付く。胴部下方には、突帯文が2条廻る。15は火鉢胴部である。器壁厚が口縁部で肥厚し、口縁上面は丁寧に面取りされる。また口縁部外面には2条の突帯文が廻り、その間を双手蔵手文様を連続して施す。

土製品 (16) は埴土である。土が胎土に混入する。



第56図 B区3面目遺物検出状況 (1/50)

フラットな面は壁の表裏と思われ、側面には木?の跡が残る。

瓦質製品 (17・18) は瓦である。17は丸瓦で、両側の内面端部はメンドリしている。18は平瓦である。

鉄製品 (19~25) は、19・20は同一個体か、同じ製品と考えられる。同一個体であれば、鋤先か何か。別であれば、鋸?鎌?他の製品と思われる。21・22は不明鉄製品である。23~25は鉄釘である。

石 (26) は、礎盤石である。中央部が意図的に窪んでいる。柱を置いた箇所であろうか。

S100 (第52図)

S100は、調査区外にかかるため平面プランは明確にならないが、S052と同様に長方形プランになると思われる。規模は東西軸0.8m + α、南北軸0.85m、深さ0.85mである。柱穴の平面プランは円形と推定され、直径0.5mを測る。

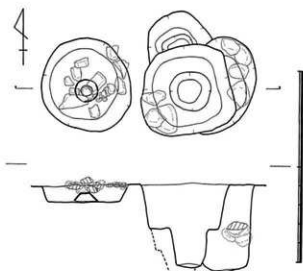
S052とS100の柱穴間距離は3.8mを測る。

S100 出土遺物 (第55図)

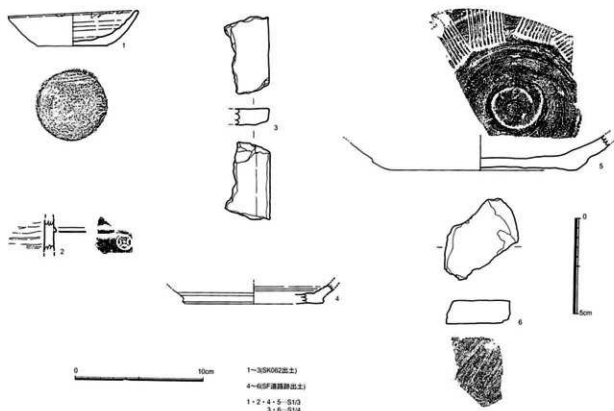
石製品 (1) は石塼である。口縁部外面に1条の突帯を巡らす。外面は丁寧なミガキで仕上げる。

SF051 (道路跡) (第51図)

調査区は全面硬化している。砂質主体である。出土遺物はほとんどない。



第57図 S062とS54・55・56遺構実測図 (1/30)



第58図 SK062と第3面目出土遺物実測図 (1/3・1/4)

S057～060（波板状瓦痕）（第51図）

S057～S059は東西に長い長方形プランである。規模はS057は東西軸0.9 m、南北軸0.25 m、深さ0.05 m、S058は東西軸0.9 m、南北軸0.3 m、深さ0.03 m、S059は東西軸0.9 m、南北軸0.2 m、深さ0.05 mである。規模はほぼ類似する。S060は南北に軸をもつもので平面プランは長方形を呈すると想定される。規模は南北軸1.6 m、東西軸0.2 m + α 、深さ0.06 mを測る。これらS057～060からの出土遺物はほとんどない。

第3面の状況（第56図）

調査区南西部は攪乱を受ける。第3面の主要遺構は、道路状遺構・柱穴・土坑である。道路状遺構（SF068）は第3面全面において確認できた。柱穴は数基確認できた。

S062（土坑）とS054～056（柱穴）（第57図）

S062は、平面プランはほぼ円形である。規模は直径約0.5 m、深さは0.1 mである。埋土は暗褐色土で黄土ブロックを含む。床面に土師質土器を逆位置にして置き、その上から拳大の礫と小礫を被せていた。

S054～056は柱穴である。切り合い関係はS054→S055→S056である。S054の平面プランは隅丸の方形に類似し、南北軸0.5 m、東西軸0.5 m、最大深0.4 mである。一段テラスが付く。掘り方埋土には礫を含む。S055の平面プランは切り合いにより明確ではないが、楕円形になる可能性が高い。規模は南北軸で0.5 m、深さは0.43 mを測る。

埋土には礫を多く含む。

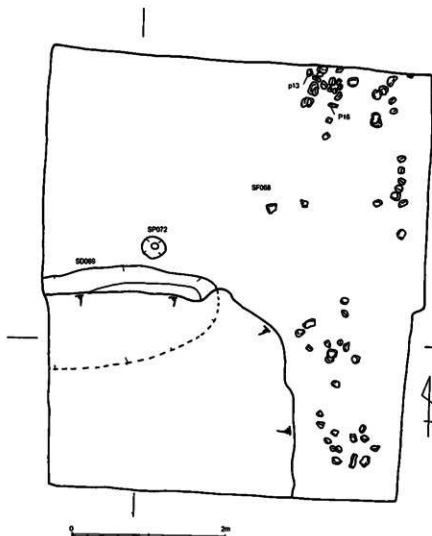
S056は、平面プランは不明である。規模は現状での最大幅0.35 m、深さ0.45 mを測る。S054～056の3基の柱穴規模はほぼ同じと考えられる。

その他の柱穴（第56図）

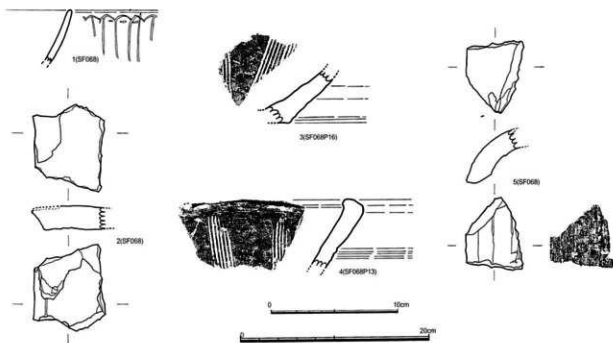
S065は円形プランで、最大幅0.25 m、深さ0.2 mである。S066は平面プラン円形で、最大幅0.4 m、深さ0.2 mを測る。礎盤石と推定される礫を含む。またS062のすぐ南西に礫が数個集まっている箇所があった。

出土遺物（第58図）

土師質土器（1）は、坏である。完形である。外底は回転糸切りで、胴部は底部から大きく外反してのびる。内面はロクロ調整痕跡がやや強いのこる。また口縁端部にはススが全周に付着しており、灯明皿



第59図 B区4面目遺構検出状況（1/50）



第 60 図 B 区 4 面目出土物実測図 (1/3・1/4)

としての利用が窺える。さらに口縁端部を 1 箇所打ち欠いている。

瓦質土器 (2) は、火鉢胴部である。外面には 1 条の突帯が回り、その下部に七宝文がスタンプされる。

瓦質土器 (3) は平瓦である。

土師質土器 (4) は坏である。胴部は底部から若干立ち上がりそこから外反する。内面はロクロ調整痕が残る。

焼締陶器 (5) は備前焼播鉢である。内面には掘り目が 10 本単位で施される。

瓦質土器 (6) は平瓦片である。

第 4 面の状況 (第 59 図)

調査区南西部は擾乱を受ける。第 4 面目の主要遺構は、道路状遺構、溝、柱穴である。

柱穴 (SP072)

調査区中央からやや西側で 1 基確認した。平面プランは円形で、最大幅 0.3 m、深さ 0.15 m を測る。出土遺物はほとんどない。

溝跡 (SD069)

溝跡は擾乱に半分以上がかかり、また調査区外にかかるため、一部しか検出できなかった。プランは調査区中央から溝がはじまり、東西に延びるようで、西壁断面を参考にする南北幅は推定 1.3 m、東西は $2.3 \text{ m} + \alpha$ 、最大深は 0.3 m を測る。道路状遺構 (S070) を切る。出土遺物は青磁・白磁・土師器の小片である。

道路状遺構 (SF070)

道路状遺構は第 4 面目全体で確認できた。溝と柱穴に切られる。また調査区の東側で南北にのびるように壁が多く混入している。

出土遺物 (第 60 図)

中国陶磁器 (1) は、龍泉窯系青磁碗である。外面は剣先蓮弁文を施す。

瓦質製品 (2) は平瓦である。

焼締陶器 (3・4) は、備前焼播鉢である。4 は口縁端部を少し内側に屈曲させ、丸く仕上げる。内面

の掘り目は6本1単位である。

互質製品(5)は、丸瓦である。

第5面の状況(第61図)

第5面も南東部に大きな擾乱がある。主要検出遺構は、柱穴・土坑状などである。

柱穴(第61図)

第5面の柱穴は調査区に数基確認した。

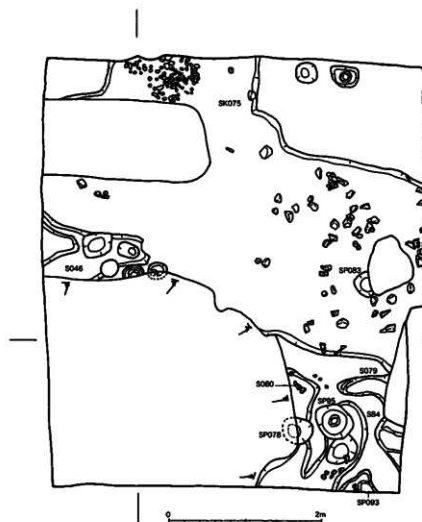
それぞれの柱穴規模はSP78(最大幅0.4m、深さ0.4m)、SP83(最大幅0.4m、深さ0.3m)、SP95(最大幅0.5m、深さ0.4m)である。

出土遺物(第62図)

土師質土器(8)は手づくね土器で、京都系土師器断片である。

土坑状(SK)の遺構(第61図)

不定形な土坑を数基検出した。



第61図 B区5面目遺構検出状況(1/50)

SK075(第61図)

SK075は調査区中央から北側で検出した。検出プランは調査区中央を東西に溝状にのび、また北へ直交するようにのびる。規模は東西軸4.5m+α、最大幅は2.5m、最大深0.05mである。埋土は硬化しており、砂質土中心。拳大からやや小さめの礫を混入する。

出土遺物(第62図)

青磁(1)は中国龍泉窯系青磁碗である。高台底面はフラットである。

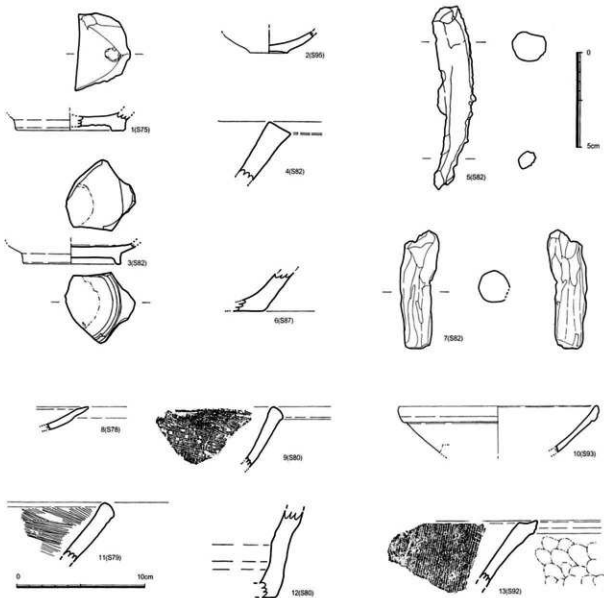
陶磁器(2)はである。外底はやや上げ底である。

白磁(3)は中国産で、外底部途中まで施釉される。

焼締陶器(4・6)は備前焼締鉢口縁部である。

鉄製品(5)は、鉄釘と思われる。

土製品(7)は足轆の脚部と推定される。



第 62 図 5 面目 出土遺物実測図 (1/3・1/2)

S K 079・080・093 (第 61 図)

これら土坑状遺構は不定形なプランである。それぞれの規模は S K079 (東西軸 0.6 m + α 、南北軸 0.25 m + α 、最大深 0.05 m)、S K 080 (東西軸 0.25 m + α 、南北軸 1.5 m + α 、最大深 0.05 m)、S K093 (東西軸 0.2 m + α 、南北軸 0.2 m + α 、最大深 0.1 m) である。

出土遺物 (第 62 図)

瓦質土器 (9・11) は鍋片である。9・11 は内面にはヨコハケ痕跡がのこる。

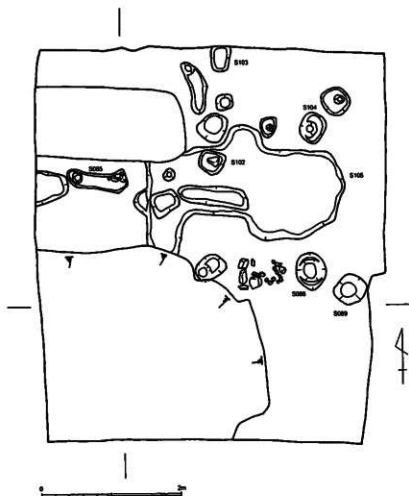
焼締陶器 (12) は備前焼壺底部である。

第 6 面の状況 (第 63 図)

南東部は攪乱をうける。この面が最終遺構検出面である。調査区中央から北側で遺構を検出した。主要遺構は柱穴・土坑状遺構である。

柱穴 (SP) (第 63 図)

それぞれの柱穴規模は S P89 (最大幅 0.5 m、深さ 0.35 m)、S P16 (最大幅 0.55 m、深さ 0.5 m)、S P101



第63図 B区6面目遺構検出状況(1/50)

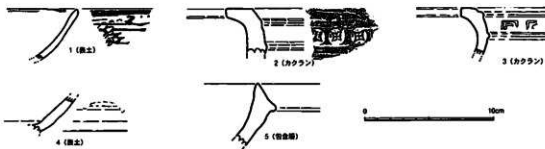
ある。

その他の出土遺物(第65図)

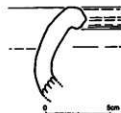
中国陶磁器(1)は、1は景德鎮系染付碗である。外面はアラベスク文様が施される。

瓦質土器(2・3)は、火鉢である。2は口縁端部を内側に胴部に直交するように折り曲げる。外面には2条の突帯文とその間に七宝文のスタンプが連続している。3も口縁端部も内側に折り曲げている。外面には2条の突帯文を巡らせ、その間を雷文帯と思われるスタンプが残る。

国産陶磁器(4・5)は、4は瀬戸美濃産天目茶碗片である。胴部中央まで黒軸がかかる。5は備前焼摺鉢口縁部である。



第65図 その他の出土遺物実測図(1/3)



第64図 S85出土遺物実測図(1/3)

(最大幅0.45m、深さ0.4m)、S P102(最大幅0.35m、深さ0.05m)、S P103(最大幅0.35m、深さ0.2m)、S P104(最大幅0.4m、深さ0.3m)である。この中でS P86・101・102・103は、関連がある可能性がある。

出土遺物は備前焼小片である。

土坑状遺構(SK)(第63図)

SK 085は、長軸0.8m、短軸0.3m、最大深0.03mを計る。SK105は、長軸2.8m、短軸0.9m、最大深0.1mを計る。

SK085出土遺物(第64図)

須恵質土器(1)は裏の口縁部で

小 結

第27-1次調査B区は、調査の状況により、第1面～第6面まで検出し、それぞれの面で詳細な遺構を述べた。まず出土遺物から見る時期の問題であるが、第2面で検出したS 052から出土した遺物が小野正敏分類のF群のつば皿などの遺物から、第2面は16世紀後葉から末葉の時期と考えられる。これをバックする第1面はそれより以後の状況であり、16世紀末葉～17世紀前葉と考えられる。第1・2面とも道路状遺構を検出しているが、天正14年の島津氏の豊後国侵攻後も「府内古図」に描かれた第4南北街路は使用されていた可能性が高い。また上限の時期は第5面で京都系土師器皿（塩地編年1～2期）が出土し、第5面も16世紀の範囲で捉えられ、また同時にこの時期からこの調査区の範囲で検出した道路状遺構と考えられる遺構（S 075）を検出している。ただし調査区狭小のため第4南北街路の整備は遅る可能性がある。第6面は具体的な遺物が出土していないが、第5面の状況を踏まえると15世紀末葉～16世紀前葉くらいか。柱穴を検出し、一部孤立柱建物跡になるものも想定した。

ところで当調査区の「府内古図」の中でいう推定地は「妙厳寺」「御北町」周辺にあたり、その「妙厳寺」と「御北町」の境には大友館北辺に接する東西道路がある。ここで第1・2・3面の遺構状況を試みる。第1面は南北軸と東西軸の道路跡が交差するように検出した。第2面は、S052とS100は布堀りでその両端には柱穴を確認している。道路跡に掘り込まれていることから、両遺構は木戸跡の可能性が高いと考えられる。またその南側で検出した波板状圧痕も東西に軸をもつものと南北に軸をもつものが並ぶ。このような状況から「府内古図」を参照すると道路の交差点付近の箇所と推定される。さらに第3面では、S062の状況から祭祀土坑である可能性がある。そしてこの遺構のすぐ西に接して、柱穴が3基切り合いを持ちながら展開している。これら柱穴は他で検出した柱穴よりも深く、平面プランも大きい。よって、木戸跡の可能性も指摘でき、S062を祭祀土坑と考えるならば、辻祭祀などを含めて考えることができよう。

以上から、第1～3面の状況を見る限り、当調査区は東西道路と南北道路が交差する付近ではないかと想定できる。ただし、東西道路跡は周辺の調査区も含めて、現段階では明確に確認できていないため、大友館北辺に接する東西道路跡の確認を期待する。

第1表 町27次調査遺物観察表

遺 構 号	南 西 面 号	東 南 面 号	種 類	種 様	遺 量 (cm()は厚元)					成 形	調査及び説明		焼 成	胎土(石材)	色 調	備 考
					口徑/最大長	最高/最大幅	底径/最大厚	孔徑	重量(g)		外 装	内 装				
S004P1	42-1	R01	土師質土器	坏	—	1.4	0.0	—	—	ワコナデ	回転系陶、ナデ	ワコナデ	良好	褐色胎子、褐色胎子、角閃石、石英	褐色色	反転覆元
S004P3	42-2	R03	土師質土器	坏	0.7	2.5	0.0	—	—	ワコナデ、回転系陶、(反転覆元あり)	ワコナデ	ワコナデ	良好	白色胎子、角閃石、石英	黒灰色	反転覆元
S004	42-3	R05	瓦質土器	磁鉢	—	4.4	—	—	—	ワコナデ、工具痕あり	ワコナデ	工具痕あり	良好	白色胎子、角閃石、石英、石英	黒灰色	防長産
S004P2	42-4	R02	備前	甕	—	6.5	—	—	—	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	良好	白色胎子、石英、褐色胎子	暗黒褐色	
S005P1	44-1	R07	瓦質土器	甕	—	6.5	—	—	—	ワコナデ	香子目タタキ痕あり	ワコナデ	やや不致	白色胎子、長石、褐色胎子、石英	灰色	格子目タタキ痕あり
S017	46-1	R09	土師質土器	坏	(7.4)	2.2	(5.4)	—	—	ワコナデ	磨り粉、ワコナデ、(反転覆元あり)	ワコナデ	やや不致	白色胎子、長石、褐色胎子、石英	褐色色	上層部全体的に灰けり、明確にして使用776A鑑定
S019	46-2	R10	土師質土器	瓶	—	4.3	—	—	—	ワコナデ	ハケ目あり	ハケ目あり	良好	褐色胎子、褐色胎子、角閃石、石英	(内面)灰白色(外面)褐色色、全粒に灰けり	
S009	46-3	R04	土師質土器	磁鉢	—	3.5	—	—	—	ワコナデ	ワコナデ	工具痕あり	良好	白色胎子、褐色胎子、角閃石、石英	(内面)灰白色(外面)褐色色、全粒に灰けり	
S047⑥	49-1	R22	土師質土器	瓶	—	1.4	—	—	—	ワコナデ	タタキ目痕あり	ナデ	良好	角閃石、石英	暗褐色	内面に多量のマンガン付着
S047⑧	49-2	R20	備前焼	磁鉢	—	7.3	—	—	—	粘土、磨り粉	回転ナデ	回転ナデ 磨目	やや不致	白色胎子、褐色胎子、石英	暗黒褐色	
S047P2.1	49-3	R21	備前焼	磁鉢	—	3.5	—	—	—	粘土、磨り粉	ナデ	ナデ 磨目	良好	白色胎子、石英	(内面)灰白色(外面)暗褐色	
S047⑦	49-4	R19	備前焼	甕	—	4.7	—	—	—	ワコナデ	ワコナデ	ワコナデ	良好	白色胎子、角閃石、石英	暗褐色	
S047⑨	49-5	R16	瓦質土器	甕	—	4.5	—	—	—	ワコナデ	自然熟	自然熟	良好	白色胎子、石英	褐色色	
S047⑤	49-6	R15	瓦質土器	甕	—	6.5	—	—	—	ワコナデ	ナデ、自然熟	ナデ	良好	白色胎子、褐色胎子、石英	(内面)暗灰色(外面)暗褐色	
S047⑥	49-7	R18	瓦質土器	軒瓦瓦	9.8	12.7	2.2	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	良好	白色胎子、角閃石、石英	褐色色	
S047③	49-8	R17	瓦質土器	瓦瓦	13.1	7.8	2.2	—	—	ナデ	—	—	良好	白色胎子、角閃石、石英	黒灰色	
S047P23	49-9	R27	石製品	石臼	12.2	9.2	11.5	—	—	ナデ	—	—	—	白色胎子、角閃石、石英	灰色	マンガン多量に付着
S045	50-10	R14	瓦質土器	火鉢	—	3.9	—	—	—	ワコナデ	突帯	回転ナデ	良好	白色胎子	灰色	
S045	50-11	R13	瓦質土器	火鉢	—	3.0	—	—	—	ワコナデ	突帯	ナデ	良好	—	灰色	
S040	50-12	R12	土師質土器	火鉢	—	5.3	—	—	—	ワコナデ	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	やや不致	白色胎子、角閃石	灰色	
S040	50-13	R11	土師質土器	甕	—	14.9	—	—	—	粘土、磨り粉	ナデ	ワコナデ	良好	白色胎子、褐色胎子、角閃石	淡黄褐色	
S040	50-14	R46	鉄製品	瓦葺? 12.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
S052P1	53-1	R48	京都系土師器	皿	(18.2)	2.6	10.0	—	—	ワコナデ、スビオサエ	ナデ	ワコナデ	良	0.5mm程度の角閃石、褐色胎子を含む	灰色	反転覆元
S052P23	53-2	R32	京都系土師器	皿	8.3	2.0	—	—	—	ワコナデ、スビオサエ(やや強い)ワコナデ	ナデ(やや強い)ワコナデ	ナデ	良	0.5mm程度の角閃石、褐色胎子を含む	灰色	反転覆元
S052	53-3	R04	土師質土器	坏	—	4.0	—	—	—	ワコナデ	ナデ	ナデ	良好	白色胎子、褐色胎子、角閃石、石英	淡褐色	
S052 (49)	53-4	R30	青磁	甕	—	2.0	5.6	—	—	ワコナデ	無胎 無胎	無胎	良好	赤褐色	青色	反転覆元 龍泉系系
S052 (21)	53-5	R60	白磁	甕	—	1.6	0.0	—	—	無胎 無胎	無胎 磨目	無胎	良好	磨目	淡黄白色	反転覆元
S052	53-6	R69	磁器	甕	—	1.9	2.65	—	—	ワコナデ	染付	無	良好	白色、磁素	透明	
S052②	53-7	R71	磁器	皿	—	3.5	—	—	—	ワコナデ	染付	染付	良	灰色	透明	16C末～ 小野分館染付田舎
S052	53-8	R57	磁器	燗台	—	4.9	—	1.0	—	ワコナデ			良好	磨目	透明	磨目痕あり
S052P54	53-9	R74	備前	磁鉢	—	4.95	—	—	—	ワコナデ	回転ワコナデ	磨目	良好	0.5-2mm程度の白色胎子を含む	(内面)灰白色(外面)灰色、全粒に灰けり	奈良編年5前期
S052P35	53-10	R31	備前	磁鉢	—	5.7	—	—	—	ワコナデ	回転ワコナデ	回転ワコナデ	良好	白色胎子を含む	(内面)灰色(外面)灰色～灰色	奈良編年中期6期
S052P5	53-11	R55	備前	甕	—	7.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	良好	白色胎子	暗赤褐色	
S052⑪	53-12	R36	備前	甕	—	5.4	—	—	—	—	—	—	良好	白色胎子、赤色胎子、長石	暗赤褐色	へう記あり
S052⑧	53-13	R35	備前	磁鉢	—	11.2	—	—	—	ワコナデ	ナデ	ナデ	やや不致	褐色、白色胎子	暗赤褐色	部分覆元、へう記あり
S052⑨	53-14	R30	瓦質土器	火鉢	—	6.5	—	—	—	ナデ	突帯	ナデ	良好	長石、角閃石、石英、褐色胎子	褐色色	16C代外周は2次焼成により灰けり、よって表面は一部灰白色
S052P33	53-15	R29	土師質土器	火鉢	(34.2)	11.3	—	—	—	ワコナデ	ワコナデ	ナデ	良好	褐色胎子を含む	灰色	
S052⑩	53-16	R45	土製品	壺片	6.8	8.7	4.3	—	—	ワコナデ、(反転覆元あり) 双子線千文、(反転覆元あり) 行灯の蓋の裏面	瓦葺	瓦葺	—	—	赤褐色	
S052③(31)	54-17	R33	瓦質土器	平瓦	17.5	15.0	3.0	—	—	タタキ形成	ナデ	ナデ	良好	—	褐色	
S052⑪	54-18	R28	瓦質土器	平瓦	23.3	8.6	2.0	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	良好	—	灰色	
S052 (40)	54-20	R40	鉄製品	不明	7.4	12.0	2.4	—	—	—	—	—	—	—	—	
S052 (37)	54-21	R39	鉄製品	不明	10.5	5.4	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	
S052P36	54-22	R47	鉄製品	不明	5.05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第2表 町27次調査遺物観覧表

遺物番号	調査番号	実測番号	種類	器種	注量(cm)()は厚元					成形	装型及び装飾		構成	胎土(石材)	色調	備考	
					口径/最大長	器高/最大幅	底径/最大厚	孔径	重量(g)		外面	内面					
S052中(80.1)	54-23	R43	鉄製品	釘	6.2*	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
S052中(80.2)	54-24	R42	鉄製品	釘	4.9*	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
S052中(80.3)	54-25	R44	鉄製品	釘	4.1*	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
S052(38)	54-26	R34	石製品	磨石	15.2	17.8	5.7	—	—	—	磨面	—	—	—	灰色		
S052(30)	54-51	R38	鉄製品	不明	7.2*	5.2*	3.8*	—	—	—	—	—	—	—	—		
S100	55-1	R37	石製品	石皿	—	4.2*	—	—	—	—	裏面(口縁の内面)に浅く刻まれた「11」の文字あり		良好	—	暗灰色		
S062③	58-1	R78	土師質土器	片	9.9	2.8	5.2	—	—	—	口ノコ	回転糸切 ナデ	ナデ	良好	石灰、灰石、角白	褐色	(口縁部に「1」の刻み文字あり)
S062	58-2	R51	瓦質土器	火鉢	—	2.5*	—	—	—	—	口ノコ	丁寧な口ナデ	ミナキ?	良好	灰色粒子を含む	内面(灰色の外周)の淡灰色	
S062②	58-3	R52	瓦	平瓦	7.8*	4.7*	1.7*	—	—	—	タタキ形成	—	—	良好	石灰、灰石、角白、赤色粒子	暗灰色	
S051	58-4	R08	土師質土器	片	—	1.5*	—	—	—	—	口ノコ	回転糸切ノミ	回転ナデ	良好	青銅	褐色	内面(口ノコ)に浅く刻まれた「1」の文字あり
SFP8	58-5	R49	備前	磁器	—	2.8*	(14.0)	—	—	—	ナデ	磁器	良好	きめ細かい	赤褐色	反転度元	
SFP9	58-6	R79	土師質	—	8.3*	7.7	2.4*	—	—	—	—	—	—	—	—		
S068P10	60-1	R70	龍泉系青磁	碗	—	4.2*	—	—	—	—	口ノコ	一部釉剥離 磨面付文	ナデ	良好	灰色	くすんだ緑色	16C 上田分館 58 59
S070P11	60-2	R26	土製品	平瓦	9.0*	7.2	2.4	—	—	—	タタキ	—	—	良好	石灰、灰石、角白、赤色粒子	黒灰色	
SF068P16	60-3	R24	備前焼	磁器	—	3.3*	—	—	—	—	口ノコ	回転ナデ	ナデ 磁器	良好	白色粒子、褐色粒子、角白、石灰、赤色、青銅	淡灰色	
SF068P13	60-4	R23	瓦質土器	磁器	—	5.2*	—	—	—	—	口ノコ	回転ナデ	回転ナデ 磁器	良好	白色粒子	黒灰色	
SF068P19	60-5	R25	瓦製品	瓦	7.5*	—	2.2	—	—	—	—	—	—	良好	—	黒灰色	
S075P2	62-1	R77	不明(磁器?)	碗	—	1.4*	(8.2)	—	—	—	口ノコ	無釉	無釉 胎土目立	良好	白色粒子、黒色粒子、灰色	灰色(赤色のかった緑)	
S095	62-2	R73	白磁	皿	—	1.4*	(3.0)	—	—	—	口ノコ	無釉	無釉	良好	灰白色	裏面に「く」の文字あり	(口縁(口ノコ)手平〜12cm手平) 16C(口縁(口ノコ)手平〜17cm手平) 反転度元
S082(80.1) 灰砂土	62-3	R72	龍泉系青磁	碗	—	1.4*	(7.4)	—	—	—	口ノコ	釉剥離 無釉	釉剥離 無釉	良好	灰色	くすんだ緑色	内面(口ノコ)に浅く刻まれた「1」の文字あり
S082	62-4	R58	備前	磁器	—	4.7*	—	—	—	—	ナデ	ナデ	やや不立	良好	石灰、灰石、白色粒子、黒色粒子	暗褐色	
S087(80.1)	62-6	R64	瓦質土器	鉢?	—	3.0*	—	—	—	—	ユビオサエのナデ	ナデ	良好	石灰、灰石、白色粒子、黒色粒子	淡灰色		
S082	62-7	R75	足尾	鉢	—	9.1*	1.5〜2.65	—	—	—	縦方向の溝	縦方向の溝	良	0.5mm程度の黒色粒子、一部は角白	灰色		
S078(80.1)	62-8	R62	京都系土師質	皿	—	1.8*	—	—	—	—	手づくし	ナデ	ナデ	良好	白色粒子、灰石	淡灰色	外面及び内部の一部に覆い粉
S080P2	62-9	R59	瓦質土器	鉢	—	4.7*	—	—	—	—	ナデ	ナデ ハウ目あり	良好	白色粒子、青銅、角白	淡灰色		
S093	62-10	R63	中世末 白磁(口ノコ)	碗	(15.2)	3.7	—	—	—	—	口ノコ	無釉 無釉	無釉	良好	きめ細かい 灰白色	淡灰色	反転度元
S079P1	62-11	R66	瓦質土器	こね鉢又は磁器	—	4.6*	—	—	—	—	口ノコ	口ノコ、ハウ目あり	ハウ目あり	良好	白色粒子を含む	灰色〜暗赤褐色	中世末〜中世(奈良時代) 13C〜15C?
S080P1	62-12	R65	備前 黄または黒	—	—	6.8*	—	—	—	—	口ノコ	口ノコ	良好	0.5mm〜3mm程度の白色粒子を含む	暗赤褐色	14Cか?	
S092	62-13	R68	土師質土器	皿	—	6.35*	—	—	—	—	口ノコ	口ノコ、ユビオサエ、灰石	ナデ	良好	石灰、灰石、白色粒子、赤色粒子	に「く」の文字あり	
S082	62-19	R41	鉄製品	鉄釘	9.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
S085①	64-1	R06	瓦質土器	灰	—	6.9*	—	—	—	—	口ノコ	回転ナデ 口ノコ	回転ナデ	良好	白灰色、靱皮	黒灰色	
表土	65-1	R76	磁器	碗	—	3.9*	—	—	—	—	口ノコ	窯付	窯付	良好	やや青味がかった透明釉	—	
カクタン	65-2	R53	瓦質土器	火鉢	—	3.4*	—	—	—	—	ヒビ文スラングあり	—	良好	白色粒子、黒色粒子	淡灰色		
カクタン	65-3	R56	瓦質土器	火鉢	—	3.6*	—	—	—	—	ナデ、黒文スラング文あり	ナデ	良好	きめ細かい、褐色の白色粒子を含む	灰色		
表土	65-4	R67	陶器	天目茶碗	—	2.9*	—	—	—	—	口ノコ	無釉 無釉	良好	淡灰色	緑?		
笠倉餅	65-5	R54	備前	磁器	—	5.3*	—	—	—	—	ナデ	磁器	良好	石灰、灰石、角白、赤色粒子	暗赤褐色		内面に黒目あり

第X I 章 中世大友府内町跡第 27 - 2 次調査

第 1 節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第 27-2 次（以下、「町 27-2」、その後の調査次数は町 27-3、4・・・とする。）調査区は、古絵図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定下町、妙厳寺に該当する。調査の結果、後世の耕作により掘削はされているものの、当初の推測とおり道路状遺構が検出された。この道路状遺構の下位には大きく 3 段階に分けられる時期の遺構が確認されており、街路が形成される以前は建物跡や区画施設が存在していたことが判明した。

調査では 4 段階の遺構検出面が見つかった。但し、このことは他の調査区とは必ずしも一致はしておらず、例えば町 27-2 I 期と町 27-4 I 期が同時代のものとは限らない。ここからふれる「期」という言葉は各次数の中で便宜的に使用しているもので、意味的には「段階」に近いものである。各時期の様相についての「まとめ」は来年度刊行の報告書で行なう予定である。

以下、報告は古い時期のものから順に行っているが、道路状遺構については、明確に複数回存在したと判断できる路面土層が採取されなかったこと、整地層等の間層を含んでおり、その煩雑を避ける目的から一つの項目の中で説明をしている。

発掘調査は松尾聡が、整理・報告は佐藤道文が担当した。

第 2 節 基本層位

調査地は旧宅地面を形成し、そのため客土層が約 1.3 m 堆積し、その下位には耕作土層が見られる。古い記録写真等では昭和 30 年代半ばには調査区周辺は住宅地となっていることから、この耕作土はそれ以前までのものである。この耕作土を除去すると明褐色の鉄分沈着層が現れ、その下の層は砂質土を多く内包しており、最終段階の南北街路を削平、改変して造られた水田層と考えられる。道路状遺構は上記した各層を取り除いた後に検出される。道路状遺構構築土や整地層は砂質土、粘質土、小礫を含み約 0.4 ～ 0.6 m の厚さを有しており、町 27-7 次調査区ではその状況が顕著に認められる。基盤層についてであるが町 27-2、3、6 次では砂削、町 27-4、5、7 次は砂層上位に堆積する黄褐色もしくは黄灰シルト質土である。

町 27-2 次調査において道路状遺構が検出された標高は約 3.7 m、基盤層の標高は約 3.4 m である。

第 3 節 遺構・遺物

< I 期 >

I 期の遺構には町 27-7 次調査区から伸びる 2 組 I 対の柱穴を有す柵跡、溝状遺構、土坑、土器埋納遺構、ビット群がある。

(1) 柵跡（第 66 図）

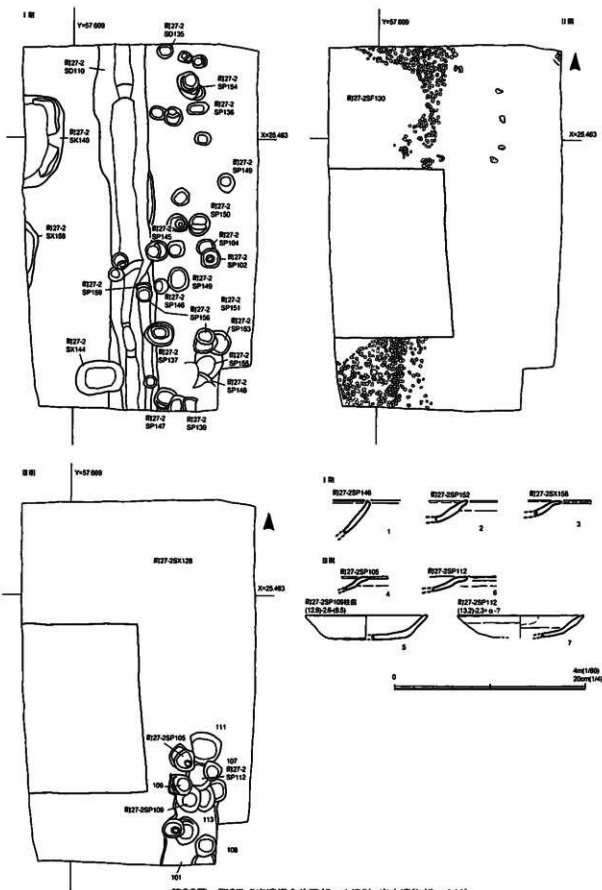
町 27-2SP145・102、137・151 は 2 組 I 対の構造をもつ柵跡または畛等の基礎遺構と考えられる。柱穴径は約 0.3 ～ 0.6 m、深さは 0.4 m ～ 0.6 m を測る。

(2) 柱穴遺構出土遺物（第 66 図）

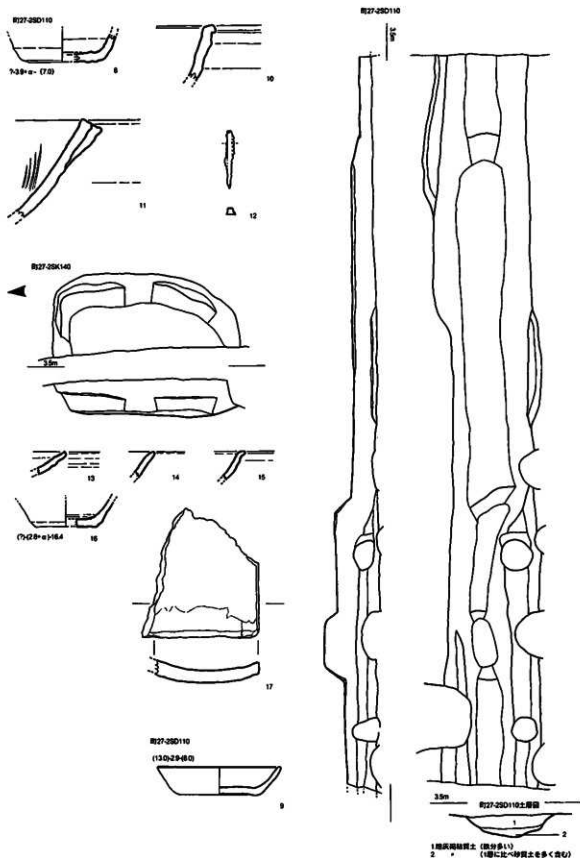
1 は町 27-2SP146 から出土した瓦甕碗の口縁部と思われる。2 は町 27-2SP152 出土の在地区土師質土器口縁部である。

(3) 溝状遺構

町 27-2SD110（第 67 図）調査区の中央を南北方向に伸びるもので、町 27-6 次付近を北限とし、現状では町 27-7 次調査区まで続くことが確認されている。本調査区では、主軸方位はほぼ真北を有し、幅員約 1.0 ～ 1.25 m、検出長約 4.7 m、深さ約 0.15 m ～ 0.4 m を測り、南から北にかけて溝底面が深くなる。断面形状は掘鉢状を呈す。各調査区で共通するが、土層観察からは水性堆積は認められないことから区画を目的として構築されたと考えられる。



第66図 町27-2次遺構全体図(S=1/80)・出土遺物(S=1/4)



第67図 町27-2S D110・町27-2SK140 平面図・断面図(S=1/40)出土遺物(S=1/4)

(4) 溝状遺構出土遺物 (第 67 図)

8 は在地系土師質土器の坏底部で、復元底径は 7cm を測る。9 も在地系土師質土器坏であるが、胎土、色調は京都系土師器に類似する。全体的に丸みをもった器形である。底部は回転糸切り彫しが行なわれる。10 は土師質土器の鉢または鍋で、口縁端部はやや玉縁状をなす。11 は瓦質土器の描鉢である。内面に 4 本の描目が見られる。12 は鉄釘で、断面方形をなす。

(5) 土坑 (第 67 図)

町 27-2SK140 調査区西壁付近で検出され、区外へと伸びる。南北約 1.9 m、東西約 0.8 m + α 、深さ約 0.4 m を測り、平面隅丸方形を呈すと思われる。埋土は暗灰色土の単一層である。

(6) 土坑出土遺物 (第 67 図)

13 ~ 16 は暗灰色土から出土したものである。13 は在地系クロロ目土師質土器坏口縁部、14 ~ 16 は在地系土師質土器の坏口縁部、底部である。17 は平瓦の破片である。

(7) 土器埋納遺構 (第 68 図)

町 27-2SX144 調査区中央南側で検出され、SD110 を掘り込んで構築される。長辺約 1 m、短辺約 0.7 m、深さ約 0.45 m を測り、平面隅丸長方形を呈す。検出後、掘り下げを行っている途中扁平な形をした親指サイズ程の小礫を含む砂利層が現れ、さらに掘り下げを進めると、ほぼ完存する、同法量の在地系クロロ目土師質土器坏 7 点が出土した。口縁を上に向けて置いたものと伏せて置かれたものが対角になるように配置され、残りの 3 点についてはその状況から判断すると重ね置きされていたと推測される。これら土器は、遺構の北半分から出土したものと南半分からのものとは若干の高低差が生じている。

(8) 土器埋納遺構出土遺物 (第 68 図)

18 ~ 24 はすべて在地系クロロ目土師質土器坏である。口縁端部の形状にやや違いが認められるものの、口径約 11.2cm 前後、器高約 2.8 ~ 3.0cm、底径 6.2 ~ 6.4cm を測り、ほぼ同一規格となっており、埋納を目的として作られたと考えられる。内面には水洗き痕跡である段を顕著に残す。

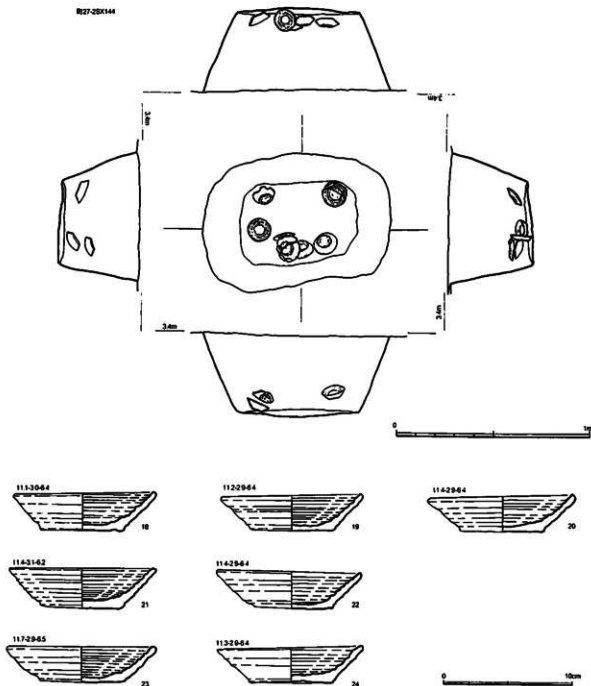
(9) 道路状遺構・竪地層 (第 69 図)

町 27-2SX160 土層図第 IV 層群に該当するもので、調査区の全域分布し、砂、小礫などを内包する。道路状遺構の可能性もあるが、路面と判断できる層は見当たらない。検出標高は約 3.52 ~ 3.54 m である。

町 27-2SF130 土層図第 III 層群に該当。検出標高は 3.54 ~ 3.7 m である。調査区西側を頂点とし、東方向 (路肩) へと緩やかに低くなる。非常に堅固な基礎構造を有し (12 ~ 14 層)、最上位では路面舗装と思われる層 1 ~ 2cm の小石が、幅約 2 ~ 2.4 m の中で帯状に確認される。現段階では路面と認定できるのは砂利層のみである。時期についてであるが、出土遺物、遺構間の新旧関係等から下限は 16 世紀前半頃になるものと推測される。

町 27-2SX128 SF130 の東側を平らにする竪地層で、さらに東側へと広がるものと思われる。土層図の第 II 層群が該当するもので、この層を基礎にして田圃に比定される柱穴遺構、ピットが掘り込まれる。検出標高は約 3.6 ~ 3.68 m である。

町 27-2SX115 ほぼ調査区全域で見られる硬質な土層で、上位にある水田層の作用により鉄分沈着が顕著なため色調は褐色をおびる。土層図の第 I 層群が該当する。土層の主体は硬化した砂状土であることから最も新しい段階の道路状遺構の一部ではないかと考えられる。但し、路面は後世の水田耕作により削平されていることから確認されていない。時期は、出土遺物から判断すると 16 世紀後半以降と考えられる。検出標高は約 3.7 ~ 3.74 m である。「府内古地図」に描かれる中世府内町の最西部の南北街路となる可能性が高い。



第68図 町27-2SX144 平面図・断面図(S=1/20) 出土遺物(S=1/3)

(10) 道路状遺構・整地層出土遺物 (第 69 図)

25～32は町27-2SX115より出土したものである。25、26は京都系土師器皿口縁部、27、30は在地系クロ目土師質土器坏底部、28は備前焼徳利の頸部、29は中国産白磁皿もしくは碗の高台部である。31は管状土鍾。32は在地系土師質土器の坏で、煤が付着するため色調は黒灰色を呈す。33は町27-2SX128から出土した在地系クロ目土師質土器坏底部である。34～36は町27-2SF130の構築土よりの出土で、34は在地系クロ目土師質土器小坏の口縁部、35は不明棒状土製品の破片で断面形状は丸形をなす。36は備前焼壺口縁部で、中世5期b～6期a段階のものか。

<Ⅱ期> (第66・69図)

先述した、道路状遺構(町27-2SF130、SX160)が挙げられる。この段階、町27-2SF130より東側(調査区内において)は空閑地であったと考えられる。

<Ⅲ期> (第66・69図)

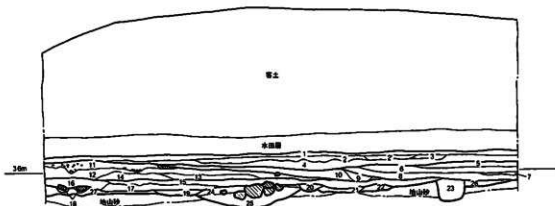
壺地層(町27-2SX128)、柱穴遺構が確認される。柱穴遺構は掘り方径約0.3～0.6mを有し、深さ0.3～0.7mと安定した構造をなす。同じ場所に幾度も造り返られており、重要施設の一部であることを窺わせる。古絵図等では妙厳寺の推定地付近にあたることからその関連性に注目される。

(11) 柱穴遺構出土遺物(第66図)

4、5は町27-2SP105・109から出土したもの、5は在地系土師質土器坏で、胎土、色調は京都系土師器に類似する。底部は回転系切り離しが行なわれる。6、7は町27-2SP112より見つかったもので、7は京都系土師器皿で、器壁はやや薄くⅡ期の中でも古い段階に位置付けられる。

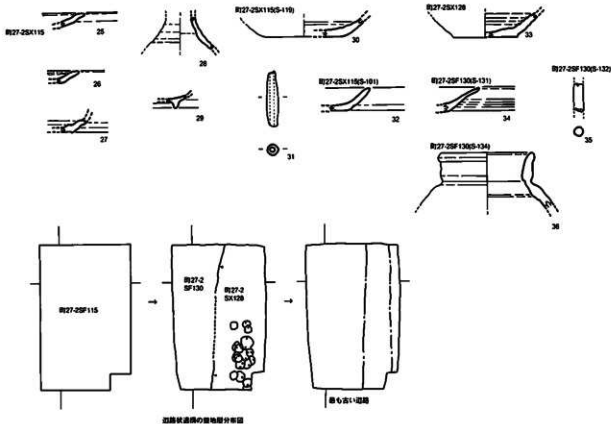
<Ⅳ期> (第66図)

町27-2SX115が、この段階に該当するものである。現状では道路状遺構を構成する一部と考えられる。古絵図、想定図とおりの南北街路で、出土遺物から上限は16世紀後半段階になるものと思われる。



1. 層状黄土 マンガン・鉄分混入層 土質は細かい 砂状土である
2. 反黄砂土
3. 黄・褐色土 大粒の礫土・黄を含む
4. 褐色土 砂が混入する
5. 褐色土 マンガン・鉄分が混入する
6. 褐色土 砂が混入する
7. 褐色土 砂が混入する
8. 褐色土 砂が混入する
9. 褐色土 砂が混入する
10. 褐色土 砂が混入する
11. 褐色土 砂が混入する
12. 褐色土 砂が混入する
13. 褐色土 砂が混入する

14. 褐色土 12層層にしまっているが、灰の混入が認められる
15. 褐色土 砂が全体に混入する
16. 褐色土 灰色の砂が混入する 砂は細かい
17. 褐色土 灰色の砂が混入する 砂は細かい
18. 褐色土 砂が混入する
19. 褐色土 砂が混入する
20. 反黄砂土
21. 褐色土 灰色の砂が混入する
22. 褐色土 灰色の砂が混入する
23. 褐色土 灰色の砂が混入する
24. 褐色土 灰色の砂が混入する
25. 褐色土 灰色の砂が混入する



第69図 町27-2 調査区 北壁土層図(S=1/80) 町27-2 SF115 出土遺物(S=1/4) 道路状遺構・敷地層分布図(S=1/200)

中世大友府内町跡第27-2次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
101	町27-2SX115	溜まり状		115→101	中世
102		柱穴	黄灰砂礫土→暗黄灰砂礫土(柱痕)		中世
103		道路層?	赤褐灰土(硬化)	103→115	中世
104		ピット	暗灰褐砂礫土	104→102	中世
105	町27-2SP105	ピット	暗灰褐砂礫土	112→105	16世紀後半～
106		ピット	暗灰褐砂礫土	109, 112→106	中世
107		ピット	暗灰褐黄砂礫土	111, 112→107	
108		ピット	暗灰褐黄砂礫土		
109	町27-2SP109	柱穴	暗灰茶褐砂礫土→黒灰茶砂礫土(柱痕)	109→106	16世紀中頃～
110	町27-2SD110	溝状	暗灰褐粘質土	110→137, 144 147, 156, 159	15世紀代
111		柱穴	灰褐黄砂礫土→暗灰褐砂礫土(柱痕)		中世
112		ピット		112→111	
113					
114					
115	町27-2SX115	耕作土×道路		Ⅳ期	中世末
116		ピット			中世
117		整地土	黄灰茶褐土		中世
118		整地土	黄灰茶砂		中世
119	町27-2SX115	整地土	暗灰茶褐土		中世
120		道路?			
121		柱穴	暗灰褐黄砂礫土→暗灰褐砂礫土(柱痕)		中世
122		道路×整地			中世
123		道路×整地	暗灰茶砂質土		中世
124		道路×整地	灰褐砂礫土		中世
125		道路×整地	砂利		中世
126		道路×整地	暗灰褐茶土		中世
127		道路×整地	茶灰褐土		中世
128	町27-2SX128		暗灰茶土	Ⅲ期	中世
129					中世
130	町27-2SF130	道路	砂利(灰茶褐土)	Ⅱ期	中世
131		ピット	灰茶褐砂礫土		中世
132		道路構築土	茶灰褐土		中世
133					中世
134	町27-2SF130	道路構築土	灰茶砂礫土		中世
135		ピット	灰褐砂礫土		中世
136		ピット	灰褐砂礫土		中世
137		ピット	暗灰茶土	110→137	中世
138		柱穴	暗灰粘土+砂礫→暗灰黄砂礫土		中世
139		ピット	暗灰褐土		中世
140	町27-2SK140	土坑	暗灰土+粘土粘土ブロック		中世
141		土坑?	暗灰褐土		中世
142		整地土?			中世
143		ピット			中世
144		土器埋納	暗茶褐砂利土	110→144	中世
145		ピット	暗茶褐砂礫土	110→145	中世
146	町27-2SP146	ピット	暗茶褐砂礫土	110→146	中世
147		ピット	暗茶褐砂礫土	110→147	中世
148		ピット	淡茶褐砂礫土	155→148	中世
149		ピット	暗灰褐砂礫土		中世
150		柱穴?	茶灰褐土		中世
151		ピット	茶灰褐土	153→152→151	中世
152		ピット	茶灰褐土	153→152→151	中世
153		ピット	茶灰褐土	155→153→152	中世
154		ピット	灰褐砂礫土		中世
155		ピット	暗灰茶砂礫土		中世
156		ピット	暗褐砂礫土	110→157→156	中世
157		ピット	暗灰茶粘質土	110→157→156	中世
158	町27-2SX158	土坑			中世
159	欠番				
160	町27-2SX160	道路×整地		Ⅱ期	中世
161					

中世大友府内町跡第27-2次遺物観察表①

遺物番号	S番号	種類	器種	図版番号	写真番号	R番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町27-25X128	S-128	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第669C33		001	?	2.4-α	(6.6)	反転復元
町27-25X115	S-119	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第669C30		002	?	2.4-α	(8.2)	反転復元 全体に覆けていて、 少し底反凸っぽい
町27-25D110	S-110P3	在地系土師質土器	杯	第671B8		003	?	3.9	(7.0)	反転復元
町27-25F130	S-131	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第669C34		004	?	2.5-α	?	?
町27-25D110	S-110P4	土師質土器	鉢	第671B10		005	?	5.8-α	?	土器のみの選定 周辺はやや隆起不況か
町27-25X140	S-140P1	瓦質土器	瓦	第671B11		006	?	?	?	土器中砂粒がかなり多い 表面割れ傷か
町27-25X115	S-115	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第669C27		007	?	1.5-α	?	?
町27-25X158	S-158P4(瓦系)	青磁系(瓦系)	皿	第669C3		008	?	1.7	?	土田分類値
町27-25F130	S-134	河成陶器(黄前)	甕	第669C36		009	(9.4)	5.9-α	?	反転復元
町27-25X115	S-115?	京都系土師器	皿	第669C26		010	?	1.2-α	?	土田分類値に覆有り
町27-25X115	S-115	白磁	皿×陶	第669C29		011	?	1.3-α	?	森田分類値か?
町27-25X115	S-101	在地系土師質土器	杯	第669C32		012	?	2.3	?	内面が全体的に覆けている 胎土・色調 ともに京都系土師器に類似
町27-25P103	S-103	河成陶器(黄前)	甕			013	?	2.9-α	?	?
町27-25X115	S-115	河成陶器(黄前)	甕(徳利?)	第669C28	○	014	?	3.3-α	?	反転復元
町27-25X115	S-115	京都系土師器	皿	第669C25		015	?	1.4-α	4.1	土田分類値に覆有り
町27-25X115	S-115	白磁?	皿?			016	?	2.0-α	?	大宇府分類の値か?
町27-25X115	S-118	瓦質土器	磁鉢			017	?	6.3-α	?	注目9本 防長系?
町27-25P103	S-103	青瓦(河成系)	甕			018	?	1.2-α	?	?
町27-25X115	S-115	在地系ロクロ目土師質土器	杯			019	?	2.0-α	?	?
町27-25P105	S-105	京都系土師器	皿	第669C4		020	?	1.5-α	?	?
町27-25P107	S-107	京都系土師器?	皿			021	?	1.8-α	?	全体的に覆けている
町27-25D110	S-110P2	土師質土器	磁鉢	第671B11		022	?	10.1-α	?	部分的に覆けている
町27-25D110	S-110P4(土)	在地系土師質土器	杯			023	?	2.0-α	?	?
町27-25D110	S-110P4(土)	鉄製品	鉄釘	第671B12		024	5.8	0.8	?	釘幅は0.5cm程度
町27-25P112	S-112	京都系土師器	皿	第669C6		025	?	1.5-α	?	?
町27-25P112	S-118	在地系ロクロ目土師質土器	杯			026	?	1.4-α	?	?
町27-25P112	S-118	土師質土器	鉢×鉢			027	?	1.9-α	?	外側に覆けています
町27-25X115	S-119	土師		第669C31		028	長さ5.9	幅1.2	厚さ1.1	?
町27-25X128	S-128	在地系ロクロ目土師質土器	皿			029	?	1.2-α	?	?
町27-25P130	S-130	陶製品	ハンク?			030	?	2.6-α	?	?
町27-25F130	S-132	土製品	土器?	第669C35		031	1.0	2.9-α	?	?
町27-25X140	S-140P4(瓦系)	在地系土師質土器	杯	第671B16		032	?	2.8-α	(6.4)	反転復元
町27-25X140	S-140P4(瓦系)	白磁	甕	第671B15		033	?	3.0-α	?	大宇府分類のV類か?
町27-25X140	S-140P4(瓦系)	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第671B13		034	?	2.3-α	?	土田分類の値か 胎土に金屑が多く白っぽい
町27-25X140	S-140P4(瓦系)	在地系土師質土器	杯	第671B14		035	?	2.6-α	?	?
町27-25P146	S-146	瓦質?	鉢×陶	第669C1		036	?	3.5-α	?	全体的に覆けています ローリング受ける
町27-25P152	S-152	京都系土師器	鉢	第669C2		037	?	2.2-α	?	全体的に覆けています
町27-25P130	S-132	瓦質土器	火鉢			038	?	3.8-α	?	胎本有り
町27-25X144	S-144P2	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C22	○	274	11.35	2.9	6.4	完形
町27-25X144	S-144P4	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C24	○	275	11.3	2.9	6.4	完形(土田一部欠損)
町27-25X144	S-144P1	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C19	○	276	11.2	2.9	6.4	土田一部欠損
町27-25X144	S-144P5	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C18	○	277	11.1	3.0	6.4	完形 底部下半にナデの痕跡明顯
町27-25X144	S-144P7	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C20	○	278	11.4	2.9	6.4	完形(土田一部欠損) 土田は土田分類の値に覆有り
町27-25X144	S-144P6	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C21	○	279	11.4	3.1	6.2	完形
町27-25X144	S-144P3	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第689C23	○	280	11.7	2.9	6.5	完形 土田は土田分類の値に覆有り
町27-2	S-110	在地系ロクロ目土師質土器	杯	第671B9		281	(13.0)	2.9	(8.0)	一部反転復元有り
町27-2	S-112P4(瓦系)	京都系土師器	皿	第669C7		282	(13.2)	2.3-α	?	甕土1期に該当
町27-2	S-109P4(瓦系)	在地系土師質土器	杯	第669C5		283	(12.9)	2.6	(8.5)	胎土・色調からみて京都系土田系タイプか

第 XII 章 中世大友府内町跡第 27 - 3 次調査

第 1 節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第 27-3 次（以下、「町 27-3 次」とする。）調査区は、古地図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定下町、妙厳寺に該当する。調査の結果、16 世紀後半以降に造られたと考えられる道路状遺構が検出された。道路状遺構の下位からは井戸跡や溝状遺構、柱穴群などが認められ、街路構築以前の町の様子を確認することができた。

報告は最古の遺構群をⅠ期とし掲載する。調査では道路状遺構の層々に S 番号を付されていたが、層間に確実に路面と認識できるものはなく、「Ⅰ期」として把握するには不明確であった。これらは一括して道路を形成するものと判断され、よって道路状遺構をⅡ期として、道路を造る過程での各層の分布は「段階」としている。

発掘調査は松尾寛が、整理・報告は佐藤文が担当した。

第 2 節 基本層位

調査地は旧宅地面であったため客土層が約 0.7m 堆積していた。その下位には近世以降のものと思われる耕作土層があり、この耕作土を除去すると道路状遺構の一部である粗い砂状土が検出される（標高約 3.6m）。道路構築土を掘り下げると、硬くしまった砂礫土層が表出し、この層を基盤として街路形成前の施設が築かれる。

第 3 節 遺構・遺物

<Ⅰ期>

Ⅰ期の遺構には井戸跡、溝状遺構、土坑、ピット群がある。

(1) 柱穴遺構（第 70 図）

調査区中央を境にし、柱穴の状況が異なる。北側は柱穴の掘り方はやや大きく、分布も閑散とした様子である。これに対し南側はやや小振りな掘り方を有す柱穴がほぼ同一地点に集中している。隣接する調査区と照合しても柱穴群の展開は不明確である。

(2) 柱穴遺構出土遺物（第 71 図）

Ⅰは町 27-3SP247 から出土した土製品である。中央に 1ヶ所穿孔がみられ燭台の可能性がある。Ⅱは町 27-3SP256 出土の丸瓦。Ⅲは町 27-3SP265 出土の三万田式の縄文土器深鉢である。Ⅳは在地系土師質土器の坏で、町 27-3SP278 から出土した。体部中位と口縁部の境が明瞭である。型式的には 14 世紀代の特徴がある。

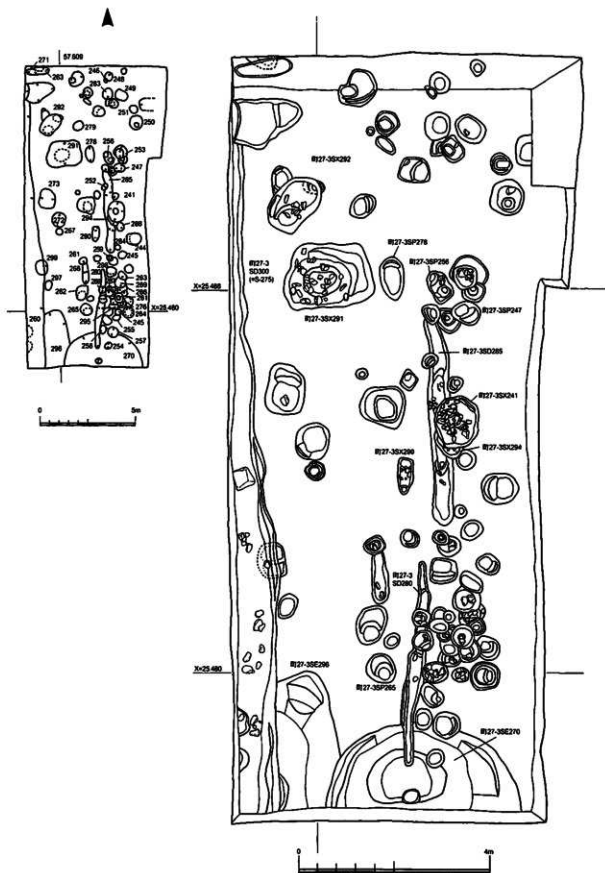
(3) 井戸跡（第 72 図）

町 27-3SE270 調査区の南壁中央で検出され、平面形状は直径約 4m になると推定される井戸である。井筒構造は、結構積み上げによるもので、残存し確認できたのは一段のみであった。結構の寸法は径約 0.6m、高さ約 0.45m である。土層観察からは井筒の抜き取りを示す不整合は認められず、井戸構築後の祭祀等も行なわれていない。出土遺物から、構築時期は 15 世紀後半～16 世紀初頭の範囲で捉えておきたい。

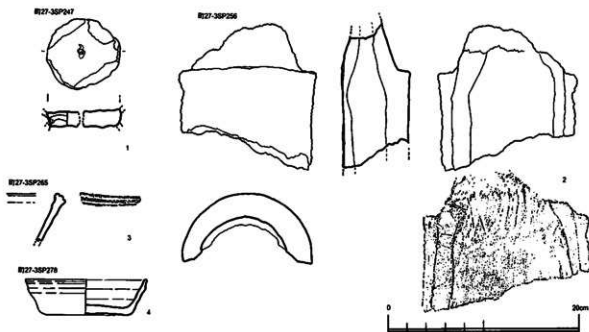
町 27-3SE296 調査区南西隅部で検出され、一部を SE270 により掘削される。南北約 2.7m+α、東西約 2.1m+α、深さは 1.6m を測り、平面形状は隅丸方形を呈すものと思われる。井筒構造は結構積み上げによるもので、現状では一段確認されている。寸法は約 1.2m、高さ約 0.6m である。土層観察からは井筒の抜き取り、構築後の祭祀行為は認められなかった。

(4) 井戸跡出土遺物（第 72 図）

5～10 は町 27-3SE270、11～13 は町 27-3SE296 からの出土である。5 は平瓦の破片である。6、7 は在地系土



第 70 图 遺構配置図 (S=1/200)、遺構全体図 (S=1/80)



第71図 柱穴遺構出土遺物 (S=1/4)

師質土器の坏口縁部、8は在地系土師質土器皿、9は瓦質土器の鍋口縁部である。15世紀後半段階のものか。10は鉄釘でし字状に打ち曲げられている。11は在地系土師質土器の坏で、口径に比べ底径が大きい。底部は直線的な図形を呈す。

(5) 溝状遺構 (第73図)

町 27-3SD280 調査区中央南側で検出され、新旧関係より SE270 より新しいものに位置付けられる。南北長約 4.3m、東西幅約 0.4m、最深部では 0.25m を測る。深さは北に向うほど深くなる。後述する SD285 と一連のものと考えられる。

町 27-3SD285 調査区中央付近で検出され、南北長約 4.2m + α、東西幅約 0.45m、深さ 0.2 ~ 0.4m を測り、溝中央付近が最も深くなる。水性堆積は認められないため区画施設と考えられる。埋土からは在地系土師質土器の坏が廃棄された状態で出土している。主軸方位は西に約 4 ~ 5° 振れる。

町 27-3SD300 (=S-275) 調査区西側で壁面に沿って南北方向に伸びる溝状遺構である。南北長約 8.1m、東西幅約 0.75m、深さ約 0.15 ~ 0.45m を測り、溝中央から南にかけて底面が下がる。北側は調査区外へと伸びるが、形状からはほぼ収束に近づくものと思われる。土層観察から流水痕跡は見られず、区画的性格を有していたと考えられる。主軸方位は西に約 3 ~ 4° 振れる。

(6) 溝状遺構出土遺物 (第73、74図)

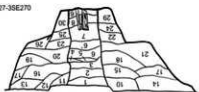
14 ~ 20 は町 27-3SD300 からの出土である。14 は在地系土師質土器の耳皿、15、16 は在地系クロロ目土師質土器坏、17 は龍泉窯青磁碗で D 類に該当か。18 は龍泉窯青磁の盤の口縁部である。19 は軒丸瓦の互当部分である。20 は西平式の深鉢口縁部で、縄文後期のものである。21 ~ 25 は町 27-3SD285 から出土したものである。すべて器高は 4cm 前後とやや高く、25 を除き口縁端部は先細り気味になる。时期的には 15 世紀前半代までのものか。

(7) その他の遺構 (第75図)

町 27-3SX241 径約 1m 前後、深さ約 0.1m、平面円形を呈す土坑状の遺構で、SD285 を掘り込んで検出される。

町 27-3SX290 調査区中央、SD285 の西側で検出された。南北長約 0.75m、東西幅 0.33m を測り、深さは記録

町27-35E270



町27-35E270土層

1～9層 井筒内埋積土

緑灰茶褐色を
主体とし、水分
を多く含むため
軟弱性を有す
また、砂利や
砂の埋積も一部
で確認される

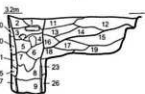
10～30層 裏込め土

灰褐色を
主体とする。19～
21層にかけては
緑灰褐色粘質プロ
ック土を多く内
包する。
初層、砂も認め
られ、裏面にある
懸垂層を利用
したと考えられ
る。

3.4m



3.6m



町27-35E206土層

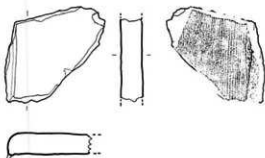
1～9層 井筒内埋積土

1～7層にかけては灰褐色の粘質土が主体となる。下位の流、9
層は底面に近いことから裏面土である砂礫がその多くを占める。

10～27層 裏込め土

灰褐色、茶褐色の埋積の主体である。土層内に占めるブロック
土の割合は少ない。砂礫が多く見られることから裏面層を利用し
たと考えられる。

町27-35E270



町27-35E270 井筒上層



6

町27-35E270 うらごめ



9

町27-35E270 井筒中層



7

町27-35E270 うらごめ最下層



10

町27-35E270 井筒下層



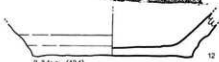
8



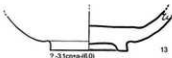
町27-35E296 井筒上層



11



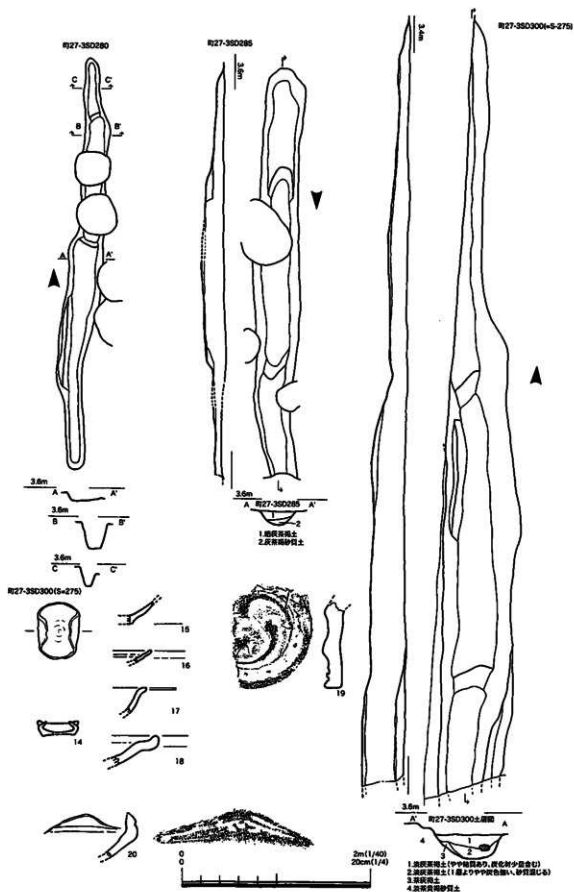
12



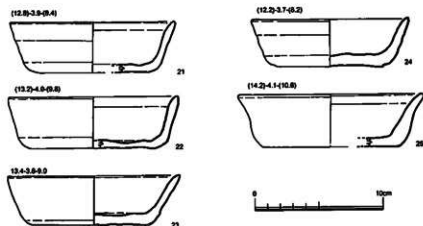
13



第72図 町27-35E270、296平面図、断面図(S=1/80)、出土遺物(S=1/4、11～13は1/3)



第73図 町27-3SD280・285・300平面図、断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/4)



第 74 図 町 27-3SD285 出土遺物 (S=1/3)

不備のため不明である。掘り下げ途中で在地系土師質土器の坏が 3 点廃棄された状態で出土している。

町 27-3SX291 調査区中央西寄りで確認された土坑状の遺構である。東西約 1.9m、南北約 1.3m、深さは最深部で約 0.3m を測り、平面不定形の隅丸長方形、底面にはビット状の掘り込みを有し、そのため断面は段掘り状をなす。検出段階で、罫が出土しているが廃棄にともなうものと考えられる。

町 27-3SX292 調査区の西側、SX291 の北側で確認される。南北約 1.3m、東西約 0.85m、深さ約 0.3 ～ 0.35m を測る。SX291 同様底面にビット状の掘り込みを有することから段掘り状を呈す。上面からは罫が散在した状態で見つかったり、廃棄によるものと思われる。

町 27-3SX294 調査区中央で検出され、SD285 を掘り込む土坑状の遺構である。底面には径約 0.4m、深さ約 0.2m のビット状の掘り込みを有しことから大形の柱穴の可能性もある。南北約 0.7m、東西約 0.5m、深さ約 0.5m を測る。掘り下げ後半大から人頭大の罫が廃棄された状態で出土している。

(8) その他の遺構出土遺物 (第 75 図)

26、27 は町 27-3SX241 から出土したものである。26 は備前焼鉢鉢、27 は丸瓦の破片である。28 ～ 30 は町 27-3SX290 からの出土である。28、29 は口径、底径と比べ器高が低く低平な形状を呈す。30 は前者と比較し器高が高く、逆に口径、底径が縮小化する。

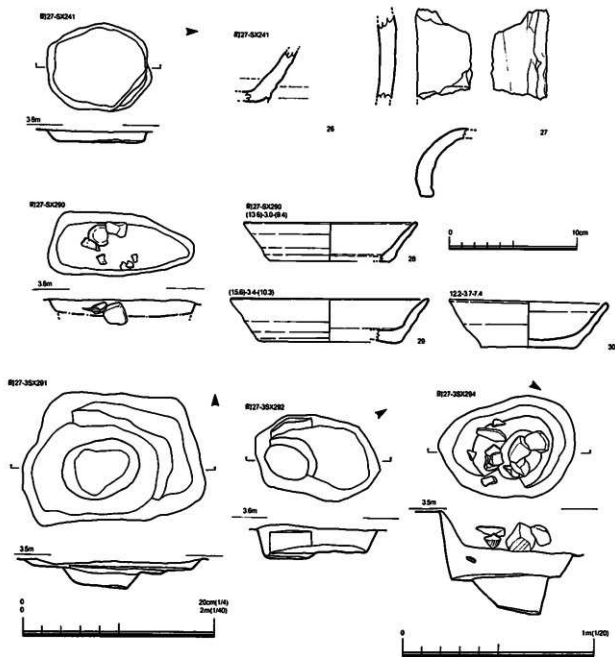
<II 期>

この段階の遺構は、道路状遺構のみである。調査中は、土壌の変化に伴いその都度 S 番号を付していたが、基本的には道路状遺構を造る際の一連のものとして判断される。報告は、路面と思われるものは「SF」とし、構築土については「SX」としている。

(9) 道路状遺構 (第 76 図)

町 27-3SF210 調査区を南北に伸びる砂礫土の溝状プランで、非常に硬化していることから、現状では路面と考えている。但し、上位に堆積する近世の耕作土にも砂状を含むことから削平を受けている可能性もある。幅員約 3.5m + α 、長さ 15.5m にわたって検出される。出土遺物から 16 世紀後半以降には構築されていたことが分かる。町 27-5、6 次調査区でも同様な状況が見られるが、町 27-2 次調査区では認められないことから、南北街路全体に敷かれるものではない。検出標高は約 3.7m 前後である。

町 27-3SX224SF210 の下位で検出される暗灰褐色土で、この層も同様に硬化している。上面の耕作土の影響からか褐色が強い。道路状遺構の構築土と考えられるが路面の可能性もある。検出標高は約 3.7 ～ 3.76m で西側向って傾斜が高くなる。

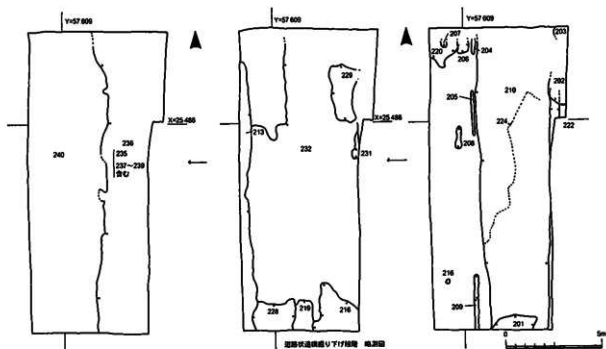


第75図 町 27-3SX241・290・294(S=1/20)・291・292・(S=1/40)、出土遺物(S=1/4、28～30はS=1/3)

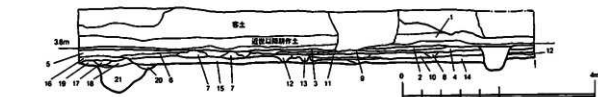
町 27-3SX232SF210、SX224 の下位で確認される灰褐色土で、やや硬化する。道路構築土と考えられる。但し、出土遺物を見るとやや年代に幅が生じるためSF210に伴うものかは不明である。検出標高は約 3.64 ～ 3.68m である。

町 27-2SX236・240SX232 の下位で認められる暗灰茶褐色土で、道路構築土と考えられる。土層中には路床強化のための礫や土器破片を多く含む。

余談であるが、道路状遺構を形成する土壌から、備前焼やその他国産陶器の破片が多く出土する傾向がある。硬質の焼物を路床として使用されたのであろうか。検出標高は約 3.56 ～ 3.64m である。



調査区北壁土層図



約27-35調査区北壁土層図

- 1 灰土
- 2 灰土
- 3 灰土
- 4 灰土
- 5 灰土
- 6 灰土
- 7 灰土

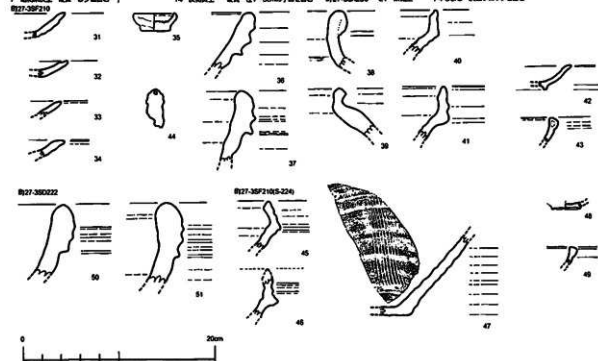
- 約27-35F210
- 約27-35F224

- 8 灰土
- 9 灰土
- 10 灰土
- 11 灰土
- 12 灰土
- 13 灰土
- 14 灰土

- 約27-35F232
- 約27-35F236

- 15 灰土
- 16 灰土
- 17 灰土
- 18 灰土
- 19 灰土
- 20 灰土
- 21 灰土

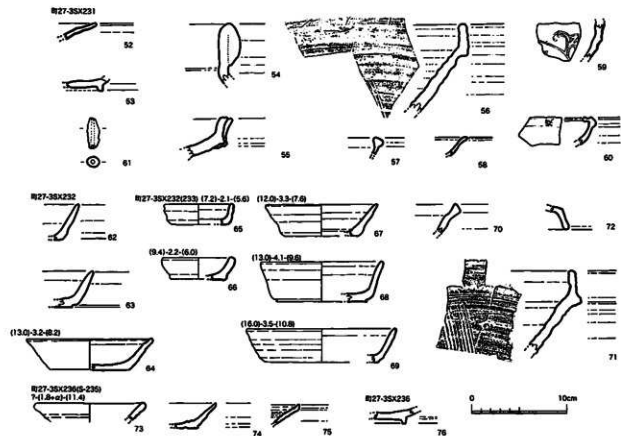
- 約27-35G240
- 約27-35G240



第76図 道路状遺構掘り下げ段層略図(S=1/200)、調査区北壁土層図(S=1/80)、出土遺物(S=1/4)

(10) 道路状遺構出土遺物 (第 76、77 図)

31～49 は町 27-3SF210 出土の遺物である。31～34 は京都系土師器皿の口縁部である。器壁はやや厚めである。35 は在地系ロクロ目土師質土器の小坏 (ミニチュア品) である。内外面には煤が付着する。36、37 は備前焼大甕口縁部で中世 6 期 b 段階に位置付けられる。38、39 は備前焼壺の口縁部で、38 は玉縁状、39 は短頸で直立する口縁を有する。40、41 は備前焼掬鉢の口縁部、中世 6 期 b 段階以降のものである。42 は荷花皿 B 群である。43 は中国産陶器の鉢口縁部と思われる。44 は不明製品で、端部に穿孔がある。表面には草花の文様が描かれている (遺物写真参照)。45、46 は備前焼掬鉢口縁部、47 は体部～底部の破片、48 は産地不明陶磁器で小皿の高台部か。49 は 43 と一緒に中国産鉢の口縁部と思われる。50、51 は SF210 を掘り込む溝状遺構 SD222 より出土したもので、共に備前焼大甕口縁部で近世 I 期段階と捉えられる。52～60 は町 27-3SX231 からの出土である。52 は白色系土師器の坏口縁部、53 は土師質土器碗の底部、54 は備前焼壺口縁部、55、56 は掬鉢口縁部で、壺は中世 4 期、掬鉢は中世 5 期～6 期までのものと思われる。57 は備前焼鉢口縁部で玉縁状を呈す。58 は白磁の坏で E 群に該当か。59、60 は植泉窯系青磁で 59 は花瓶の体部、60 は香炉の口縁部である。61 は小型の管状土器である。62～72 は町 27-3SX232 出土である。62～65 は在地系土師質土器の坏で 64 は口縁内面に面取りによる段が認められる。65 は小坏である。66 は在地系ロクロ目土師質土器の小坏で特徴の段はナデにより消されている。67～69 は在地系土師質土器の坏で、形状等から 67・68 は 14 世紀代のものと考えられる。70 は土師質土器鉢口縁部、71 は備前焼掬鉢口縁部、72 は緑釉陶器で蓋か。73～76 は町 27-3SX236 から出土したものである。



第 77 図 町 27-3SX231・232・236 出土遺物 (S=1/4)

中世大友府内町跡第27-3次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
201		溜まり状	暗灰粘質土	210→201	
202		溜まり状	赤褐砂礫土	222→202	近世?
203		溜まり状	赤褐砂礫土		近世?
204		溝状	褐灰砂礫土	224→204	
205		溝状	褐灰砂礫土	224→205	
206		溜まり状	褐灰砂	224→206	
207		溜まり状	褐灰砂礫土	224→220→207	
208		溝状	褐灰砂礫土	224→208	
209		溝状	褐灰砂礫土	224→209	
210	町27-3SF210	道路跡			16世紀後半～
211		溜まり状	暗灰黄砂質土		
212		溜まり状	赤茶褐土	210→212	
213		溜まり状	暗灰茶砂質土		
214			淡灰褐砂質土		
215			黄茶灰土		
216		溜まり状	黄灰土	216→224	中世
217			黄茶褐土	210→217	
218			黄灰褐砂		
219			黄灰褐砂	232→219→216, 228	中世
220		集石?		224→220	中世
221			灰褐砂質土		
222		溝状	赤灰褐土	210→222	近世?
223		道路構築土	灰茶黄土		中世
224	町27-3SX224	道路×竪地	灰褐砂礫土	232→224→210	中世
225		集石?			中世
226			暗灰粘質土		
227		道路×竪地	黄褐砂質土		中世
228		道路×竪地	黄灰茶砂質土	232→219→228	中世
229			暗灰茶粘質土	232→229	中世
230		道路?			中世
231	町27-3SX232	道路構築土	黄灰砂礫土	232→231	中世
232	町27-3SX232	道路構築土	灰褐砂礫土		中世
233		道路構築土	暗茶灰砂礫土		中世
234		道路構築土			中世
235	町27-3SX236	道路構築土			中世
236	町27-3SX236	道路構築土		240→236	中世
237	町27-3SX236	道路構築土			中世
238	町27-3SX236	道路構築土	暗茶褐土		中世
239	町27-3SX236	道路構築土	暗茶褐土		中世
240	町27-3SX240	道路構築土		240→236	中世
241	町27-3SX241	土坑	暗灰褐土	285→294→241	中世
242		柱穴	灰褐砂礫土→暗灰褐土(柱痕)	280→242	中世
243		ピット×土坑	暗茶褐灰土		中世
244			暗茶褐土		中世
245		ピット	暗茶褐土		中世
246		ピット	暗灰褐土	248→246	中世
247		ピット	暗灰茶土		中世
248		ピット	暗灰茶土	248→246	中世
249		ピット	暗茶灰土		中世
250		柱穴	淡茶褐土		中世
251		柱穴	淡茶褐土		中世
252		ピット	淡茶褐土	285→252	中世
253		ピット	暗灰褐土		中世
254		ピット	暗灰茶土	270→254	中世
255		ピット	暗灰褐土	255→245	中世
256		ピット	暗灰褐土		中世
257		柱穴	礫充填		中世
258		ピット	暗灰土	270→258	中世
259		柱穴	暗茶褐土→暗灰土(柱痕)	270→259	中世
260		ピット	暗灰土	300→260	中世
261		柱穴	暗灰茶土	268→261	中世
262		ピット	暗灰褐土		中世

中世大友府内町跡第27-3次遺物調査表

遺物番号	S番号	種類	数量	図面番号	寸法	口徑	底径	高さ	備 考
(cm)					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
第27-352278	52278	在地系土層上層	片	第71964	○	030	(12.7)	3.5	反転層?
第27-352279	52279	大石・土層	破片	第71965	○	040		2.3	?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第71966	○	041		4.0	?
第27-352300	52300	内面(陶器)	破片	第71967	○	042		3.2	?
第27-352300	52300	内面(陶器)	破片	第71968	○	043	反転層?	厚2.8	内面、外面に黒い点状の穴、黒い点状の穴
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第71969	○	044		1.8	厚2.2
第27-352305	52305	大石・土層	破片	第71970	○	045		3.1	内面、外面に黒い点状の穴、黒い点状の穴
第27-352310	52310	土層上層?	破片	第71971	○	046		1.5	反転層?
第27-352310	52310	大石	破片	第71972	○	047	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	在地系土層上層	片	第71973	○	048	(13.0)	4.1	反転層?
第27-352302	52302	在地系土層上層	片	第71974	○	049	(12.0)	3.3	反転層?
第27-352302	52302	在地系土層上層	片	第71975	○	050	(16.0)	2.1	反転層?
第27-352302	52302	在地系土層上層	片	第71976	○	051	(17.4)	3.1	反転層?
第27-352302	52302	土層上層	片	第71977	○	052		3.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71978	○	053		8.5	厚1.8
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71979	○	054		1.7	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71980	○	055		2.3	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71981	○	056		9.2	厚1.8
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71982	○	057		9.5	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71983	○	058		5.1	厚1.4
第27-352302	52302	土層上層	片	第71984	○	059		5.3	?
第27-352302	52302	大石・土層	破片	第71985	○	060		3.3	厚1.4
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71986	○	061		1.8	?
第27-352300	52300	内面(陶器)	破片	第71987	○	062		3.0	?
第27-352300	52300	内面(陶器)	破片	第71988	○	063		1.3	?
第27-352300	52300	内面(陶器)	破片	第71989	○	064		3.3	?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第71990	○	065		2.3	?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第71991	○	066		2.9	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71992	○	067		1.6	厚1.0
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71993	○	068		1.8	厚1.0
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71994	○	069		3.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71995	○	070		2.0	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71996	○	071	(9.4)	3.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71997	○	072		8.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第71998	○	073	反転層?	厚2.1	反転層?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第71999	○	074		1.5	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72000	○	075	(17.2)	2.1	(5.6)
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第72001	○	076		6.1	?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第72002	○	077		2.3	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72003	○	078		2.4	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72004	○	079		2.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72005	○	080		7.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72006	○	081		1.4	(7.0)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72007	○	082	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72008	○	083	反転層?	厚2.3	反転層?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第72009	○	084		0.7	3.0
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第72010	○	085		4.6	?
第27-352310	52310	内面(陶器)	破片	第72011	○	086		1.3	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72012	○	087	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72013	○	088		7.4	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72014	○	089		1.3	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72015	○	090		5.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72016	○	091	(8.3)	2.7	(4.6)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72017	○	092		1.7	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72018	○	093		2.8	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72019	○	094		3.7	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72020	○	095		3.7	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72021	○	096	(13.0)	3.2	(厚2.2)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72022	○	097		3.5	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72023	○	098		8.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72024	○	099		1.8	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72025	○	100		1.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72026	○	101	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72027	○	102		1.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72028	○	103	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72029	○	104		1.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72030	○	105		2.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72031	○	106		5.1	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72032	○	107		5.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72033	○	108		3.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72034	○	109	反転層?	厚2.1	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72035	○	110		1.3	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72036	○	111		3.8	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72037	○	112	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72038	○	113	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72039	○	114	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72040	○	115	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72041	○	116		1.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72042	○	117	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72043	○	118		3.0	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72044	○	119	反転層?	厚2.2	反転層?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72045	○	120		1.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72046	○	121		1.2	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72047	○	122		3.4	(12.4)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72048	○	123		4.6	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72049	○	124	(13.2)	4.0	(9.8)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72050	○	125	(12.2)	3.7	(8.2)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72051	○	126	(11.0)	3.9	(8.4)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72052	○	127	12.0	3.4	8.7
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72053	○	128	12.2	3.7	7.4
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72054	○	129	(13.6)	3.0	(9.4)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72055	○	130	(14.2)	4.1	(10.8)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72056	○	131	13.4	3.8	9.0
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72057	○	132		1.7	?
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72058	○	133		3.1	(8.0)
第27-352302	52302	内面(陶器)	破片	第72059	○	134	(15.6)	3.4	(10.3)

第XⅢ章 中世大友府内町跡第27-4次調査

第1節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第27-4次（以下、「町27-4次」とする。）調査区は、古絵図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定妙厳寺に該当する。町27-2・3次調査同様、16世紀後半以降に造られたと考えられる道路状遺構やその下位からは道路構築以前の井戸跡や溝状遺構、柱穴群などが発見されている。

今回の調査では、道路状遺構の東側ラインが確定したことが最大の成果といえる。それによると道路の幅は確実に9m以上あったと推測され、現在の国道10号線の拡幅工事の事前調査で見つかった中世府内町の中心道路とほぼ同様な規模を有していたのではないかと考えられる。

発掘調査は松尾聡が、整理・報告は佐藤文が担当した。

第2節 基本層位

調査地は旧宅地であったため客土層が厚く堆積しており、建物基礎等を含む擾乱坑が8ヶ所あった。客土の下位には耕作土層が認められ、この層を除去すると道路状遺構が検出される（検出高約3.7m）。この道路状遺構を掘り下げると基盤層である黄褐色土が現れる。黄褐色土の下層は砂礫土が堆積する。最終遺構検出面の標高は約3.55m～3.6mである。

第3節 遺構・遺物

<1期>

1期の遺構には柱穴列、溝状遺構、土坑、ピット群がある。

(1) 柱穴列（第79図）

町27-4SA665 調査区の西側に南北方向に3間+α（約5.2m）を有す柱穴列である。柱穴径は約0.4m、深さは約0.3～0.5mを測る。主軸方向はN-2°-Eを呈す。平面、土層観察からは柱痕認められない。最も南側の柱穴は検出段階に礫が出土した。但し、底面からはレベル差が生じることから埋め戻しの際の地固めによるものと思われる。

町27-4SA670 調査区の中央東よりで確認される、柱間南北に4間+α（約5.2m）有す柱穴列である。柱穴径は約0.2～0.3m、深さは0.1～0.2mとやや浅めである。このSA670とSA665との間（約5.6m）には帯状に遺構密度が低い空間が存在しており、両遺構の主軸方向は近似している。このことから、SA665、670には有機的関係が窺え、同一区画施設になるものと考えられる。

町27-4SA675 調査区中央東よりでL字に展開する柱穴列である。柱間は南北に3間+α（約6.0m）、東西方向に1間+α（約1.3m）確認され、柱穴径は約0.3m～0.4m、深さは約0.3～0.4mを測り、土層観察から柱痕（径約0.1～0.15m）が認められる。主軸方向はN-3°-Wを呈す。

町27-4SA680 調査区の東側で確認される南北に柱間4間+α（約5.8m）を有す柱穴列である。柱穴径は約0.3～0.4mであるが、深さは約0.18m～0.53mと一定していない。主軸方向はN-8°-Eを呈す。

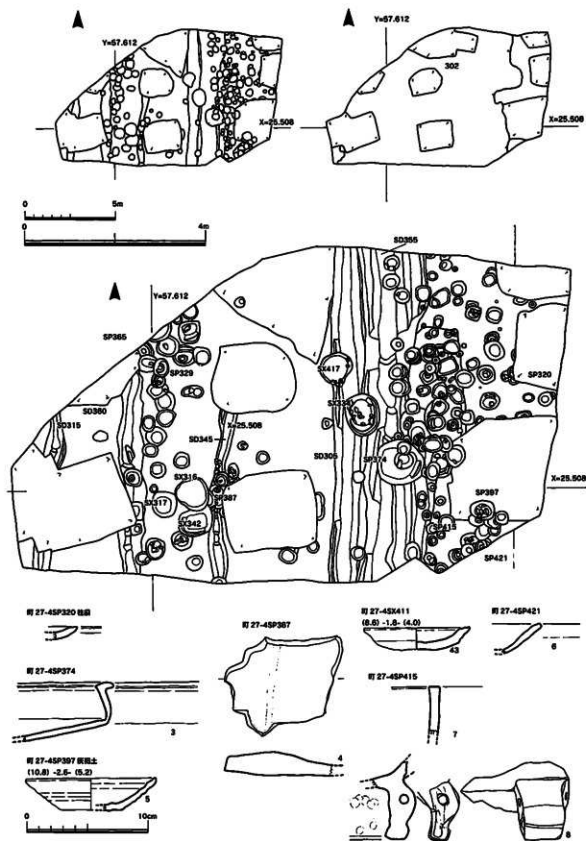
これら柱穴列の時期についてであるが、各遺構間の新旧関係、道路状遺構の下位から検出されることから考えると、15世紀後半～16世紀後半・末段階の範囲で捉えられる。

(2) 柱穴列出土遺物（第79図）

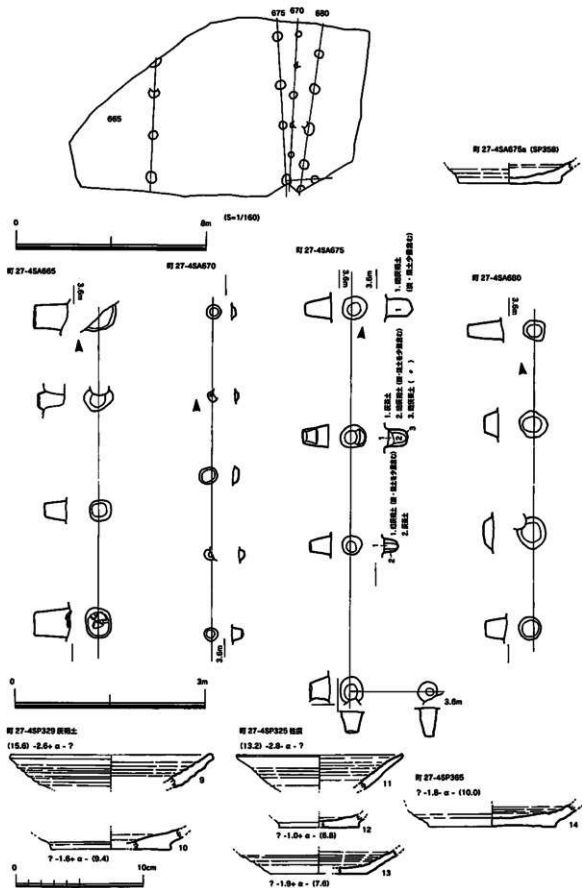
1は町27-4SA675a（SP358）から出土したもので、在地系ロクロ目土質土器片底部である。底径が8.0cmと大きく、逆ハの字形に開く器形になるものと考えられる。

(3) 柱穴出土遺物（第78・79図）・・・Q内の表記は遺物が出土した遺構である

2は京都系土器器皿口縁部である（町27-4S320）。3は縄文土器浅鉢で、口縁部が短くくの字に屈曲する（町27-4SP374）。4は精製した胎土で作られ、器表面は丁寧な磨きが施される。瓦（鬼瓦か）の一部と考えられる（町27-4SP387）。5は在地系ロクロ目土質土器の坏で、口縁内面が面取り状に窪む（町27-4SP397）。6は京都系



第 78 図 町 27-4 次遺構配置図 (S = 1/200)、遺構全体図 (S = 1/80)、柱穴遺構出土遺物 (S = 1/3)



第 79 図 町 27-4SA665・670・675・680 平面図・断面図 (S=1/60)、出土遺物 (S=1/3)

土師器皿口縁部で、端部が厚くなる（町 27-4SP421）。7 は瓦質土器の火鉢、8 は土師質土器風炉または火鉢の脚部で、中央部と接地面に穿孔が施される（町 27-4SP415）。9、10 は在地系ロクロ目土師質土器皿口縁部と底部で、逆ハの字型に開くタイプになる。器壁が厚く、内面のロクロ目痕も顕著に認められる（町 27-4SP329）。11～14 は在地系ロクロ目土師質土器環で、11 は底部から緩やかに外反しながら立ち上がる。13、14 は底径がやや大きく、ともに逆ハの字に開くタイプになると思われる。

(4) 溝状遺構（第 80、81 図）

溝状遺構は調査地の中央付近から西側にかけて検出される。すべて南北方向に伸びるもので、その平面形状や規模から、町 27-4SD315 と 345 と町 27-4SD305 と 360 がそれぞれの組み合わせになると推測される。これら溝状遺構群は土層観察から水流痕跡は認められないことから区画を目的として造られたと考えられる。その後、区画施設は柱穴列（欄）に変わるが、主軸方向を見ると前段階の溝跡のものを踏襲していることが分かる。

町 27-4SD305 調査地の中央付近で確認され、SD355 と新旧関係を有す。検出長 3.6 m、幅員約 0.3 m、深さ約 0.2 m を測り、主軸方位は N-1° -W をとる。埋土は灰茶褐土、黒灰褐土を呈し、その中から 15 世紀後半から 16 世紀代（前半）にかけての遺物が認められることから、それ以前に機能していたと推測される。

町 27-4SD315 調査区西端で確認される。検出長 1.9 m、幅員約 0.25 m、深さ約 0.1 m とやや掘り方は小規模で、緩やかに蛇行しながら区外へと伸びる。主軸方位は N-4° -E を呈す。埋土から III 期に比定される京都市土師器が出土しており、道路状遺構が構築される直前まで機能していたと考えられる。

町 27-4SD345 調査地のほぼ中央で確認される。検出長約 1.9 m、幅員約 0.1～0.18 m、深さ約 0.08 m を測り、SD315 同様蛇行しながら伸びる。攪乱坑により掘削されるが、その状況から調査区内で途切れるものと思われる。主軸方位は N-3° 4' -E をとり、平面形状等を併せて考えると SD315 と同時に機能していた可能性が高い。ちなみに両溝の心々距離は約 3.8 m である。

町 27-4SD355 調査区内の溝の中で最も東側に位置し、SD305 に掘り込まれる。検出長約 7.1 m、幅員約 0.9～1.1 m、深さ約 0.46 m を測り、横断面は逆台形を呈す。溝壁面の立ち上がりを見ると西側は緩やかであるが、東壁面は傾斜がきつくなる。縦断面を見ると、溝は北に向って低くなることが分かる。主軸方位は N-2° -W をとる。出土遺物から、15 世紀後半には埋没していたと考えられる。

町 27-4SD360 調査区西側、SD315 に東側で確認される。検出長 2.2 m、幅員約 0.3 m、深さ約 0.12 m を測り、主軸方位はほぼ真北をとる。SD305 と対になると考えられ、両溝の中心からの距離は約 4.8 m となる。

(5) 溝状遺構出土遺物（第 80、81 図）

15～22 は町 27-4SD305 からの出土である。15 は在地系土師質土器環で、体部中位は薄く口縁にかけてやや厚くなる。16 は白色系土師器の環で、口縁部には煤が付着する。大内 II 期に該当すると思われる。17 は森田 E 群の白磁皿で、見込み部分には重ね焼きの痕跡である目跡が残る。体部下半から高台部は露胎となる。18 は備前焼鉢鉢底部で中世 4 期にあたるものか。19～21 は SD305 の中層から出土したものである。19 は在地系土師質土器の環で、口縁端部は断面三角形を呈す。内面には粗い磨きが行なわれる。20、21 は瓦質土器櫛鉢で、20 は外面に指押え痕が顕著に認められる。22 は最下層から見つかった在地系土師質土器環で、ハコ型を呈するタイプである。23 は町 27-4SD315 出土の III 期に比定される京都市土師器皿口縁部で、端部が肥厚する。24～26 は町 27-4SD360 からの出土である。24、25 はそれぞれ備前焼甕、甕の頸部から体部にかけての破片である。24 は内面に、25 は外面に沈線を残す。26 は畿内産の緑釉陶器甕で、高台は削り出しによって作られ、断面四角形を呈す。内面には目跡が認められる。27～41 は町 27-4SD355 出土である。27、28 は在地系土師質土器環で、27 は緩やかな外反器形で、器壁が厚い。28 は器壁が薄く、底部から口縁にかけては直線的に立ち上がる。29、30 は在地系ロクロ目土師質土器環である。31 は瓦質土器鍋口縁部で、短く外反し、内面が窪む。32 は土師質土器鍋で外面には格子目状のタタキ跡が残る。内面は削り後、縦方向の刷毛が施される。14 世紀中頃～後半に該当するものか。33 は軒丸瓦の瓦当部の破片である。巴文が認められる。34～38 は SD355 上層から出土した。34 は在地系土師質土器環の底部で、やや器高が高い。35～38 は大内 II 期になるとと思われる白色系土師器である。35 は皿、36～38 は環で、器壁が薄く、逆ハの字に開く器形をもつ。39～41 は SD355 中層出土で、39 は緑

軸陶器口縁部、40、41は備前焼壺、摺鉢の口縁部である。40は中世2～3期、41は中世5期a段階にそれぞれ位置付けられる。

(6) その他の遺構 (82 図)

町 27-4SX316 調査区の中央西寄りで確認される柱穴状の遺構で、径約 0.8 m、深さ約 0.74 m を測り、平面円形を呈す。底面はフラットで、壁面は直線的に立ち上がる。

町 27-4SX317 SX316 の西側で検出される。1 辺約 0.5 m、深さ約 0.5 m を測り、平面隅丸正方形を呈す柱穴状の遺構である。

町 27-4SX334 調査区中央付近で検出され、SD305 と新旧関係を有す。長径約 1 m、短径約 0.7 m、深さ約 1 m としっかりとした構造を持ち、平面楕円形を呈す柱穴状の遺構である。底面はほぼフラットで、壁面も直線的に立ち上がるが、途中でテラス状の平坦面がある。

町 27-4SX342 SX316 に掘り込まれた状態で確認された。径約 0.7 m、深さ約 0.8 m を測り、平面円形を呈す柱穴状の遺構である。土層観察から柱の抜き取りが行なわれた可能性がある。

町 27-4SX411 調査区南東部で検出された溜まり状の遺構である。この SX411 を除去すると複数のピット群が現れる。

町 27-4SX417 調査区中央付近で検出され、SD305 と新旧関係を有す。径約 0.75 ～ 0.8 m、深さ約 0.08 m を測り、平面円形を呈す。

(7) その他の遺構出土遺物 (78、82 図)

42 は町 27-4SX316 出土の在地系土師質土器で、口径、底径に比してやや器高が高い。口縁端部が丸く仕上げられ、底部に向って直線的に伸びる。43 は町 27-4SX411 から出土した京都系土師器で、厚手で、口縁は強いナデのためか外反する。Ⅲ期に該当すると思われる。44 は町 27-4SX417 出土の瓦質土器茶釜である。体部中位に突帯を有す。口縁は断面四角形を呈し、内面には指押えの跡が顕著に認められる。

< Ⅱ期 >

Ⅱ期の遺構は道路状遺構のみである。

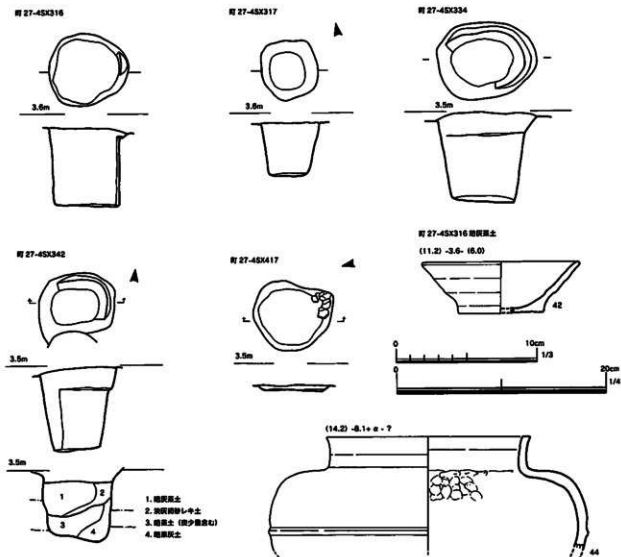
(8) 道路状遺構 (第 83 図)

町 27-4SF302 調査区東側で道路状遺構の東路肩と思われる層境が確認されている。それから判断すると、南北街路は幅員は 9 m 以上あったと推測され、中世府内町の中心街路と同じ規模を有していた可能性が高い。

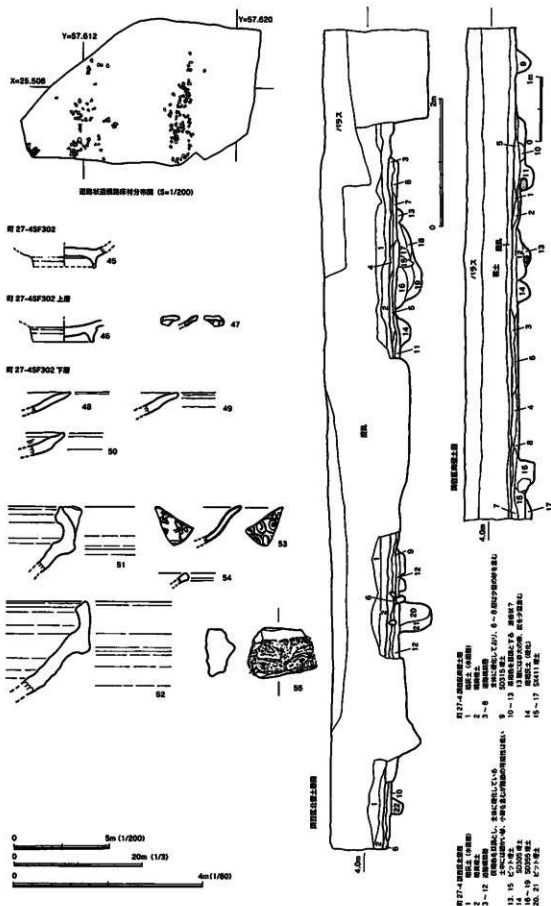
SF302 上面は耕作層や掘乱坑により削平されており、確実に路面と判断される層は認められない。路床となる硬質な土も他の調査区と比べて薄く、層数も少ない。但し、溝が掘り込まれていた地点には帯状に小礫が検出され、道路の基礎工事についての、地盤が脆弱な地点に対する対策の様子が分かる。出土遺物から 16 世紀後半～末段階に造られたと考えられる。

(9) 道路状遺構出土遺物 (第 83 図)

45 は青花碗で、E 群にあたる。見込み部には水鳥が描かれ、高台内には「長命富貴」銘が付される。46 は青磁碗であるが、産地は不明である。高台は路胎で、見込み部分は蛇の目状に軸が剥がれる。47 は華南産の青釉菱花皿の口縁部である。48～54 は SF302 下層よりの出土である。48～50 は京都系土師器皿の口縁部で、48 はやや古手であるが、49、50 は 16 世紀末段階のものである。51、52 は備前焼摺鉢口縁部で 51 は近世Ⅰ期 b、52 は中世 6 期に比定される。53 は青花碗口縁部、54 は華南産の緑釉陶器鉢か。55 は軒平瓦破片で、磨耗しているが唐草文が認められる。



第 82 図 町 27-4SX316、317、334、342、417 平面図・断面図 (S=1/40)、出土遺物 (S=1/3)



第 83 図 町 27-4SF302 土層図 (S=1/80)、路床材分布図 (S=1/200)、出土遺物 (S=1/3)

中世大友府内町跡第27-4次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
301			灰色		16世紀末～
302	町27-4SF302	道路状			中世
303			灰茶土		中世
304			砂利		中世
305	町27-4SD305	溝状	灰茶褐色土	305→334、417	15世紀後半
306			灰褐色礫土		中世
307			灰褐色礫土		中世
308			灰褐色礫土		中世
309			砂礫灰褐色土		中世
310		土坑	暗褐色灰土		中世
311		土坑?	褐色灰土		中世
312		ピット	灰褐色礫土		中世
313		ピット			中世
314		溝状?			中世
315	町27-4SD315	溝状			中世
316		ピット	灰褐色土(暗灰茶土)	342→316	中世
317		ピット	暗灰褐色土		中世
318		ピット	灰褐色土		中世
319		ピット			中世
320		ピット			中世
321		道路状	淡灰茶土		中世
322		ピット	暗灰茶土	355→324→322	中世
323		ピット		355→323	中世
324		ピット		355→324→322	中世
325		ピット		325→360	中世
326		ピット			中世
327		ピット	灰褐色土		中世
328		ピット	灰褐色土		中世
329		ピット	灰褐色土	365→329	中世
330		道路状	暗灰茶土		中世
331		ピット			中世
332		ピット			中世
333		道路状		305→334	中世
334		土坑	茶灰砂礫土		中世
335		ピット			
336		ピット	灰褐色土		
337		ピット		337→318	
338		ピット		398→338	
339		ピット			
340		ピット			
341		ピット	灰茶土		
342		ピット	褐色灰土	342→316	
343		ピット	淡灰褐色土	343→342	
344		ピット	茶褐色土		
345	町27-4SD345	溝状	灰褐色土	345→387→391	中世
346		ピット	灰褐色土		
347		ピット	暗灰茶土		
348		ピット	灰褐色土		
349		ピット	灰茶土		
350		ピット	灰茶土		
351		ピット	茶灰土	393→351	
352		土坑?	灰褐色土		
353		ピット	灰褐色土		
354		ピット	灰茶土		
355	町27-4SD355	溝状	暗灰茶土		
356		ピット	灰茶土		
357		ピット	灰褐色土		
358		ピット		355→358	
359		柱穴		414→374→359	
360	町27-4SD360	溝状			
361		ピット	灰褐色土		
362		ピット	灰褐色土		

中世大友府内町跡第27-4次遺構台帳②

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
363		ビット	灰褐土		中世
364		ビット	灰褐土		中世
365		柱穴	暗灰褐土		中世
366		ビット	灰茶土	390→366	中世
367		柱穴	茶褐土→暗灰褐土		中世
368		ビット			中世
369		ビット			中世
370		溝状			中世
371		ビット	灰褐土	355→371	中世
372		柱穴	灰褐土→灰褐土(柱痕)		中世
373		ビット?		378→373	中世
374		ビット		414→374→359	中世
375		ビット		355→375	中世
376		ビット	灰褐土		中世
377		ビット	灰褐土	377→367	中世
378		ビット	灰褐土	378→373	中世
379		ビット	暗灰褐土		中世
380		柱穴			中世
381		ビット	灰褐土	409→381	中世
382		ビット	灰褐土		中世
383		ビット	灰茶土		中世
384		柱穴			中世
385		ビット	灰茶土		中世
386		ビット	灰茶土		中世
387		ビット	灰褐土	345→387→391	中世
388		ビット	灰褐土		中世
389		ビット	灰褐土		中世
390		ビット	灰褐土	390→366	中世
391		ビット	灰褐土		中世
392		ビット	淡灰褐土		中世
393		ビット	淡灰褐土		中世
394		ビット	淡灰褐土	394→351	中世
395		ビット	暗灰褐土		中世
396		柱穴	灰茶土→暗灰褐土(柱痕)	345→387→391	中世
397		ビット	灰褐土	401→397、400	中世
398		ビット	淡灰褐土		中世
399		ビット	灰褐土		中世
400		ビット	灰茶土	401→397、400	中世
401		柱穴	灰褐土→暗灰褐土(柱痕)	401→397、400	
402		ナミイタ?	灰茶砂礫土		
403		ビット	灰褐土		
404		ビット	灰褐土		
405		柱穴	灰褐土→暗灰褐土(柱痕)		
406		ビット	暗灰茶褐土		
407		ビット	灰褐土		
408		ビット	暗灰褐土		
409		ビット	暗灰褐土	409→381	
410		ビット	暗茶灰土		
411	町27-4SX411		暗灰茶褐土		16世紀後半
412		柱穴	灰褐土→暗灰茶土		
413		ビット	灰茶褐土		
414		大型壁穴遺構	暗灰茶土	355→414→374→359	
415		ビット	灰褐土		～16世紀後半
416		ビット	灰褐土	355→416	
417		土坑	暗茶灰土	305→417	中世
418		ビット	暗灰褐土	355→418	中世
419		ビット	灰褐土	420→419→418	中世
420		土坑?	灰茶褐土→黄褐ブロック土	420→419	中世
421		柱穴	茶灰土→暗茶褐土(柱痕)		16世紀中頃～
422					
423					
424					

由世太友府内町跡第27-4遺物觀察表

遺構番号	S番号	種 類	部 位	図面番号	実尺番号	R番号	口幅 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備 考
町27-45X411	S-411周灰褐色土	京都系土師器	皿	第78043	135	(8.6)	1.8	(4.0)	反転履元 1期に該当	
町27-45P421	S-421榎方	京都系土師器	皿	第78066	136	?	2.4-α	?	1期に該当	
町27-45P358	S-358平きい	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79011	137	?	1.6-α	8.0		
町27-45D305	S-305趾下層側面	在地系土師質土器	杯	第80022	138	?	4.4-α	?		
町27-45D305	S-305中層	瓦質土器	鉢	第80021	139	(16.8)	5.7	(12.6)	反転履元	
町27-45P397	S-397灰褐色土	在地系ロクロ土師質土器	杯	第78085	140	(10.8)	2.6	(5.2)	反転履元	
町27-45X316	S-316暗灰赤土	在地系土師質土器	杯	第82042	141	(11.2)	3.6	(6.0)	反転履元 薄手で、丁寧なつくり	
町27-45D305	S-305上層(中央部)	国産陶器(畿内産)	磁鉢	第80018	142	(22.6)	7.2-α	(12.6)	反転履元 器口6本 東河岡中世4期?	
町27-45P365	S-365NO.14R1	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79014	143	(13.0)	1.8-α	(10.0)	反転履元	
町27-45F302	S-302東面ペレット	瓦	皿	第83055	144	北33.8-α	405.3-α	422.2	拓本有り	
町27-45D360	S-360周灰褐色土(5cm)	緑釉陶器(畿内産)	碗	第80026	145	?	1.4-α	(7.6)	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45D360	S-360P2	国産陶器(備前)	甕	第80024	146	?	6.3	?	東河岡中世中期6a-b(16世紀前半~中頃)?	
町27-45D360	S-360P1	国産陶器(備前)	甕	第80025	147	?	10.1-α	?	朝鮮半島系?器口縁部へ付 国産土器(土師系?)	
町27-45D305	S-305中層(中央部)	在地系土師質土器	灰皿(平足)	第80019	148	(13.6)	3.8-α	?	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断	
町27-45D305	S-305P2	白磁	碗	第80017	149	(11.4)	3.4	3.2	反転履元 1層部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45D305	S-305P4	白色系土師器	杯	第80016	150	(12.0)	(2.9-α)	?	反転履元 国産土器?器口縁部 国産土器?器底は破断	
町27-45D305	S-305中層(南側部)	瓦質土器	磁鉢	第80020	151	?	5.7-α	?	器口縁部は破断、器底は破断	
町27-45D305	S-305下層(南側部)	青磁	碗	第80017	152	?	2.1-α	?	現状では白磁のような質感 焼きが甘いのか?	
町27-45D315	S-315暗灰褐色土	京都系土師器	皿	第80023	153	?	1.5-α	?		
町27-45D355	S-355中層北側	国産陶器(備前)	甕	第81040	154	?	10.0-α	?	東河岡中世中期3a-b(14世紀前半~15世紀前半)	
町27-45D355	S-355中層北側部	国産陶器(備前)	磁鉢	第81041	155	?	6.1-α	?	東河岡中世中期5期 15世紀前後	
町27-45D355	S-355中層北側	緑釉陶器(畿内産?)	碗?	第81039	156	?	1.3-α	?		
町27-45D355	S-355北側部上層	在地系土師質土器	杯	第81034	157	?	3.1-α	(7.0)	反転履元 h型タイプ 直線的な器形	
町27-45D355	S-355北側部上層	白色系土師器	杯	第81036	158	(10.4)	1.3-α	?	反転履元 大内1期? 薄手タイプ	
町27-45D355	S-355北側部上層	白色系土師器	杯	第81037	159	(13.4)	3.0	(5.6)	反転履元 大内1期?	
町27-45D355	S-355北側部上層	白色系土師器	小皿	第81035	160	(6.8)	0.9	?	反転履元 大内1期?	
町27-45D355	S-355趾下層	瓦質土器	火鉢	第81027	161	?	6.5-α	?	拓本有り	
町27-45D355	S-355 5cm下	在地系土師質土器	杯	第81028	162	(12.2)	4.0	(7.0)	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45D355	S-355 5cm下	在地系ロクロ土師質土器	小杯	第81029	163	(10.0)	2.1	(6.0)	反転履元 内面に形成時のミガキ面を残す	
町27-45D355	S-355 5cm 下1/2	在地系土師質土器	杯	第81027	164	(10.4)	3.0	(6.4)	反転履元 内面は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45D355	S-355 5cm 下1/2	瓦質土器(房長系?)	皿	第81031	165	?	3.6-α	?		
町27-45D355	S-355 5cm下	在地系ロクロ土師質土器	杯	第81030	166	?	2.7-α	?		
町27-45D355	S-355P2	土師質土器	皿	第81032	167	?	9.8-α	?		
町27-45P320	S-320柱歯	京都系土師器	皿	第78052	168	?	2.1-α	?	八咫鏡にある器形の中心にある点に相当するものか?	
町27-45F302	S-302下層	国産陶器(備前)	磁鉢	第83052	169	?	7.3-α	?	II期以降?	
町27-45F302	S-302下層	京都系土師器	皿	第83049	170	?	1.8-α	?	器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45F302	S-302下層	京都系土師器	皿	第83048	171	?	1.6-α	?	II期に該当?	
町27-45F302	S-302下層	国産陶器(備前)	磁鉢	第83051	172	?	5.1-α	?	薄手 1~II期?	
町27-45F302	S-302下層	青花	皿	第83053	173	?	2.8-α	?	東河岡中世前期? 16世紀前半~末 (器口に上向き)	
町27-45F302	S-302下層	青花	皿	第83045	174	?	2.0-α	?	小野分精青花皿(厚化粧?) 細灰?	
町27-45F302	S-302上層灰褐色土	青釉輪花皿(華南産)	皿	第83047	175	?	0.7-α	?	小野分精細灰皿(厚化粧?) 16世紀中頃	
町27-45F302	S-302下層	緑釉陶器?	皿+甕	第83054	176	?	0.9-α	?		
町27-45D355	S-355上層南側	白色系土師器	杯	第81038	177	?	1.6-α	?	反転履元	
町27-45F302	S-302下層	京都系土師器	皿	第83050	178	?	1.8-α	?	大内II期?	
町27-45F302	S-302上層	青磁+緑釉陶器	碗	第83046	179	?	1.7-α	4.8	器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45P329	S-329灰褐色土	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79009	180	(15.6)	2.6-α	?	器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45P329	S-329灰褐色土	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79010	181	?	1.6-α	(9.4)	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45P365	S-365柱歯	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79011	182	(13.2)	2.8-α	?	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45P365	S-365柱歯	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79012	183	?	1.0-α	(6.4)	反転履元 全体的に厚手	
町27-45P365	S-365柱歯	在地系ロクロ土師質土器	杯	第79013	184	?	1.9-α	(7.6)	反転履元 器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45X415	S-415P5	土師質土器	火鉢	第78008	185	?	6.4-α	?	器口縁部は破断、器底は破断、器底は破断	
町27-45X415	S-415灰褐色土	瓦質土器	大鉢	第78007	186	?	4.0-α	?	瓦	
町27-45X417	S-417P6	瓦質土器	釜	第82044	187	(14.2)	8.1-α	?	反転履元 15世紀後半~	
町27-45P387	S-387NO.21P3	瓦質土器	甕?	第78084	188	長8.2	6.0-0	6.0-0	厚さ2.0 現状では瓦片の一部と考える 器は破断、器口に中層の	
町27-45P374	S-374	縄文土器	浅鉢	第78083	189	?	4.8-α	?	口縁には蓋受のためのめがねがある	
町27-45D355	S-355 5cm 下1/2	在地系土師質土器	小杯	第81029	220	(6.0)	2.0	(4.4)	反転履元 内内? 口縁は厚い	
町27-45D355	S-355P1	灰	軒丸瓦	第81033	284	北35.7-α	49.0-α	49.0-α	拓本有り	

第XIV章 中世大友府内町跡第27-5次調査

第1節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第27-5次（以下、「町27-5次」とする。）調査区は、町27-4次の南西、町27-3次の北側に位置し、古絵図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定妙厳寺周辺地に該当する。他の調査区同様、16世紀後半以降に造られたと考えられる道路状遺構やその下位から道路構築以前の溝状遺構、柱穴群などが発見されている。柱穴群は同一地点に集中しており、複数回の建替えが行われていたと推測される。

発掘調査は松尾聡が、整理・報告は佐藤道文が担当した。

第2節 基本層位

調査地は旧宅地であったため客土層が厚く堆積しており、その下位には耕作土層が認められ、この層を除去すると道路状遺構である硬質の砂礫層が検出される（検出高約3.7m）。この道路状遺構を掘り下げると基盤層である黄褐色土が現れ、溝状遺構やピット群が確認される（検出標高約3.6m）。黄褐色土の下層は粗い砂礫土が堆積する。

第3節 遺構・遺物

＜1期＞ 1期の遺構には柱穴列、溝状遺構、土坑、ピット群がある。

(1) 柱穴列（第85図）

町27-5SA690 調査区の中央北側で東西方向に3間+α（約3.5m）を有す柱穴列である。柱穴径は約0.3～0.4m、深さは西側の柱穴が約0.3mで他は全て約0.6mで揃う。主軸方向はN-85°-Wを呈す。平面、土層観察から柱径は約0.2m前後に復原される。各柱穴上面には拳大の礫が認められるが、底面からレベル差が生じていることから埋め戻しの際の地固めによるものと思われる。配置や主軸方位からSD500と関連する可能性が高い。

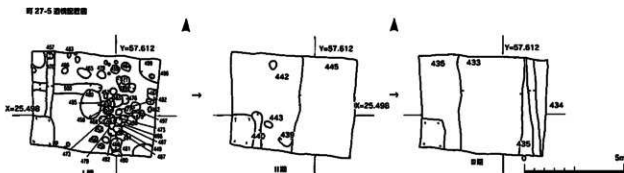
(2) 柱穴遺構出土遺物（第85図）

1は町27-5SP448出土の京都系土師器小皿で、口縁部は直立する（町27-5SP448）。2は和泉型瓦器碗の口縁部で、内面には不定方向の磨きが施される（町27-5SP460）。3は、II期に比定される京都系土師器皿の口縁部である（町27-5SP469）。4はⅢ期の京都系土師器皿口縁部で、器壁が厚く、強いナデのため口縁部と体部には明瞭な境が生じる（町27-5SP481）。5は鉄製の包丁と思われ、断面三角形を呈す。片刃で、切っ先、あこの部分は欠損するが、刃縁は比較的残存している。最大厚は1.1cmを測る。

(3) 溝状遺構（第85図）

町27-5SD470 調査区の西側で確認される南北方向の溝状遺構で、幅員約0.4mを測り、区外へと伸びる。主軸方位はN-4°-Eを有す。出土遺物から16世紀末以降に埋没していたと考えられる。

町27-5SD500 調査区中央付近で検出され、SA690の南側にある東西に伸びる溝状遺構である。検出長約3.4



第84図 町27-5次 遺構配置図 (S=1/200)

m、幅員約0.4～0.5m、深さ約0.25mを測り、主軸方位はN-88°-Wをとる。溝底面は西側から一段下がり、フラットに伸び、東側で段を有し急傾斜で立ち上がる。土層観察から水流痕跡は認められない。調査区の東壁面沿いに、このSD500と有機的関係を窺わせる遺構が確認される。両遺構の間には約2.3mの遺構密度の希薄な空間が存在しており、これを出入り口部分と考えた場合、SA690との配置関係から、北側が内部空間になることが想定される。新旧関係から下限は16世紀末段階におかれる。

(4) 溝状遺構出土遺物 (第85図)

6は町27-5SD470から出土した備前焼鉢鉢口縁部で、近世Ⅰ期aに該当する。

(5) 土坑 (第85図)

町27-5SK480 調査区の中央で確認され、SD500と新旧関係が生ず。長径約1.36m、短径約1m、深さ約0.3mを測り、平面楕円形、断面形状は掘鉢状を呈す。礫が多く認められたが、出土状況より南から北に向って廃棄されたと推測される。

(6) 土坑出土遺物 (第85図)

7、8は町27-5SK580から出土した在地系土師質土器の坏口縁部、底部である。7は、つまみながら回転ナデを行なったため先細り気味になる。

(7) 性格不明遺構 (第85図)

町27-5SX451 調査区北西部で検出され、南北約0.9m+α、東西約0.6m+α、深さ約0.3mを測り、平面楕円形を呈す土坑状の遺構である。

町27-5SX499 調査区の北東部で検出され、区外へと広がることから不明な点が多いが平面円形を呈すと思われる。深さ約1.0mを測り、断面不整形なフラスコ状をなす。土層観察から水性堆積は認められず、井戸や溜井になる可能性は低い。埋土にはブロック土を内包しており、歪な断面形状は柱等の抜き取り行為によって生じたものと推測できる。

(8) 性格不明遺構出土遺物 (第85図)

9は町27-5SX451から出土した白色系土師器の坏である。端部は欠損するが、復元口径は13.6cmになる。その形状から、大内Ⅱ期～Ⅲ期に該当すると思われる。

<Ⅱ期> Ⅱ期の遺構は、道路状遺構のみである。

(9) 道路状遺構 (第86図)

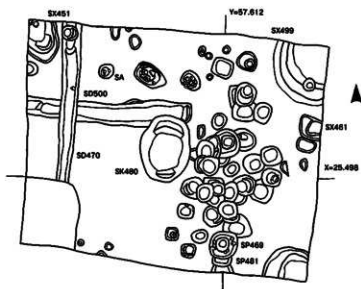
町27-5SF433 (S-433、435) 耕作土を除去した段階で確認される。調査区を幅約3mの規模で有し、帯状に南北方向に伸びる砂礫土と褐色土 (S-435) で構成される。前者は、町27-3次調査でも認められ、路面の一部と考えられる。土層図、横断面を見ると、浅くレンズ状に窪んでいる地点に砂礫土を敷き入れ、調査区中央付近を最高位として、他の調査地同様、東側にかけて低くなっていく。また、造り替えは土層観察から行なわれていないことが分かる。時期については、新旧関係、出土遺物等から16世紀末段階に構築されたと分かる (検出標高約3.7m)。

町27-5SX445 (S-434) SF433の下位で認められる硬質な土層で、傘大程度の礫を内包する。礫の分布は柱穴、土坑が掘り込まれる地点に集中していることから、この礫は路床強化のために入れられたものと考えられる。(検出標高約3.6m)

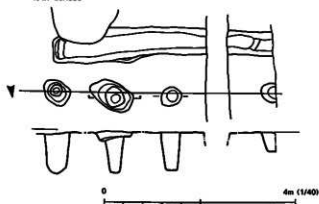
(10) 道路状遺構出土遺物 (第86図)

10～12は町27-5SX435から出土したものである。10は備前焼鉢鉢口縁部で、中世6期に該当する。11は青花碗で、小野分類E群にあたる。12は畿内産の緑釉陶器碗の高台部で、全面施釉される。

1 調査調査全図



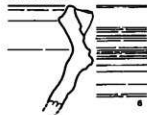
町 27-55A690



町 27-55D500



町 27-55D470 下層



町 27-55P448



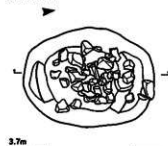
町 27-55P489



町 27-55P477



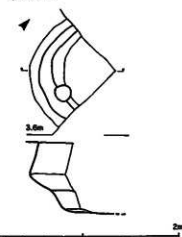
町 27-55X480



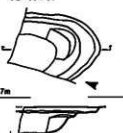
町 27-55X480 磁灰粘土



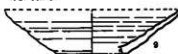
町 27-55X499



町 27-55X451



町 27-55X451



第 85 図 町 27-5 次 遺構全図 (S=1/80)、町 27-55A690 (S=1/60)、SD500、SK480、451、499 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)

中世大友府内町跡第27-5次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
430		溜まり状			
431					
432					
433	町27-5SF433	道路跡			16世紀末
434	町27-5SX435	道路構築土			16世紀末
435	町27-5SX435	道路跡?			16世紀末
436					
437					
438					
439		溜まり状			16世紀末
440		溜まり状			16世紀末
441					
442		溜まり状			16世紀末
443		溜まり状			16世紀末
444					
445	町27-5SX445	道路構築土			16世紀末
446		ピット		458→446	中世
447					
448	町27-5SP448	ピット		467, 468→448	16世紀後半
449		ピット		479, 487→449	中世
450					
451	町27-5SX451	土坑状			中世
452		ピット			中世
453		ピット		453→458	中世
454		ピット			中世
455		ピット			中世
456		ピット			中世
457					
458		ピット		453→458→446	中世
459					
460	町27-5SP460	ピット			中世
461		溝状			中世
462		ピット			中世
463		ピット		476→463	中世
464		ピット			中世
465	町27-5SA690	柱穴			中世
466	町27-5SA690	柱穴			中世
467		ピット		467→448	中世
468		ピット		468→448	中世
469	町27-5SP469	柱穴		481, 491→469	16世紀後半
470	町27-5SD470	溝状		500→470→483	～16世紀末
471		ピット		471→489	中世
472					
473		ピット		473→467	中世
474					
475					
476		ピット		476→463	中世
477		ピット		498→477	中世
478	町27-5SA690	柱穴			中世
479		ピット		492→479→467	中世
480	町27-5SK480	土坑			中世
481	町27-5SP481	柱穴		481→469, 490	16世紀末
482					
483		ピット		470→483	中世
484					
485					
486					
487		ピット		491→487→449	中世
488					
489		ピット		471→489	中世
490		ピット		481→490	中世
491		ピット		491→469	中世
492		ピット		492→491, 479	中世
493		ピット			
494					
495		ピット		495→480, 453	中世
496		ピット			中世
497					
498		ピット		498→477	中世
499	町27-5SX499	土坑状?			中世
500	町27-5SD500	溝状		500→470, 480	中世
690	町27-5SA690	柱穴列			16世紀後半

中世大友府内町跡第27-5遺物観察表

遺物番号	S番号	品名	目録	図面番号	写真番号	R番号	寸法 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	備考
町27-55F433	S-435P1	国産陶器(陶片)	磁片	第84図10		190	?	6.3+α	?	磁器9本 奥田遺跡中世6期
町27-55K480	S-480地灰褐色土	在地系土師質土器	坏	第85図7		191	(13.2)	3.2+α	?	1期に該当
町27-55K480	S-480地灰褐色土	在地系土師質土器	坏	第85図8		192	?	2.2+α	(8.0)	反転面元
町27-55D470	S-470下層北側	国産陶器(陶片)	磁片	第85図6		193	?	8.1+α	?	反転面元 産物は高台伏に覆を有す
町27-55P460	S-460地灰赤土	瓦器(和京系)	陶	第85図2		194	?	2.5+α	?	条向面元 近世1期 15世紀後半頃?
町27-45P448	S-448	京都市土師器	小皿	第85図1	○	195	?	1.6	(3.6)	表裏面1/2 13世紀中頃前後か? 器入品と思われる
町27-55K480	S-480	京都市土師器	皿	第85図4		196	?	1.7+α	?	4面~8面 口縁下部に土師のたれみかけ残る
町27-55P469	S-469	京都市土師器	皿	第85図3		197	?	2.7+α	?	8期か?
町27-55F433	S-435	青花	陶	第86図11		198	?	4.9+α	?	小野分銅に類似に該当か?
町27-55F433	S-435	植物陶器(造内産)	陶	第86図12		199	?	1.7+α	(8.0)	反転面元 高台タタミ部分の赤褐色染とは異なる
町27-55P477	S-477	金属製品	銅×銀丁	第85図5	○	200	長さ14.3	幅5.6	厚さ1.1	刃部均にばれ有り 形状などから丁の可能性有り
町27-55K451	S-451	白色系土師器	坏	第85図9		285	?	3.3+α	(5.6)	反転面元 大内1期に該当 15世紀後半~

第XV章 中世大友府内町跡第27-6次調査

第1節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第27-6次（以下、「町27-6次」とする。）調査区は、町27-2次の北側、町27-3次の南側に位置し、古絵図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定妙厳寺周辺地に該当する。他の調査区同様、16世紀後半以降に造られたと考えられる道路状遺構やその下位から町27-2SD110から延長する溝状遺構などが発見されている。

発掘調査は松尾聡が、整理・報告は佐藤道文が担当した。

第2節 基本層位

調査地は旧宅地であったため客土層が厚く堆積しており、その下位に耕作土層が認められ、この層を除去すると道路状遺構である硬質の砂礫層が検出される（検出高約3.76 m）。この道路状遺構を掘り下げると基盤層である砂礫層が現れ、溝状遺構が確認される（検出標高約3.44～3.54 m）。

第3節 遺構・遺物

<Ⅰ期> Ⅰ期の遺構には溝状遺構がある。

(1) 溝状遺構（第87図）

町27-6SD516 調査区の西端で検出される南北方向の溝状遺構で、南北約2.16 m、幅約0.6 m + α 、深さ約0.54 mを測る。別遺構が存在していたため、西辺が歪な形状を呈す。16世紀前半までには埋没していたと考えられる。土層から水性堆積は認められない。

町27-6SD517 調査区の西端、SD516の下位で確認される。検出長約3.1 m、幅約0.8 m、深さ約0.2 mを測る。

町27-6SD519 SD517に掘り込まれた状態で確認される。検出長約3.1 m、幅約0.36 m、深さ約0.14 mを測る。

町27-6SD520 調査区の東端で確認され、町27-2SD110から延長するものである。検出長約3.2 m、幅約1 m、深さ約0.25～0.3 mを測る。断面形状は楕円状を呈す。土層観察からは水流痕跡を窺うことはできない。

これら見つかった溝状遺構の主軸方位は、ほぼ真北にある。

(2) 溝状遺構出土遺物（第88図）

10～14は町27-6SD516からの出土である。10は在地系土師質土器坏底部、11は在地系ロクロ目土師質土器の小坏で口縁端部は器壁が厚くなる。12、13は在地系ロクロ目土師質土器の坏の破片で、内面にロクロ目痕を顕著に残す。14は在地系土師質土器の坏で器高が深く、底部から緩やかに外反しながら立ち上がる。15～17は町27-6SD520から出土した。15は在地系土師質土器の坏底部。16は瓦質土器の風炉の破片と思われ、外面には壺状工具による縦方向の削りが行われ、装飾をなしている。17は在地系土師質土器の坏で器壁は厚く、端部は外反する。

<Ⅱ期> Ⅱ期の遺構には道路状遺構と思われる硬質な土層がある

(3) 道路状遺構×聖地層（第87、88図）

町27-6SX507・512 溝状遺構を掘った状態で検出される硬質の土層で、道路状遺構の構築土と考えられる。検出標高は約3.5～3.6 mである。東から西に向って高くなる。

(4) 道路状遺構×聖地層出土遺物（第87図）

3～8は町27-6SX512から出土したものである。3は縄文土器深鉢の破片と思われ、西平式にあたる、4は熊泉窯系白磁碗または花瓶の高台部である。5、6は在地系ロクロ目土師質土器の坏底部である。7は中国産白磁の皿で、森田E群に該当する。8は縄文土器で西平式の深鉢口縁部である。9も縄文土器深鉢の破片で、紋様から西平式の可能性が高い。

<Ⅲ期> 当該期の遺構には柱穴遺構、整地層がある。

(5) 性格不明遺構 (第 88 図)

町 27-6SX510 調査区の東側で確認される。二重の掘り方を有し、1 辺約 0.8 m の方形の掘り方の中に、径 0.7 m の規模を有す平面円形のピットが掘り込まれる。段掘り状を呈し、深さ約 0.7 m を測る。検出から掘り下げを進めると拳大程度の礫が多く出土する。施絶後の地固めに伴うものと考えられる。土層観察からは柱痕は尠く取られなかった。

(6) 性格不明遺構出土遺物 (第 88 図)

18、19 は町 27-6SX510 からの出土で、18 は在地系クロロ目土師質土器の坏底部、19 は備前焼掘鉢口縁部で中世 5 期に比定される。

(7) 整地層 (第 87 図)

町 27-6SX506 調査区の中央から東にかけて広がる硬質な土層である。この整地層は町 27-2、7 次調査区でも確認できる。SX506 を基盤として SX510 やピット群が掘り込まれる。

(8) 整地層出土遺物 (第 87 図)

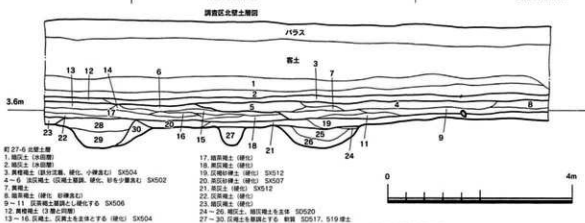
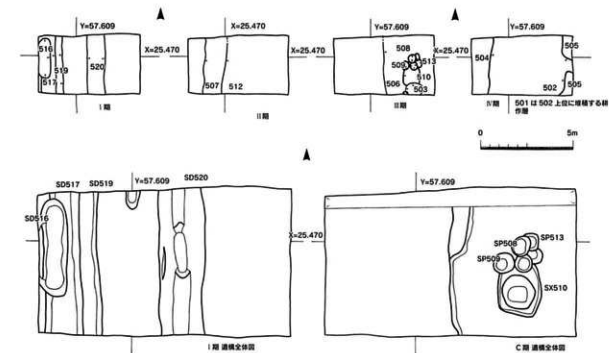
1 は町 27-6SX506 からの出土であり、備前焼掘鉢口縁部で中世 5 期 a～b に該当する。2 は瓦質土器火鉢の破片で、3 条の突帯が付される。

<Ⅳ期> Ⅳ期の遺構は道路状遺構のみである。

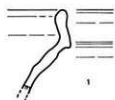
(9) 道路状遺構 (第 87 図)

町 27-6SF504 古い段階の道路状遺構で、第Ⅱ層群が該当する。道路構築土のみで明確な路面は確認されていない。調査区の西側が高く、東に向かって次第に低くなる。検出標高は約 3.72 m である。

町 27-6SF502 現状では最も新しい道路状遺構である。明確な路面は見つかっていない。前段階の道路跡は東西に高低差があり、レベルの低い東側に硬質土を敷き入れ、高低差を無くし、全体を水平にして調査区外へと広がる。時期比定可能な遺物は出ていないが、周辺の状況から 16 世紀後半以降に造られたと考えられる。



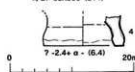
町27-6SX506



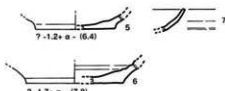
町27-6SX506



町27-6SX506 (S14)

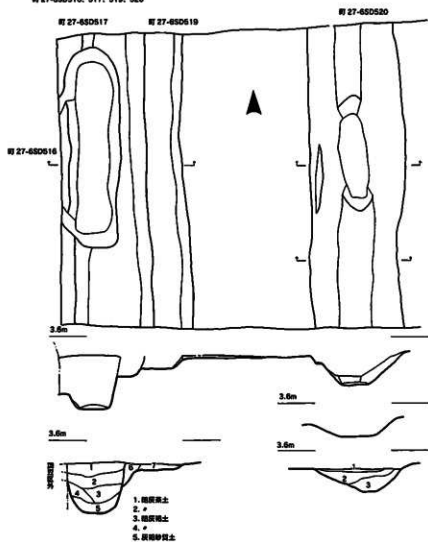


町27-6SF512 (S15)

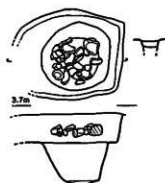


第87図 町27-6次 遺構配置図 (S=1/200)、遺構全体図 (S=1/80)、調査区北壁土層図 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)

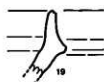
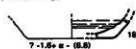
町 27-6SD516, 517, 519, 520



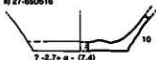
町 27-6SD510



町 27-6SX510 地底



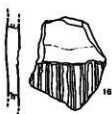
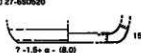
町 27-6SD516



町 27-6SD516 地底土 (9.2) - 1.7+ a - 7



町 27-6SD520



町 27-6SD520 下層



第 88 図 町 27-6SD516・517・519・520、SX510 平面図・断面図 (S=1/40)、各遺構出土遺物 (S=1/3)

中世大友府内町跡第27-6次遺構台帳①

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
500	町27-6SF502	道路状			～16世紀末
501					
502	町27-6SF502	道路状		510→503	～16世紀代
503		ビット			16世紀代
504	町27-6SF504	道路状			～16世紀後半
505		溜まり状		502→505	16世紀末?
506	町27-6SX506	整地層			16世紀
507	町27-6SX507	道路×整地			
508		ビット		513→508	16世紀代?
509		ビット		510→509	16世紀代?
510	町27-6SX510	柱穴状?		510→503, 509	16世紀代?
511					
512	町27-6SX512	整地層			16世紀代?
513		ビット		513→508	16世紀代?
514	町27-6SX512				
515	町27-6SX512				
516	町27-6SD516	溝状		517→516	～16世紀後半
517	町27-6SD517	溝状		519→517→516	
518	町27-6SX512	道路状			
519	町27-6SD519	溝状		519→517→516	
520	町27-6SD520	溝状			15世紀後半?

中世大友府内町跡第 27-6 2次B区遺物観察表①

遺構番号	S番号	種類	器種	図層番号	写真番号	R番号	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	備 考
町27-6SF502	S-500P2A	瓦葺土層	火鉢	第87層2		201	?	5.1-a	?	TOP27.3 S-233出土と同一か?
町27-6SX510	S-510柱直	陶板(陶板)	陶板			202	?	5.2-a	?	奈良編年中期5期(15世紀後半)
町27-6SX510	S-510柱直	在地系ロクロ目土師質土層	環			203	?	1.6-a	(6.8)	反転層
町27-6SX506	SX506	陶板(陶板)	陶板	第87層1		204	?	6.7-a	?	奈良編年中期5期(15世紀後半)
町27-6SD516	S-516暗灰褐色土	在地系ロクロ目土師質土層	小片	第88層11		205	(9.2)	2.1-a	?	反転層 内部ロクロ目土師質
町27-6SD516	S-516暗灰褐色土	在地系ロクロ目土師質土層	環	第88層12		206	?	2.2-a	?	
町27-6SX512	S-512	縄文土層	深鉢	第87層3		207	高さ23-a	幅0.0-a	厚さ0.6	西平式? 縄文後期
町27-6SX512	S-514	青磁	陶×花皿?	第87層4		208	?	2.4-a	(6.4)	反転層
町27-6SX512	S-515	在地系ロクロ目土師質土層	環	第87層6		209	?	1.7-a	(7.8)	反転層
町27-6SX512	S-515	在地系ロクロ目土師質土層	環	第87層5		210	?	1.2-a	(6.4)	反転層 内部土師質土層で段々削り出している
町27-6SX512	S-515	白磁	皿	第87層7		211	?	1.7-a	?	奈良前期
町27-6SD516	S-516暗灰褐色土	在地系土師質土層	環	第88層14		212	(12.6)	3.8-a	?	反転層 ハコ型タイプ 器高が深い
町27-6SD516	S-516土層	在地系土師質土層	環	第88層10		213	?	2.7-a	(7.4)	反転層 ハコ型 直線的で器高が低い
町27-6SD516	S-516陶板	在地系ロクロ目土師質土層	環	第88層13		214	?	2.1-a	?	
町27-6SD520	S-520下層	在地系土師質土層	環	第88層17		215	(13.4)	3.8-a	?	器高 器高は10cm程度 横径 横径は10cm程度
町27-6SD520	S-520 5cm下	瓦葺土層	火鉢×風炉	第88層16	○	216	?	7.0-a	?	器高 器高は10cm程度 横径 横径は10cm程度
町27-6SD520	S-520 5cm下	在地系土師質土層	環	第88層15		217	?	1.5-a	(8.0)	器高 器高は10cm程度 横径 横径は10cm程度
町27-6SX512	S-515	縄文土層 (赤褐色)	深鉢?	第87層9		218	?	5.2-a	?	板本有り 縄文式?
町27-6SX512	S-515	縄文土層		第87層8		219	?	3.8-a	?	板本有り

第XVI章 中世大友府内町跡第27-7次調査

第1節 調査の状況及び整理の方法

中世大友府内町跡第27-7次（以下、「町27-7次」とする。）調査区は、古絵図や復原想定図によると、中世府内町の最西部に位置する南北街路及び推定妙厳寺、御北町周辺地に該当する。調査の結果、16世紀後半以降に造られたと考えられる道路状遺構を含む、4期に分かれる遺構検出面が確認された。道路状遺構下位からは、整地層、南北方向に伸びる柱穴列、層の基礎と考えられる柱穴列、大量の礫を内包する大型土坑、溝状遺構などが見つかった。この中で、上記2つの柱穴列は、間層（整地層）を挟み、ほぼ同一地点に構築されていることから、調査区及びその周辺の遺跡の性格を把握する上で注目される。

調査は、隣接地への通開口を確保するため、反転して行なっている。発掘調査は松尾聡が、整理・報告は佐藤道文が担当した。

第2節 基本層位

調査地には厚さ約0.7～0.8mにわたって客土、砂層によって埋め立てられ、その下位には耕作土層があり、それを除去すると、水田作用によって鉄分を多く含む褐色を帯びる硬質な砂礫土が検出される（検出高約3.8m）。当初、この褐色砂礫土は耕作土の一部と捉えていたが、周辺の調査状況を見ると最も新しい段階の道路状遺構になる可能性が高い。道路状遺構を掘り下げると、灰茶色を呈す整地層が表出する（検出高約3.6m）。掘り下げを進めると、準大の礫を含む硬質な茶灰色土層が認められ、この下の層には、径約1mを有する掘り方をもった柱穴状遺構の基盤面である整地層がある（検出高約3.45～3.5m）。整地層を掘り除くと最終基盤層である黄褐色土が現れ、最も古い段階の遺構群を確認することができる。最終遺構検出面の標高は約3.3m～3.4mである。

第3節 遺構・遺物

<1期>

1期の遺構には柱穴列、溝状遺構、ピット群、連続土坑等がある。

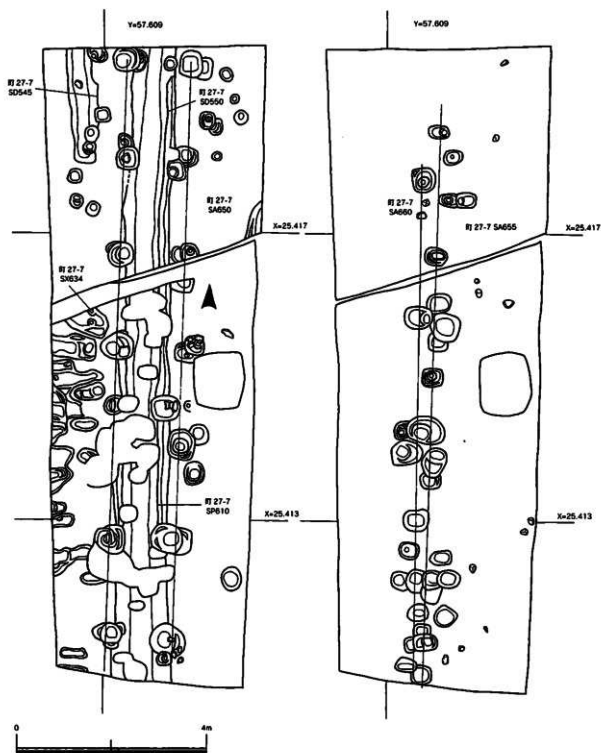
(1) 柱穴列（第91図）

町27-7SA650 調査区の中央で南北方向に伸びる柱穴列である。柱穴が2基並列し、現状では6間、長さ約12m分確認している。柱穴径は約0.4～0.7m、深さ約0.5～0.9mを測り、通常みられる柱穴跡と比較して、しっかりした構造をしている。柱痕跡から柱径は0.1～0.2mに復原される。南北方向の柱間寸法はほぼ2.0mで揃い、柱穴列Aと柱穴列Bの距離も約1.4mで統一されている。主軸方向はN-4°-Eをとる。平面、断面構造から推測すると、欄もしくは塀等の基礎遺構になると思われる。その時期であるが、出土遺物には在地系土質土器の破片があり、その特徴から14世紀中頃～15世紀前半の範囲で捉えられる。

町27次、27-2次調査区においても、同様の柱穴列が見つかった。但し、町27-2次では、その柱穴列が途切れていることを考えると、この地点が北限になる可能性は極めて高く、同一施設とした場合、現段階の全長は約53mである。

(2) 柱穴列出土遺物（第91図）

1～10は、町27-7SA650の掘り方から出土したもので、10を除き、他は在地系土質土器破片である。1、4は坏底部から体部への立ち上り部分である。1は回転ヘラ削りにより段が生じる。2、3、5は坏口縁部で2は肥厚し、端部は丸く仕上げられる。3は直線的に伸び、端部は先細り気味になる。6は小坏で、全体的に器壁が厚く、端部は丸くなる。7は坏で、復元口径が16.6cmと大型品である。体部は強いナデのため外反し、端部内面は面取りが行なわれる。8、9は坏底部で、体部との境には回転ヘラ削りが施される。そのためか、高台状を呈す。10は緑釉陶器で、削り出しにより高台が作られる。畿内産と考えられる。



第 90 図 町 27-7 次 遺構全体図 (S=1/80)

(3) 溝状遺構 (第 92 図)

町 27-7SD545 調査区北側で確認した、南北方向に伸びる溝状遺構である。検出長は、長さ約 2.4 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.14 m を測る。横断面は楕円状を呈し、底面はフラットである。水流痕跡は認められない。その時期は、15 世紀前後におかれる。

町 27-7SD550・610 調査区中央を南北に縦断する溝状遺構で、反転調査のため S 番号を分けて付している。新旧関係から SA650 より古く位置付けられる。検出長は約 10.4 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.2 m を測り、横断面は楕円状を呈す。主軸方位は N-2° -E をとる。土層観察から、一度掘り返しが行なわれていることが分かるが、水流痕跡は認められない。町 27 次 A 区では、この SD550 の延長部が見つかり、町 27-2 次、6 次では規模、形状が類似する溝状遺構が存在していることから、同一時期に機能した可能性が高い。但し、町 27 次 B 区では、溝状遺構が見られないことから、空地であったと考えられる。

復原想定図によると、B 区周辺は、大友館の北側に位置する御北町に通じる東西道路及び府内のまちの要所に築かれる木戸の推定地とされている。調査の結果、その推定を裏付ける遺構が発見されている。これらは 16 世紀末段階の状況であるが、前述した溝状遺構の配置から、B 区地点は古い時期からの場の利用が踏襲されていたと推測される。

(4) 溝状遺構出土遺物 (第 92 図)

11～13 は町 27-7SD545 出土のものである。11 は在地系土師質土器の坏である。その法量から 15 世紀代前後になると考えられる。12 は瓦質土器浅鉢Ⅱ型の口縁部で、外面には菊花文のスタンプが付される。13 は土師質土器の鍋で、口縁内面が強いナデのために窪み、そのため端部が直立する。その特徴から土類 A 系の系譜になると思われる。14～24 は町 27-7SD550 (610) から見つかったものである。14 は在地系土師質土器の小坏である。形状から 15 世紀代に位置される。15 は中世 3 期に該当する備前焼浅鉢口縁部である。16 は在地系クロロ目土師質土器坏底部。他の遺物と比較して時期差があることから混入の可能性が高い。17 は在地系土師質土器の小坏で、取皿底部に直線的に外反する口縁を有す。18 は在地系土師質土器の坏底部で、復元底径約 8.6cm を測る。19～23 は在地系土師質土器坏で、19、20 は形状が類似し、底部から直線的に立ち、口縁部はやや外反する。また、端部は面取りが行なわれており、稜線が生じる。21、23 は肉厚的であり、端部は概やかに外反する。22 は坏底部で、復元底径は 9.0 cm を測る。24 は瓦質土器割鉢片口部分で、断面は M 字状をなす。これらを編年案に照らし合わせると、SD550 が機能していたのは、14 世紀後半から 15 世紀初めまでの間とすることができる。

(5) 竪穴式遺構 (第 94 図)

町 27-7SX630 調査区東壁付近で確認され、南北約 5.4 m + α、東西約 1.65 m + α、深さは 0.5 m の規模を有し、区外へと広がる。現状では平面隅丸方形を呈すと思われる。検出段階では、SX630 は青灰色土で被覆されていた。青灰色土は第Ⅲ期の SX596 にあたるもので、それを除去すると拳大～人頭大程度の礫が大量に現れる。礫群はその大部分が扁平な面を上に向けていたことから、意図的に入れられた可能性が高い。礫を取り除くと軟質な土層が認められる。これらのことから、礫群は、当初機能していた大型の掘り込みが埋まった（埋めた）あとに、その後行なわれる整地作業の際の補強材として使用されたと考えられる。

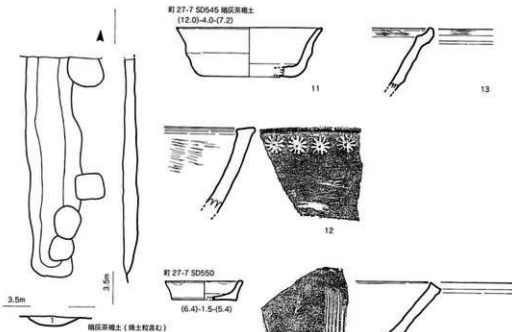
(6) 竪穴式遺構 (町 27-7SX630) 出土遺物 (第 94 図)

25～27 は全て在地系土師質土器で、25 は小坏、26、27 は坏である。破片資料ではあるが、27 は復元底径が約 8.6cm を測り、器高もやや高い状況が見られることから 14 世紀後半～15 世紀前半代に位置付けることができる。

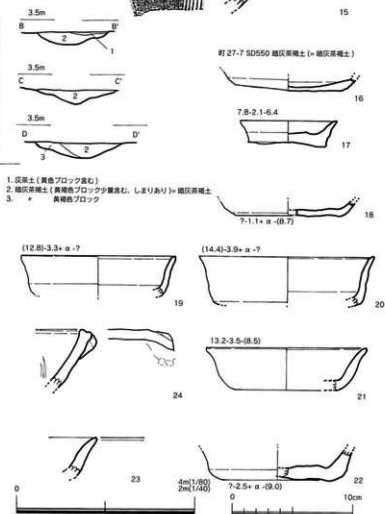
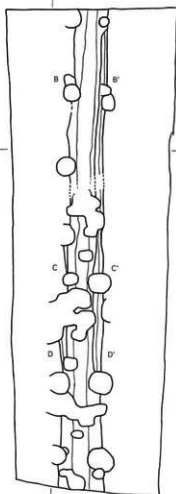
(7) 土坑群 (第 93 図)

町 27-7SX556 調査区西側壁面沿いで、東西に長辺を有す土坑群が南北に約 9 m、帯状に連なった状態で検出された。それぞれが小規模な溝状を呈しており、断面形状は逆台形をなし、深さは約 0.3～0.6 m を測る。埋土はほぼ

町 27-7 SD545

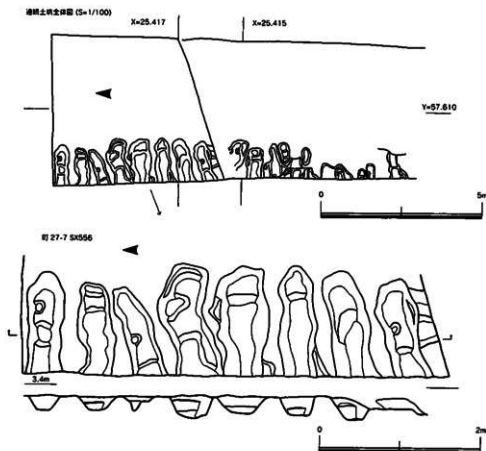


町 27-7 SD550・610



1. 灰系土 (黄色ブロック含む)
2. 焼灰系雑土 (黄色ブロック少量含む、しまりあり) = 焼灰系雑土
3. * 黄色ブロック

第 92 図 町 27-7SD545・550 (=S-610) 平面図、断面図、土層図 (S=1/40、1/80)、出土遺物 (S=1/3)



第 94 図 町 27-7SX556 平面図、断面図 (S=1/40, 1/80)

灰茶褐土単一層で共通されることから、短期間で埋められたと考えられる。但し、地山ブロックなどの混入物は含まれない。

土坑群は、調査区北側では、明確に確認することができるが、中央から南側にかけては不明瞭で、平面プランも曖昧な様子であった。また、他の調査地点を見ると、町 27 次 A 区を除き見つからないことから、造られる場所が限定されていることが分かる。

このような土坑群は、通常波板状凹凸面や連続土坑と呼ばれている。大分市の事例においては、下部追跡群（第 69、98、99 次）で、古代（8 世紀中頃～9 世紀後半：6 段階に分かれる）に比定される道路状遺構が調査されており、その路面の下位から、同様な形状をもった掘り込みが確認されている。これらは現段階では、路床強化のための施設であると考えられている。SX556 でも、路面と思われる小礫を含む硬質な土層を上位に認めることができるため、下部追跡群同様、路床強化のための施設であるといえよう。

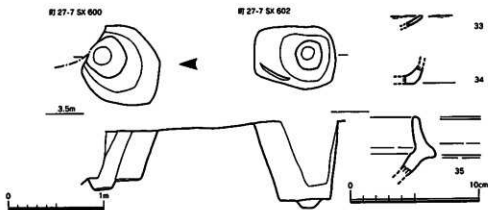
(8) 性格不明遺構

町 27-7SX606（第 89 図） 調査区の中央東壁付近で見られる不整形なプランを有す窪み状の遺構で、南北約 10 m にわたって検出される。明確な掘り方をもたないことから、上位に認められる整地行為に伴うことが推測される。

町 27-7SX624（第 89 図） 調査区中央西側で確認される、南北約 2.1 m 平面方形を呈す遺構で、SX624 を掘り下げると連続する土坑群 SX556 の一部が現れる。

(9) 性格不明遺構出土遺物（第 89 図）

28 は町 27-7SX606 から出土した管状土鍋で、中位に最大径を有す。29、30 は町 27-7SX624 から出土したもので、



第95図 町27-7SX600・602平面図・断面図、出土遺物 (S=1/3)

29は在地系土師質土器で、口縁部は欠損する。器高が高く底径が大きいタイプで、14世紀後半～15世紀前半の範囲で考えられる。30は瓦質土器片である。15世紀代のものか。

町27-7SX615、629からはサメの歯が出土している（遺物写真参照）。平面三角形を呈し、縁部には鋸状になっている。大きさは約2cm（縦方向）を測る。その形状から、メジロサメのものと推定される。

＜Ⅱ期＞ Ⅱ期の遺構には、竪地遺構、柱穴状遺構などがある。

(10) 柱穴状遺構 (第95図)

町27-7SX600・602 調査区中央付近で検出される柱穴状遺構である。平面形状、規模が類似するものが、南北に2基並んで配置している。現状では、南方方向に向けて伸びることが推測される。SX600は径約0.8m、深さ約0.6m、SX602は径約0.8m、深さ約0.9mを測る。両遺構とも掘り方内部に柱痕跡が認められ、約0.2～0.24mに復原することができ、柱間寸法は約2.1mになる。出土遺物から15世紀中頃以降に構築されたと考えられる。

(11) 柱穴状遺構出土遺物 (第95図)

33は町27-7SX600の柱痕跡から出土したもので、龍泉窯系青磁の綾花皿口縁部である。34、35は町27-7SX602出土で、34は在地系土師質土器底部、35は中世5期aに該当する備前焼摺鉢口縁部である。

(12) 道路状遺構、竪地状遺構 (第89、97図)

町27-7SF598 Ⅰ期に該当する遺構群を被覆する厚さ5～8cmを有する硬質な土層で、主に灰褐色を呈す。検出段階では、小礫が多く認められており、このことから古い段階の道路面と考えられる。第97図の第Ⅳ層群がこれに該当する。SF598の下位には路面強化施設である土坑群SX556が確認される。検出標高は約3.4mを測る。SF598を基盤とし、SX600、602が形成される。

出土遺物には高麗産陶器の壺 (第97図-51) がある。淡灰青色を呈し、白色粒子（石英）を多く含んでいる。町27-7SX589 SX588の下位にある竪地層で、古い段階の道路状遺構 (SF598) を構成するものと思われる。第Ⅳ層群がこれにあたる。出土遺物には在地系土師質土器小坏 (第97図46)、在地系ロクロ目土師質土器小坏 (47)、瓦質土器鍋口縁部 (48) がある。46は外面に回転ヘラ削りの痕跡を残す。口縁部が強いナデのため屈曲する。47は内面のロクロ目痕を丁寧にナデ消している。48は口縁部が直立する。

＜Ⅲ期＞

施設などは無く、竪地状の遺構（堆積）のみである。SX539、540は調査区の北側で検出される土層で、準大程度の礫が少数、不規則な状態で出土する。SX595は、SX630の埋め戻し土であるSX596の上面に堆積する土層である。

これらの土層は、縦断面を見るとほぼ水平に、版築状に敷かれている様子が分かる。大部分は硬く締まっているが、砂や砂利などの道路状遺構（路面）を示す痕跡を認めることはできず、それは、上位の土中からも確認することはできない。現状では、整地作業の一部であると推測される。

町 27-7SX596 からは、中世 5 期 b ～ 6 期 a に該当する備前焼榑鉢口縁部（第 97 図 50）が出土している。

<Ⅳ期> 樹跡、ビット、整地状遺構がある。

(13) 柱穴列（第 96 図）

町 27-7SA655 調査区中央を南北方向に伸びる柱穴列で、現状では 5 間分（長さ約 11.4 m）確認されている。柱穴径は約 0.3 ～ 0.4 m、深さ約 0.5 ～ 0.7 m を測り、平面楕円形または隅丸方形を呈し、柱痕跡より柱径は約 0.1 m に復原される。柱間寸法は、2.0 m ～ 2.6 m と不揃いである。主軸方位は N-1° -E をとる。出土遺物から 16 世紀後半に比定される。

町 27-7SA660 SA655 同様、調査区を南北に伸びる柱穴列で、4 間分（長さ約 9.0 m）確認している。柱穴径は約 0.4 ～ 0.7 m、深さ約 0.6 ～ 0.9 m を測り、その規模は SA655 を上回る。掘り方形は円形もしくは隅丸方形を呈す。柱間寸法は、2.0 m ～ 2.9 m とばらつきがあり、柱穴列北側の方がその距離が長い。主軸方位は N-2° -E をとる。出土遺物から、16 世紀後半に構築されたと考えられる。

(14) 柱穴列出土遺物（第 89 図、96 図）

31、32 は町 27-7SA660a より出土した在地系土師質土器で、器高が高く、底径が大きいタイプである。36 は町 27-7SA655e から出土した京都系土師器皿の口縁部で、Ⅲ期に該当すると思われる。37、38 は町 27-7SA660c 出土の京都系土師器皿で、37 はⅢ期、38 はやや古手でⅡ期に位置付けられるものである。

検出された柱穴、ビット群の分布をみると、大きく 3 地点にまとまっており、同一地点において建替えが行なわれていたと推測され、また、これら柱穴群は、柱穴列を構成するものも含め、硬質な整地土を基盤から掘り込まれ、深さ約 0.4 m 以上を有するものが多く、安定した構造の建物（施設）が存在していたと考えられる。

(15) 整地状遺構（第 97 図）

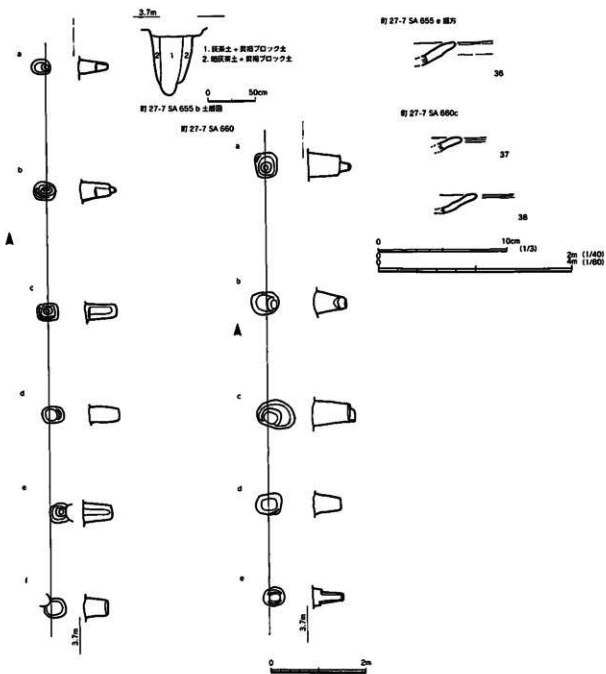
町 27-7SX584 SA655、660 の基盤となる層である。SF533 の下位で、ほぼ水平に堆積する茶灰色を呈する硬質な土層である。検出標高は約 3.6 m 前後である。第 97 図 42 ～ 45 は在地系ロクロ目土師質土器で、42 ～ 44 は口径 10 cm 以下の小坏、45 は坏である。すべて逆ハの字状を呈す。45 は外面にロクロ目痕が顕著に見られるが、内面は丁寧にナデ消している。また、器高も高い。底部から体部の屈曲部の段は不明瞭で、体部から口縁部は緩やかに外反する。やや古手のタイプか。

<Ⅰ期> この段階の遺構は、道路状遺構のみである。

(16) 道路状遺構（第 97 図）

町 27-7SF533 調査区全面を覆う硬質な砂礫土で、他の調査区同様、最終段階の道路状遺構である。第 97 図の第Ⅰ層群がこれに該当する。茶褐色を主体とし、小礫、砂質土を多く内包する。調査区の東壁において、南北に約 2 m の範囲で、路面舗装と思われる、溝状に小礫が集中する部分がある。状況から東西方向を意識して敷かれた可能性がある。但し、上位に見られる耕作土層中には、部分的に砂礫を多く含む箇所があり、このことから路面の大半は削平されていると思われる。出土遺物及び他の調査区との関係から、構築時期は 16 世紀後半以降であるといえる。

町 27-7 SA 655



第 96 図 町 27-7SA655、660 平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物 (S=1/3)

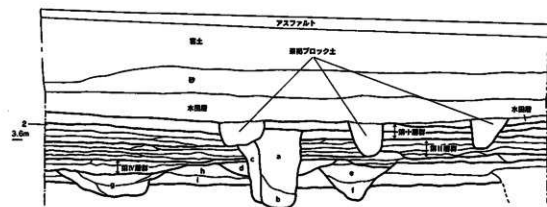


図 27-75F532

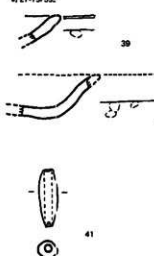


図 27-75S584(15-582)

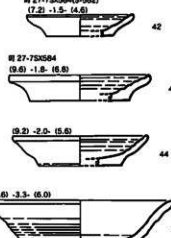


図 27-75S589

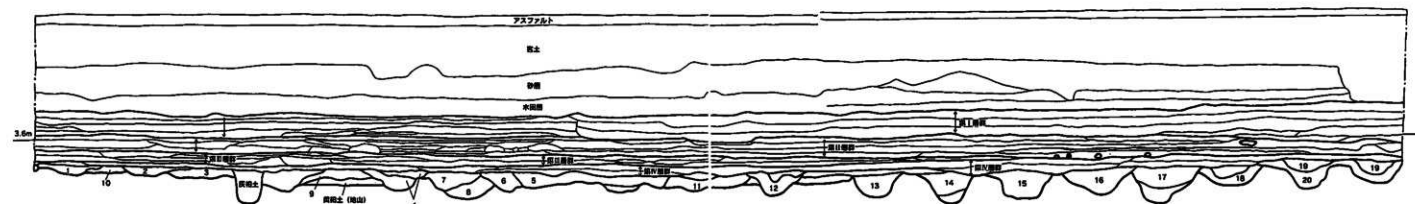
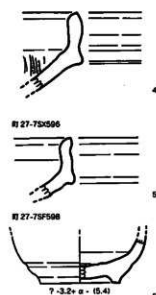
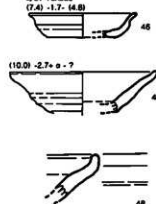


図 97 西 北壁土層図

図 1 砂層 灰土層・灰土層砂質土を主体とする。小礫、砂質土を多く含む。図 1 砂層の断面
状態図 = SX533
図 2 砂層 灰土層・灰土層砂質土を主体とし、砂質土などが認められる。全体的に硬質である。
この砂層の断面には砂層が多く認められる。土中には炭化層などを含む。
IV層に位置づけられる図 2 砂層が埋り込まれる = SX584
図 3 砂層 灰土層・灰土層砂質土を主体とし、砂質土も多く認められる。大部分は硬く締ま
っている。SX530 などの上位に埋め込まれる土層で、SX596 がこれに該当する。
図 4 砂層 灰土層・灰土層砂質土を主体とする。I 層に該当する図 2 砂層を被覆し、砂層なども少
量認められる。下位には、不定形の連続土層がある。図 4 では、最も古い図 2 砂層の
図である = SF598

a 図 1 砂層

b 灰土層
c 砂層
d 砂層 (1:1 (SX550・810 層土))
e 灰土層 (灰土プロックを含む)
f 灰土層
g 灰土層
h 灰土層 (埋め込み?)

図 97 西 北壁土層図

1 ~ 20 f 灰土・灰土層を主体とする。西壁砂層 (SF584) の下層砂層の土層 (埋め込み土)。
上層に埋め込まれた状態で、砂層は認められない。部分的にプロック土を内包する。

中世大友府内町跡第27-7次遺構台帳①

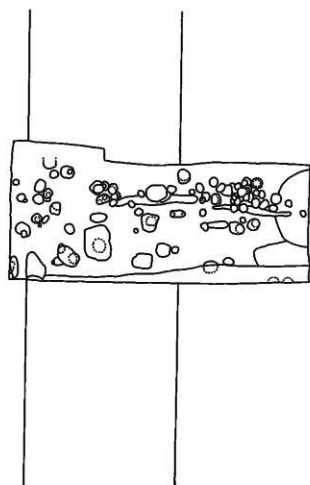
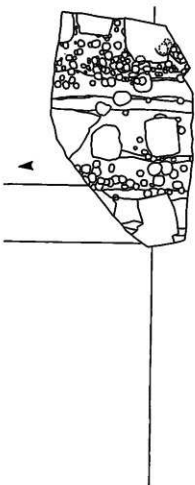
S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
530		溝状			近世以降
531		水田層	淡灰土		
532		溝状		532→530	
533	町27-7SF533	道路状遺構	個別図参照		16世紀後半～
534		柱穴	灰黄褐色ブロック土→暗茶土(柱痕)		
535		溝状			
536		ピット	灰茶土・黄褐色土		
537	町27-7SF533	道路構築土	暗灰褐色土		16世紀後半～
538		道路構築土	灰茶褐色土	539→540→538	16世紀後半～
539	町27-7SX539	整地層	暗灰褐色土	539→540→538	16世紀代?
540	町27-7SX540	整地層	淡灰褐色土	539→540→538	16世紀代?
541		整地層	暗茶褐色土	541→539→540	
542	町27-7SA660a	柱穴	暗灰茶褐色土→灰黄褐色ブロック土(柱痕)		16世紀後半
543		道路構築土?	暗茶土		中世
544		道路構築土?	灰黄褐色土		中世
545	町27-7SD545	溝状		545→547	15世紀後半
546		ピット	暗灰褐色土	550→546	中世
547		ピット	暗灰褐色土		中世
548		ピット	暗灰褐色土		中世
549		柱穴	暗茶褐色土→灰茶ブロック土(柱痕)	550→549	中世
550	町27-7SD550	溝状			15世紀代
551		ピット	灰褐色土		中世
552		ピット?	暗灰褐色土		中世
553		柱穴	暗茶灰黄褐色ブロック土→暗灰ブロック土(柱痕)	550→553	15世紀代
554		ピット	淡灰褐色土	563→554	
555					
556	町27-7SX556	連続土坑			15世紀代?
557		柱穴	灰黄土→暗灰ブロック土(柱痕)		中世
558		柱穴	灰茶土→暗灰褐色土(柱痕)		中世
559		ピット	灰茶土		中世
560		柱穴	灰褐色ブロック土		中世
561	町27-7SF533	道路構築土	黄褐色土		16世紀後半～
562	町27-7SF533	道路構築土	茶褐色土・小砂礫土		16世紀後半～
563		ピット	暗灰茶褐色土	563→554	
564		道路構築土	茶褐色砂質土		中世
565	町27-7SA660d	ピット	黒灰褐色土・黄褐色土		16世紀後半
566		道路構築土	灰褐色土		中世
567	町27-7SA660b	柱穴	暗茶褐色土→灰茶土	584→578→567	16世紀後半
568		ピット	灰茶褐色土・黄褐色土		
569		柱穴	暗灰褐色土→淡灰茶土	584→569	
570		柱穴	暗茶褐色土→灰茶土		
571		ピット	灰茶土		
572	町27-7SA660c	ピット	灰茶褐色土		16世紀後半
573		ピット	灰茶ブロック土		中世
574		柱穴	暗灰褐色土→灰褐色土(柱痕)		中世
575		道路構築土	砂礫土		中世
576		ピット	茶褐色土	590→576	中世
577		柱穴	茶褐色土	577→571	中世
578		ピット	灰褐色土・黄褐色土	578→586	中世
579		ピット	灰黄褐色土		中世
580		ピット	暗灰褐色土・黄茶土(砂質)	580→579→577	中世
581		ピット	茶褐色ブロック土		中世
582	S-584と同一				
583		ピット	灰茶褐色土→黄土ブロック土	584→583→572	
584	町27-7SX584	道路構築土	茶褐色土		16世紀初頭
585		柱穴	灰茶土→暗茶褐色土		
586		ピット	灰茶褐色土		
587	町27-7SX587	道路×整地	黒褐色土(炭多く含む)	588→587→599	
588	町27-7SX588	道路×整地			中世
589	町27-7SX589	道路×整地	暗灰茶褐色土	589→588	16世紀初頭
590		ピット	暗茶褐色土	590→576	
591		ピット	灰茶褐色土		

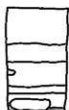
中世大友府内町跡第27-7次遺構台帳②

S番号	遺構番号	性格	層位	新旧関係	時期
592		ビット	灰茶土・黄褐土		
593		柱穴	黄褐茶土・暗茶褐土(柱痕)		
594		ビット	灰茶土・黄褐土		
595	町27-7SX595	道路×竪地	茶褐土(炭・焼土を多く含む)	596→595→588	
596	町27-7SX596	道路×竪地	青灰褐土		
597		道路×竪地	暗灰茶褐砂質土		
598	町27-7SF598	道路状遺構	茶灰砂礫土	598→597	15世紀代
599		道路×竪地	青灰土	587→599	15世紀後半
600	町27-7SX600	柱穴	黄灰褐土→灰黄褐土(柱痕)	598→603→600	15世紀後半～
601		道路×竪地	茶褐土(かなり硬化 準大～人頭大礫含む)		15世紀代
602	町27-7SX602	柱穴	灰黄茶土→灰黄褐土(柱痕)		15世紀後半～
603		柱穴	灰茶土・黄灰土	598→603→600	中世
604		ビット	灰茶土		中世
605	町27-7SX605	道路×竪地	暗茶土		中世
606	町27-7SX606	道路×竪地	灰褐土	620, 621→606	中世
607		柱穴	茶灰土→灰褐土		中世
608			灰褐土		中世
609		ビット	灰茶褐土		中世
610	町27-7SD550	溝状	暗灰褐土		15世紀代
611	町27-7SX606	道路×竪地	灰褐土		中世
612		ビット	濃灰褐土	550→637→612	中世
613		ビット	暗灰褐土	550→623→613	中世
614		ビット	茶灰土		中世
615	町27-7SX615	土坑	青灰土	624→615	中世
616		ビット	灰褐土	550→616	中世
617		ビット	灰褐土		中世
618		柱穴	茶灰土→暗灰褐土(柱痕)		中世
619		柱穴	茶灰土→暗灰褐土(柱痕)		中世
620		柱穴	灰茶褐土→黄褐土		中世
621		ビット	暗灰褐土		中世
622		柱穴	暗灰黄褐土→灰茶褐土(柱痕)	550→622	中世
623		ビット	暗褐土		中世
624	町27-7SX624	溝まり状	灰褐土	631, 634, 635→624	14世紀後半～
625		柱穴	茶灰土→灰褐土(柱痕)		中世
626		ビット	灰褐土→茶褐土		中世
627		ビット	暗灰褐土	550→627→621	中世
628		竪地層	灰褐茶土		中世
629	町27-7SX629	連続土坑?	濃灰褐土		
630	町27-7SX630	集石	青灰褐土	607→630→606	15世紀代?
631		土坑	灰褐土		
632		ビット	灰茶褐土		
633		柱穴	灰茶褐土→灰褐土	636→633	
634	町27-7SX634	土坑	灰褐土		
635	町27-7SX635	土坑	灰褐土		
636		ビット	茶灰粘質土		中世
637		ビット	茶灰粘質土		中世
638		柱穴	黄茶土→灰褐土(柱痕)		中世
639		ビット	暗茶土		中世
640	町27-7SX640	溝状	青灰褐土→濃青灰褐土→暗灰茶褐土	640→630	中世
641		竪地層	灰茶土・黄褐土		
642					
643					
644					
645	町27-7SA645	柱穴列			15世紀代
646					
647					
648					
649					
650	町27-7SA650	柱穴列			
651					
652					
653					
654					
655	町27-7SA655	柱穴列			16世紀後半
656					
657					
658					
659					
660	町27-7SA660	柱穴列			16世紀後半

中世大友府内町跡第25-5 次遺物観察表

遺物番号	S 番号	種類	図面番号	写真番号	尺 寸	口 径	身長 (cm)	厚 身 (cm)	備 考
町 27-7S4500a	S-554 浅灰色土	在布系土質土器	遺物見 1	221	?	?	2.2-α	?	やや直立するタイプ
町 27-7S4545	S-545	在布系土質土器	遺物見 16	222	?	?	3.0-α	?	底部と上部のタイプにより異なる
町 27-7S4550	S-550 上層 (暗灰色土)	在布系土質土器	遺物見 16	223	?	?	1.1-α	8.7	粗雑な感じ
町 27-7S4560a	S-620	在布系土質土器	遺物見 4	224	?	?	1.7-α	?	丸みをもった形
町 27-7S4560b	S-620	在布系土質土器	遺物見 2	225	?	?	1.3-α	?	
町 27-7S4560c	S-620	在布系土質土器	遺物見 3	226	?	?	2.0-α	?	
町 27-7S4560d	S-613	緑褐色土	遺物見 10	227	?	?	2.3-α	?	反転面元
町 27-7S4560e	S-613	緑褐色土	遺物見 35	228	?	?	2.2-α	(10.1)	反転面元 全面磨蝕 削り出し高台 器内底の可能性が高い
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 35	229	?	?	4.6-α	?	赤褐色の中層 4 期も ~ 15 世紀中頃
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 35	230	?	?	1.3-α	?	15 世紀代 ハコ型の小鉢
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	231	?	?	3.2-α	(5.4)	高瀬川の西側で底面外周には垂直磨蝕を呈して底面した面跡有り 面々しい感じ
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	232	?	?	4.1-α	?	高瀬川の西側で底面外周には垂直磨蝕を呈して底面した面跡有り 面々しい感じ
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	233	?	?	3.5-α	(9.8)	底面から測定すると口径は 13cm 程度
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	234	?	?	1.7	(4.4)	反転面元 ロウロクタイプに入るのか? 外面に削りによりロウロク目面有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	235	?	?	27-α	(100)	反転面元 内面には段がみられない。丁寧なナデ打しのめか
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	236	?	?	2.3-α	?	上部分割 D 型
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	237	?	?	3.2-α	?	防犯系に類似するが端部の状況と分異なる。古手?
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	238	?	?	5.3-α	?	1 期 ~ 16 世紀後半?
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	239	?	?	1.4-α	?	1 期 ~ 16 世紀後半?
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	240	?	?	1.0-α	?	1 期 ~ 16 世紀後半?
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	241	?	長さ 3.8	幅 1.4	厚さ 1.2	完形品で尊孔部に使用による欠損部の認められる
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	242	?	?	2.9-α	4.4	
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	243	?	?	3.3-α	?	反転面元 ハコ型
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	244	?	?	2.4-α	?	反転面元 内面口縁下位に段やな段がある
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	245	?	?	4.1-α	?	反転面元 裏 245 と同一 - 細体と推定される
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	246	?	?	1.2-α	(9.0)	反転面元 口縁下位ナデの残存有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	247	?	?	1.7-α	?	口縁 口縁下位ナデの残存有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	248	?	長さ 4.8-α	幅 1.7	厚さ 1.6	中位が丸く磨蝕が強い。他の遺物から同様のものがある
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	249	?	(16.6)	2.8-α	?	反転面元 全体に磨いて。口縁内面は面磨りのため段が生じる
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	250	?	?	2.4-α	?	
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	251	?	8.7	1.9	6.8	底面から鉢への立ち上がり部分ナデのため丸くなる。口縁欠損
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	252	?	5.8-α	?	10.0	底面から鉢への立ち上がり部分ナデのため丸くなる。口縁欠損
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	253	?	3.6-α	?	?	底面から鉢への立ち上がり部分ナデのため丸くなる。口縁欠損
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	254	?	6.5-α	?	?	底面から鉢への立ち上がり部分ナデのため丸くなる。口縁欠損
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	255	?	4.9-α	?	?	口縁内面 口縁上磨蝕ナデのため丸くなる
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	256	?	7.9	1.7 ~ 2.1	6.4	磨蝕を多く含むが丁寧な作りである。やや古手のタイプか
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	257	?	(14.4)	3.9-α	?	反転面元 口縁内面 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	258	?	(12.8)	3.3-α	?	反転面元 口縁内面 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	259	?	1.2-α	(8.6)	(8.6)	反転面元 内面ナデ 外面には面磨によるケズリ痕有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	260	?	(12.6)	3.3	(3.3)	反転面元 内面口縁目状の磨蝕有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	261	?	(9.2)	2.0	(5.6)	反転面元 内面口縁目状の磨蝕有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	262	?	(9.6)	1.8	(6.8)	反転面元 口縁面磨蝕丸く仕上げられる
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	263	?	(7.2)	1.5	(4.6)	反転面元 2 次磨いてより現れているため本来の色面磨ひは不明
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	264	?	?	2.8-α	?	反転面元 2 次磨いてより現れているため本来の色面磨ひは不明
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	265	?	1.8-α	?	?	反転面元 2 次磨いてより現れているため本来の色面磨ひは不明
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	266	?	長さ 4.7-α	幅 3.5	厚さ 1.7	全面に使用面磨きされる タテ、ヨコ、斜めと面磨である
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	267	?	(6.4)	1.5	(5.4)	反転面元
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	268	?	1.8-α	?	?	反転面元
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	269	?	3.2-α	?	?	反転面元 全体に磨いて磨き 磨き・面磨、粗・ナデ面磨な形
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	270	?	2.5-α	?	?	反転面元 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	271	?	(12.0)	4.0	(7.2)	反転面元 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	272	?	7.0-α	?	?	反転面元 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	273	?	5.1-α	?	?	反転面元 面磨り長尺の磨り有り
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	286	?	(13.2)	3.5	(8.5)	反転面元
町 27-7S4602	S-602 覆方	在布系土質土器	遺物見 51	287	?	7.8	3.4	5.7	反転面元

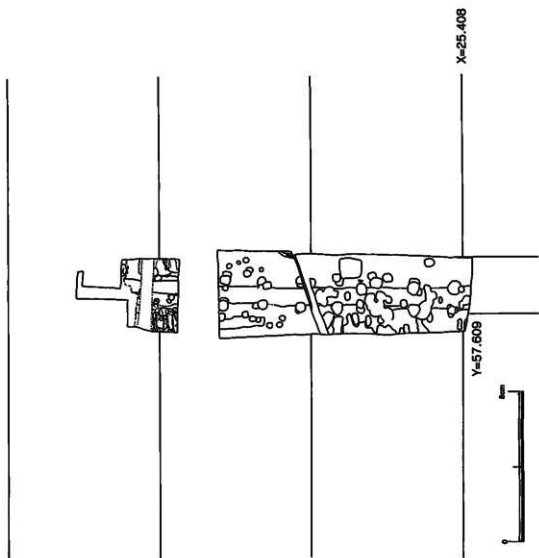




X=25.464



X=25.440



写真図版



町 25 次～町 25-4 次調査区全景（空中写真）



町 25 次調査区全景（北より）



調査区東壁土層詳細（西より）



町 25 次耕作痕跡



SD020 完掘時 (西より)



SD030 完掘時



SD035 完掘時 (西より)



SD040 完掘時 (東より)



SD050 完掘時 (東より)



調査風景



町 25-3 次遺構検出時 (南より)



町 25-3 西壁土層 (南東より)



町 25-3SD006 完掘時



町 25-3SD013 土層観察時



町 25-3SD013 完掘時 (北より)



町 25-3SA050 全風景 (南より)



町 25-3 次調査区全景 (南より)



町 25-4SX010・SD001 土層観察時 (東より)



町 25-5 次調査区全景 (南より)



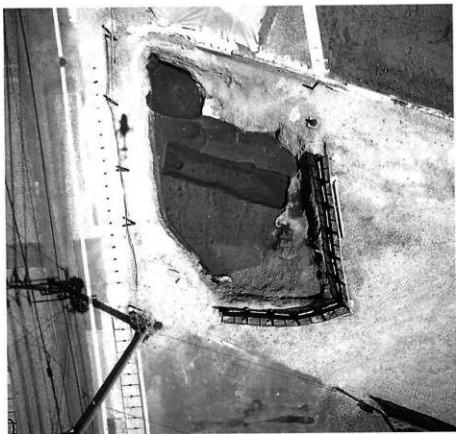
調査区西壁土層観察時 (東より)



東西土層観察時 (北より)



東西土層観察時詳細 (北より)



町 25-7 次 A 区全景 (空中写真)



町 25-7ASD001 土層観察時 (東より)



町 25-7ASD001 完掘時 (東より)



町 25-7B 区全景 (南東より)



町 25-7BSD004 完掘時 (東より)



町 25-8A 区全景 (南より)



町 25-8B 区全景 (南より)



町 25-8C 区全景 (北より)



第 27-1 次 A 調査区空中写真 (上が東)



第 27-1 次 B 調査区空中写真 (上が東)



27-1 次 A 区南壁土層断面



B 区 S052 検出状況① (南から)



B 区 S052 柱穴検出状況② (南から)



B 区 S052 検出状況③ (南から)



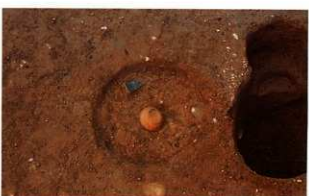
B 区 S052 完掘状況④ (南から)



B 区 S052 西壁土層断面



B 区 SK62 柱穴検出状況 (南から)



B 区 SK62 出土状況 (南から)



53-7 外



53-7 内



55-1



53-6 上



53-6 T



46-1



53-8 上



53-8 横



58-1



53-13



53-15



53-14



53-2



49-7



53-16

※写真右下番号は本文図版番号と同じ。



A 区 S005 検出状況 (南から)



A 区西側波板状圧痕検出状況 (東から)



A 区東側工杭など検出状況 (東から)



A 区溝状遺構完掘状況 (東から)



A 区完掘状況 (東から)



B 区 S100 東壁土層断面 (西から)



B 区 S100 完掘状況 (東から)



B 区 3 面目検出状況 (南から)



A 区南壁西側土層断面図



A 区 SD04 出土状況 (東から)



A 区西側波板状圧痕検出状況 (東から)



A 区西側波板状圧痕完掘状況 (東から)



A 区作業風景



B 区 S052 検出状況 (南から)



B 区 S052 遺物出土状況 (南から)



B 区 SK62 出土状況② (南から)



B 区 SD069 西側土層断面 (東から)



B 区 S100 検出状況 (東から)



B 区 S100 掘り下げ状況 (東から)



B 区第 4 面検出状況 (西から)



B 区第 3 面検出状況 (南から)



B 区最終面完掘状況 (西から)



B 区調査区西壁土層断面 (東から)



B 区調査区南壁土層断面 (北から)



B 区 SD069 検出状況 (南から)



B 区 SD069 完掘状況と土層断面



B 区 5 面目検出状況



27-1 次 B 区完掘状況 (南から)



※写真右下番号は本文図版と同じ。



町 27-2 次Ⅲ期遺構全景（南より）



町 27-2 次Ⅱ期 SF130 全景（北より）



町 27-2SX144 遺物出土状況（北より）



町 27-2SX144 遺物出土状況詳細



Ⅲ期柱穴群検出時（北より）



Ⅲ期柱穴群完掘時（北より）



SX144 検出時（北より）



SX144 完掘時（北より）



SF130 破散き詳細（北より）



I期遺構検出時（南より）



I期遺構全景（北より）



調査区北壁土層観察時（南より）



道路状遺構検出時（空中写真）



遺構検出時（南より SF210 下位）



遺構全景（南より）



調査区北壁土層観察時（南より）



SE270 土層観察時



SE270 詳細



SE270 完掘時



SE296 完掘時 (北東より)



SD280 検出時 (北より)



SD280 完掘時 (北より)



SX290 検出時 (南より)



SX290 遺物出土状況 (西より)



SX290 完掘時 (南より)



町 27-4 次調査区全景 (空中写真)



町 27-4 次調査区全景その 2 (東より)



路床材検出時（東より）



遺構検出時（東より）



SD315・345・360 全景（南より）



SD305・355 完掘時（北より）



SD305・355 土層観察時（南より）



SD355 土層観察時（西より）



SX334 完掘時（南より）



SX316 完掘時（北より）



町 27-5 次調査区全景（空中写真）



調査区西壁土層観察時（北より）



Ⅲ期遺構検出時 (南より)



SF433 検出時 (南より)



SF433 下位路床材検出時 (南より)



Ⅰ期遺構検出時 (南より)



Ⅰ期遺構完掘時 (南より)



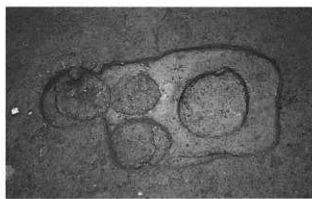
SD500 完掘時 (東より)



調査区北壁土層観察時 (南より)



町 27-6 次調査区全景 (空中写真)



SX510 検出時 (西より)



SX510 断割状況 (西より)



SX510 礫出土状況 (西より)



SX510 土層観察時 (西より)



SX510 完掘時 (西より)



路床材出土状況 (南より)



I 期道橋完掘時 (南より)



町 27-7 次調査区南側全景 (空中写真)



全景その 2 (北より)



北側調査区西壁土層（東より）



南側調査区西壁土層（東より）



南側調査区南壁土層（北より）



路床林検出時（南より）



SD550 完堀時（南より）



北側調査区全景（北より）



SX556 完堀時（南より）



道路状遺構検出時（11期 北より）



11期道路下位検出時（北より）



SD610(550) 完堀時（北より）



SX630 礫出土状況（北より）



SX630 礫出土状況その 2 (東より)



SX630(640) 完壁時 (北より)



SX630 土層観察時 (北より)



南側調査区東壁土層 (西より)



南側調査区東壁土層その 2 (西より)



SD610 土層観察時 (北より)



町 25SD015 灰色土



10-40



7-13



10-42



9-38



17-11



27-7



31-38



68-22



68-21



68-20



68-18



68-19



68-24



68-23



町 27-2 8X133



69-28



71-4



75-30



72-11



74-23



町 27-3SE296 R-133



77-60



77-59



77-76



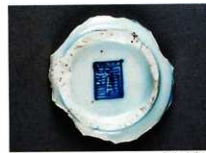
73-20



76-44



83-45 表



83-45 裏



83-46



町 27-4SF302



町 27-4SD305 R-152



80-17



80-15



81-32



83-47



78-4



78-8 表



78-8 下



82-44



85-1



町 27-5 S-348



85-5 断面



85-5



88-16



町 27-6 SD516



97-51



97-51 裏



91-10



町 27-7

報告書抄録

ふ り な が	おおともふない9
書 名	大友府内9
副 書 名	都市計画道路六坊新中島線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
巻 次	
シ リ ー ズ 名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第69集
執 筆 者 名	佐藤 道文 五十川 雄也 松尾 聡 水町裕子
編 集 機 関	大分市教育委員会
所 在 地	〒870-0046 大分市荷揚町2番31号 TEL097(534)6111
発 行 年 月 日	西暦2007年3月31日

ふりがな 遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちゅうせいいむねともじょうかまちあと 中世大友城下町跡	おおいたしひもとくまち ちゅうめい 大分市顕徳町3丁目 ちゅうせいいむねともじょうかまち 六坊北町	44201	322051	33度 13分49秒	131度 36分57秒	2003.5~	1014 m ²	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友府内町跡 25次、25-3~5次、 7~9次、 27次~27-7次		室町時代 戦国時代 江戸時代	道路状遺構 井戸跡 土器埋置遺構 溝状遺構 柱穴群	京都系土師器 土師質土器 青磁 白磁 瓦質土器 白色系土師器	町27次では、木戸跡と 推定される遺構を確認 16世紀後半以降の南北 街路を確認

大友府内 9

平成 19 年 3 月 31 日

発 行 大分市教育委員会
〒870-0046 大分市荷揚町 2 番 31 号

印 刷 九州凸版印刷株式会社